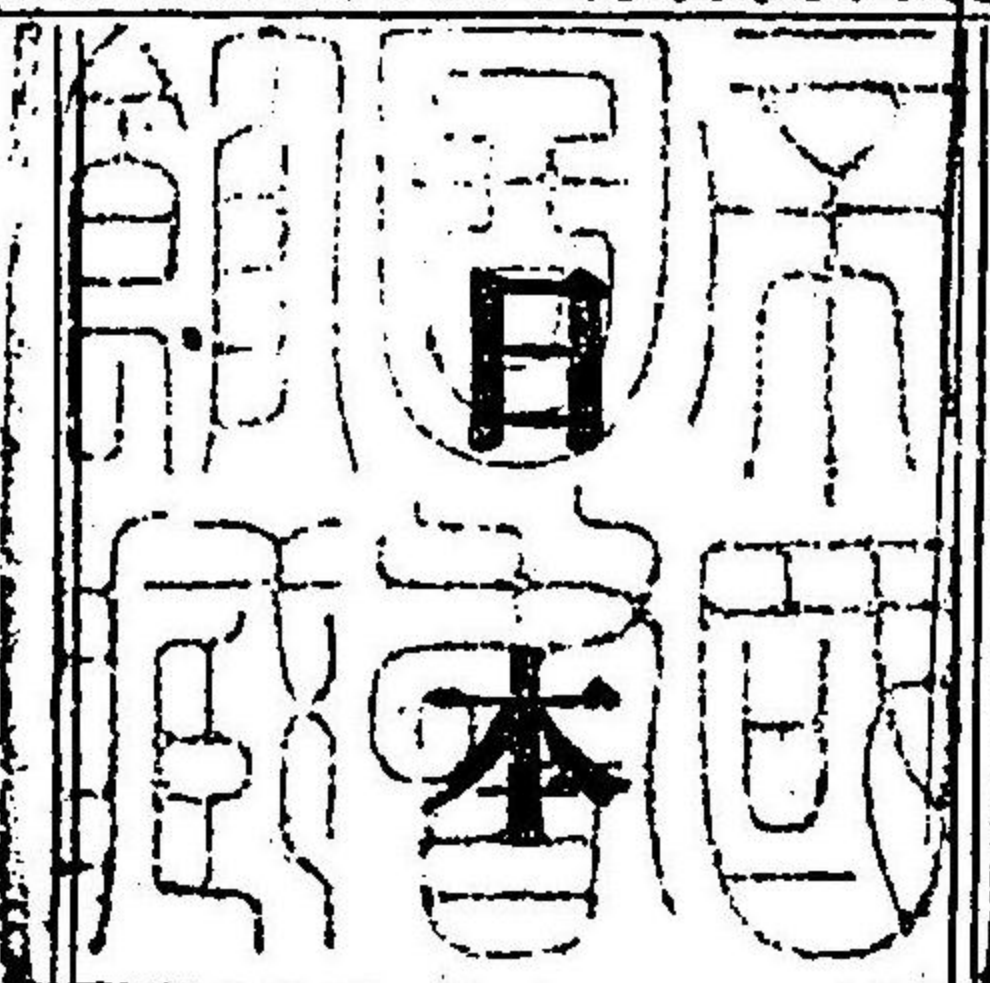


高等師範學校
講師

矢津昌永講述

(非賣品)



地理講義

不許翻刻

大日本中學會

日本地理目次

總論	一
地方誌	五二
畿內誌	五二
北海道誌	六一
東山道誌	八三
北陸道誌	一〇二
山陽道誌	一一五
山陰道誌	一二四
南海道誌	一三五
西海道誌	一四六
琉球群島	一六六
北海道誌	一六九

(一) 目次

日本地理目次

總論

地方誌

 畿內誌

 北海道誌

 東山道誌

 北陸道誌

 山陽道誌

 山陰道誌

 南海道誌

 西海道誌

 琉球群島

 北海道誌

日本地理目次終

臺灣群島澎湖諸嶼	二八〇
朝鮮群島	一六六
西日本東部圖	一七〇
西日本西部圖	一七六
山形海峽圖	一七九
山嶺群全圖	一八四
津島海峽	一八二
東山嶺群	八三
津島嶺群	六一
嶺内嶺	五二
嶺外嶺	五二
嶺	一

日本地理講義

日本地理總論

講師 矢津昌永

○位置 我大日本帝國は北半球中亞細亞洲の東邊北太平洋中に列羅する島國なり國王の極西は英國威爾斯の東經百十九度二十分なる澎湖島中の花嶼より起り極東は東經百五十六度三十二分なる千島の占守島に至る又南端は北緯二十一度四十八分なる臺灣南岬より起り北端は北緯五十度五十六分なる千島アライト島に至る中央緯度は凡北緯三十六度にして東京長野福井等を通過す是を以て我帝國の位置は寒かからず暑かからず地球上最優等部に位せり

○境域 我邦の境界は西方なる支那とは僅に黃海及び東海を隔て澎湖島と支那廈門との間は僅に一海峽を隔つ朝鮮とは一層相接近し九州と朝鮮南角とは狭き朝鮮海峽を隔て長崎と釜山間は百六十二哩にして對州と釜山とは僅に十八哩なり又西北なる露領西伯利も只一の日本海を隔て北方は千島群島によりて露領カ

ムナトカ半島に接し北海道宗谷岬によりて樺太島と相臨み内にアコーツク海を抱く然れども其東南は地球上最も廣大なる太平洋に臨めば北米大陸までは遙かの海波を以て隔たれり

○地勢 我島國の形勢は東北より斜に西南に延ぶと凡そ一千百十里間に羅列する群島にして重なるもの五大島あり中央の最大島は本洲にして次に大なるは北にありて蝦夷島と呼び西南にある大島を九州と云ひ其東に隣なるを四國とし以上四大島より稍々南に距る大島を臺灣と云ひ其他佐渡淡路對馬隱岐登岐等は稍々大なるものにして千島列島琉球群島は北及南に延へり其外小島を合すれば殆ど四千島あり

○面積 帝國の面積は日清戰爭の結果により臺灣及澎湖島の面積二千二百六十八方里を加へ茲に二万七千六百六十二方里(二十六万五千二百方哩)となれり各土地の面積左の如し

本州	一四、五七一方里	千島	一、〇三三方里
四國	一、一八一一方里	琉球	一五七方里
九州	二、六一七方里	其他諸島	一七三方里

臺灣及澎湖島 五、〇六二方里 合計 二四、七九四方里

總計 二七、〇六二方里

右各島の面積を百分比例により之を示せば本州は全國の五十四分蝦夷は全國の十九分にして本州とは殆ど三と一との比に當り九州は全國の十分にして本州の五分の一餘なり是を以て蝦夷島とは殆ど二と一の比なり而して四國は全國の四分餘にして之を二倍すれば九州より稍々小に之を四倍すれば凡そ蝦夷島に同じく又台灣は全國の八分にして九州の弟島とも謂ふべし

○區畫 全國(琉球台灣を除く)を畿内八道に分ち更に之を八十四國に分つ其名稱左の如し

- (一)畿内 五國 山城●大和●河内●和泉●攝津
- (二)東海道十五國 伊賀●伊勢●志摩●尾張●三河●遠江●駿河●甲斐●伊豆 相模●武藏●安房●上總●下總●常陸
- (三)東山道十三國 近江●美濃●飛彈●信濃●上野●下野●磐城●岩代●陸前 陸中●陸奥●羽前●羽後

(四) 北陸道七國 若狹●越前●加賀●能登●越中●越後●佐渡

(五) 山陰道八國 丹波●丹後●但馬●因幡●伯耆●出雲●石見●隱岐

(六) 山陽道八國 播磨●美作●備前●備中●備後●安藝●周防●長門

(七) 南海道六國 紀伊●淡路●阿波●讃岐●伊豫●土佐

(八) 西海道十一國 筑前●筑後●豊前●豊後●肥前●肥後●日向●大隅●薩摩
 壹岐●對馬●附琉球

(九) 北海道十一國 渡島●後志●石狩●天塩●北見●膽振●日高●十勝●釧路
 根室●千島

(十) 臺灣 臺北●新竹●臺中●嘉義●臺南●鳳山●宜蘭●臺東●澎湖島

右の内東山道の近江以下下野まで六國を中仙道と稱し磐城以下の七國は舊稱に従ひ奥羽或は東北地方と云ふ●山陰山陽の兩道を稱して中國と云ふ●國は又州と稱することあり城州(山)武州(武)信州(信)の如き其例なり

○住民 我邦の住民は國土の割合に比すれば多數にして明治二十八年末に於て四、千、二、百、十、七、万、人あり而して既往二十年間の平均一年の増加は三十八萬人なれば

は毎年三十八萬人宛は少なくも増加するものと計算して大差なし實に夥しき數と云ふへし而して人口中に男子多く其超過は凡四十万餘なり即ち男百人に付き女九十八人弱の割合なり以上の外台灣に二百五万の人口あり

一方里内に對する住民の數は恰も一千六百人(三才トスレ)にして世界第一の稠密と稱せらるゝ白耳義和蘭を除く外大抵皆我國の下位にあり故に到る處人口溢れん計りにて其集居所なる都會少からす現に人口十万以上の大都會六個五万以上の都會十三個二万以上の小都會二百六個の多きに及ぶ○人口は多く平原地の流域に群集するを以て最も密なる所三所あり第一關東平原第二は畿内平原第三は濃尾平原なり此等の平原には一方里に十万人以上の割合を以て住めり又最も稀疎なる所は北海道にして僅に七十人に過ぎず次に東北の中央内地も人口稀なる所にして凡百五十人以下の住民なり而して臺灣は凡そ九百人なり

○地形 日本の地形は狹長にして其中央には連綿たる山系の貫通するを以て到る處山岳多く平原に乏しき所謂山國なり而して我國土を構造するに兩大山系あり一を樺太山系と云ひ他を崑崙山系と云ふ

(一) 樺太山系は北東なる樺太島に起り直に南に走りて蝦夷島に渡り蝦夷と本州との間には陥没あれども再び起りて本州地盤となりて南西に趨り遂に本州の中部に達せり(二) 崑崙山系は其地脈遠く支那大陸の崑崙山脈より延くを以て名けられ南西より北東に趨る山系なり則ち九州の西部より斜に中國並に四國に亘り遂に本州の中央部に達し樺太山系と相會せり故に我邦土は島嶼數千相隔離すれども其實此兩山系の率ゆる隆起帯にして地脈互に連絡せり而して樺太崑崙の兩山系の相接合する處は地勢の弱點なり地下熱は此弱點に噴起し富士山を初めとし高峻なる火山ありて本邦中最も高隆せる所となれり此を富士帶と稱し是より南東に走り伊豆半島より大平洋中に出て伊豆七島小笠原群島及硫黃島を噴起せり是を以て本州中央(地誌)より北東の陸地は樺太山系を地體として構造し又其南西の陸地は崑崙山系を基脚として構造せり是を以て地學上樺太山系に屬する土地を北日本と云ひ崑崙山系に屬するものを南日本と稱せり

而して樺太崑崙の兩山系も數派の山脈に分れ其間處々に火山噴起して我日本を構造せり今山脈の重要なるものを擧ぐれば左の如し

樺太山系に屬するもの

- (一) 蝦夷山脈 (二) 北上山脈 (三) 阿武隈山脈 (四) 關東山脈
- (五) 千島火山脈 (六) 島海火山脈 (七) 中央火山脈
- (八) 東部沿岸火山脈

崑崙山系に屬するもの

- (一) 九州山脈 (二) 四國山脈 (三) 紀伊山脈 (四) 赤石山脈
- (五) 中國山脈 (六) 美濃飛驒山脈 (七) 霧島火山脈
- (八) 阿蘇火山脈 (九) 西部沿岸火山脈

樺太崑崙兩山系の接合所に富士帶の一派あり

○ 樺太山系 樺太山系に屬する北日本の水成岩山脈は(一) 蝦夷山脈は北海道の中央を斜に宗谷岬より襟裳岬に貫く山脈にして中央に於て千島火山と相交又し最も高峻を極む(二) 北上山脈は北日本の東岸なる北上川の岸に沿ふ山脈なるを以て此名あり其脈北より南に走れり(三) 阿武隈山脈は北上山脈の南方に現はれ北上山脈と一致の方向に走り阿武隈川の沿岸にあるを以て名けられたり(四) 關東山脈は關東平野の西北隅にありて秩父山小佛峠等を成せり

北日本の火山脈を擧れば(五) 千島火山脈は千島列島を噴起し北海道東端より其の

中央を亘りて西端にまで達するものなり(六)鳥海火山脈は北日本の北岸を地形に沿ふて北東より南西に走るものにして鳥海山は其主なるものなり(七)中央火山脈は北日本の中央を西南に走り自ら地形を東岸西岸に兩分する高峻にして且つ最も長き山脈なり(八)東部沿岸火山脈は日本海の沿岸を南西に走る火山脈にして是れ又高山多し

○崑崙山系 崑崙山系に屬する南日本の水成岩山脈は(一)九州山脈は北派南派の二つに分れたり其北派は九州島の北部を北東に亘り中國に連る山脈にして南派は島の南部を斜に北東に横さり四國に亘る山脈なり(二)四國山脈は九州南派山脈を受けて四國島の中央を北東に亘り其脊梁となる山脈なり(三)紀伊山脈は四國山脈の端を受けて紀伊より志摩に連る山脈なり(四)赤石山脈は紀伊山脈の一旦伊勢の海に陥りたるもの、再び三河遠江の境に現はれたる山脈にして其方向北東を趨り頗る高峻なり(五)中國山脈は山陽山陰兩道の境上を殆ど東西に走る山脈なり(六)美濃飛驒山脈は美濃の境より飛驒に亘りて我邦の大高原を組成する山脈にし

て彼の木曾山の如きは其一部分なり

南日本の火山脈は九州に霧島火山脈あり此脈は臺灣の西北邊より琉球帯の西面に沿ふて九州の南端に連り數多の火山を有せり霧島山は此脈の盟主なり(八)阿蘇火山脈は九州山脈の南北兩派の間なる阿蘇山を起點として中國四國の兩山脈間なる瀬戸内を経て本州の中央を走れり(九)西部沿岸火山脈は日本海北岸を東に走り遂に白山に終るものなり故に或は白山火山脈の稱あり

富士帶 此火山脈は富士の高峰を其主山とし北には淺間南に箱根等の高山就ふて群立し直に南に走りて伊豆半島の突出となり遂に太平洋上を馳せて豆南諸島小笠原島の如きを噴起してマリアナ群島に連る著しき火山脈にして海洋中に海底山脈をなせり

前述の諸山脈は皆本州中央なる信濃の境上に會せり其山脈中高山少からず就中富士(駿河)鎗岳(信濃)穂高山(全上)乗鞍岳(全上)御岳(全上)白峯(甲斐)駒ヶ岳(全上)赤石山(駿河)の八峯は其高さ概ね一、万尺内外に聳へたり又淺間(信濃)霧島(日向)阿蘇(肥後)那須(下野)三原山(伊豆)大島等の諸火山は現に噴烟活潑なる大火山なり

○水誌 我日本の地形は狭長にして山脉地形に沿ふて連亘するか故に水系は皆中央の山脉に分水せられて両側なる太平洋及び日本海に入る是を以て河道總て短く長流に乏し其中稍長大なるものは必ち兩山脉の峽間を沿ふて流るゝものゝみ蝦夷島の石狩川、天鹽川、十勝川、本州の信濃川、木曾川、北上川、阿武隈川、天龍川、富士川、紀ノ川、江ノ川の如き四國の吉野川、九州の筑後川、球磨川の如き皆峽間を山脉に沿ふて流るゝ大河なり然れども分水嶺に遠き平野の間を流るゝものは稍々長大なるものなきにあらす利根川、最上川、御物川、能代川の如き其例なり以上の内、石狩、信濃、利根は我三大河にして球磨、最上、富士を三急流とす

我邦の河流は高地の間を下るを以て急灘多く舟運甚た乏し且つ高地を急に下り平原に瀉けは忽ち停滯の姿となり雨水の多き時は大河の流域は必ず氾濫の害を被るへし然れども灌漑の利は大、概享くるとを得流域には水田多く我邦の生産地は多く大河流域なり又河の吐口特に河水の築ける三稜州の地は人類の生計に最も便なるを以て繁盛なる都邑多からず河流と都邑とは其關係親密なり

○原野 原野は穀物、菜蔬等總て農産物の産所にして人類生活の要素の存する所

なり本邦は其地形により廣大の平野なし只山脉の峽間又は海濱の地等狭き平原に過ぎず○關東、平野は第一の廣原にして八州に亘り凡そ百三十方里ある地味膏腴の冲積土なり●畿内、平野は第二に位する廣原にして五州に亘り土地又肥沃古より繁盛なる平原なり●濃尾、平野は美濃、尾張に亘る冲積層の平野にして、石狩、平原は石狩川の流域を占め、筑紫、平野は九州の筑紫海に濱する平原なり其他宮城野、瀬戸内平原、越ノ平原、讃岐平原等あり皆肥沃の低原なり又高原も少からずと雖も狭小なり

○湖沼 陸地の間に水の滯ゆるもの之を湖或は沼と謂ふ、今我邦湖水の大なるものを舉ぐれば近江の琵琶湖は第一の大湖にして周圍五十九里餘あり嵐船湖上を往來し宛然海の觀あり其他、霞浦、常陸猪苗代湖、岩代、八郎瀨、羽後、中海、伯耆、兵道湖、出雲、印旛沼、下總、十和田湖、陸奥、糠間湖、北見、樺、連湖、根室は何れも周回十里以上の大湖なり

○海岸 海岸線出入の多少は大に國の文野に關す海岸線の出入多きときは港灣等文化輸入の門戸開け其國は必ず進歩すべき優勝の地形とす○本邦海岸線は出

入甚た多く之を延長する時は無慮七千四百九十六里に及び国土の面積と比較するときは幅員三方里六に付一里の海岸線なり此割合は世界に其比少し故に内海灣港に富めることも亦其比少し●先づ本州に就て觀れば其海岸線一千九百五十三里太平洋に面する出入の重なるものは北端に斗南半島津輕山嘴ありて陸奥灣を抱き以南陸中海岸は其出入恰も犬牙に似たり牡鹿岬突出して松島灣を擁し房總半島出て、東京灣あり伊豆半島の突出によりて駿河灣あり尾張に知多岬出て東に衣浦西に伊勢の海あり紀伊の岬は遠く太平洋に突出せり●紀伊と四國との間は紀伊水道と稱し四國山脈と紀伊山脈との陥没所なり此海峽を入れば瀬戸内海にして其沿岸は出入非常に多きも皆小に僅に大坂灣兒島半島あるのみ●本州の日本海岸線は出入に乏しきも其延長は凡八百里に及び男鹿半島能登半島越中灣若狹入江島根半島は其重なる出入なり●千島列島の六百十三里を合すれば其延長一千九百九十六里に及び岬形赤鯉の尾を振ふか如く最も著しきを宗谷岬襟裳岬の両翼とす知床岬出て、花咲灣あるは其頭部にして渡嶋半

嶋は其尾に當り火山灣は尾間の入海なり而して渡嶋半嶋と本州との海峽は之を津輕峽と云ふ

九州島の海岸は出入頗る多く其長さ八百六十一里あり其出入は特に西部に夥しく肥前は剪彩機を以て西に突出し以て筑紫灣を包み島原松浦彼杵の諸半島あり薩隅は兩股の如し股間を鹿兒島灣とす國東半嶋は瀬戸内海に突出して豊後内海を抱き佐賀關は四國と對し門司ヶ關は中國と早瀬海峽を挟む

四國は嶋形兩翼を張る蝙蝠の如し梶取三崎巖岐の兩岬は瀬戸内海に突出して伊豫灣を擁し室戸陸岬の兩岬は太平洋に出て、土佐灣を抱けり而して一岬の長く西を指して九州と連絡を求めんとするか如きは御崎と稱し其海峽は即ち早吸峽なり此海峽は九州山脈の南派が陥りて開く水道にして御崎か連絡を求めんとするか如きは陥没の餘脈が四國山脈の端を示せるものなり

臺灣嶋は木葉形をなし海岸線は頗る短純なり西岸は稍々出入あれども東岸は灣に乏しきか如し北角の富基角及南端の南岬は最も著しき突出にして基隆灣打狗灣は重なる灣入り而して全島海岸線の延長は四百二十七里に過ぎず

○港津 我邦の海岸線は以上の如く出入あるを以て良港少なからず横濱、神戸、長崎、新潟、函館を本邦の五港と稱し之に大坂港を加へ共に外國との貿易場とす其他下の關博、多摩、原、對馬、鹿見、佐須、奈對馬、宮津、丹後、の六港は朝鮮に限る通商貿易港にして四日市、伊勢、三角、肥後、口、津、肥前、博多、小樽、後志、門司、豊前、下の關、長門、伏木、越中、唐津、肥前、釧路、室蘭、膽振、の十一港は特別輸出港と稱して米、麥、麥粉、石炭、硫黃の五品を海外に輸出する港とす尙ほ將來外國との交通頻繁なるに及ばず米國への航路に對しては大濱、陸奥、西伯利に對しては宮津、丹後、及敦賀、越前、の兩港及支那、上海への航路に對しては假屋、肥前、の四港は何れも重要な位地に當ると云ふ

○風景 我邦土の風景に富むことは世界に其比少なく外遊人等の常に羨望措かざる所なり元來我國の島形を地圖上に於て見るも五大島及千嶋、列嶋、琉球、群嶋等の太平洋の波上に連々基布するは恰も珠玉を列ねるか如く頗る風流の觀あり故に或は我邦を東洋の花彩、嶋と稱して大陸に草花紋を裝ふか如き壯觀ありと賞せり況んや實地に就て國土の趣を見れば到處の山は峨々として而して綠に之を繞る水は青靨の如くにして清し或は瀬戸海濱の山紫水明あり日本海沿岸の奇景絶

勝あり中にも白妙の雪を戴く富士の高根と風光明媚なる琵琶の大湖とは日本の双美と稱し●陸前の松島、丹後の天橋立、安藝の嚴島は日本三景と呼び●上野の妙義山、信濃の岐、蘇谷、豊前の耶馬溪は日本の三奇景と云ふ●其他日光の山景、三保の松原、天草の洋嵐、峽の花、紅葉、墨堤の櫻雲など、一部に就て擧ぐるときは數ふるに遑あらず全國皆是れ佳景なり斯る國土に住みて地理を究むるは實に學者の多幸と謂はざる可らず

○地震温泉 本邦は火山多きを以て之に伴ふ地震及び温泉も又甚た多し地震は古來屢々大震ありて損害を與ふること歴史に存する所なり統計によれば大抵五年九ヶ月間毎に一回の大震ある割合にして小震は全國中何れへか毎日一二回宛は震動を感ずるに當る地震國なり●凡て地震は沖積土の軟弱なる平野地に多し故に關東平原、濃尾平原、筑紫平野は最も地震頻繁の地なり

○温泉は全國に於て總て四百三十二泉あり内本州に三百零九泉、四國に九泉、九州に七十泉、蝦夷に四十四泉あり斯く温泉多き國は世界に稀にして到處に温泉遊を試み緑水青山の間、病を養ふへし中にも攝津の有馬、伊豫の道後、伊豆の熱海、箱根七

湯上野の伊香保草津の如き著名の温泉とす

○氣候 本邦の氣候を概説すれば我邦は緯度の割合より言へば稍々寒しと雖も亞細亞洲中に於ては最も中和を得たる國なり故に温和人に適ひ年平均温度は攝氏(以下)十一度とす歐洲の南部支那中央の温度に比すべく九州南部に於て十六度蝦夷北部に於て六度の間あり故に其差は十度なり夏(八月)の平均は南部の十七度より北部の十八度の間にあり冬(一月)の平均は南部の六度八より北部の氷點下十度の間にあり夏季は琉球と雖も平均二十八度を超へず冬季は氷點下十度以下に降るは蝦夷中央の小部分に止り其他氷點以下に降る地は僅に奥羽以北のみ故に頗る中和と謂はざるへからず然り我邦大體の氣温は寒暖中を得たる天樂國と謂ふへし今左に此大體中に於ける暑寒如何を示すへし

本邦の夏季に就て云へば比較的(一)高温なる處三ヶ所あり(一)瀬戸内海に沿ふ所岡山・大坂・京都・廣嶋の各地是なり(二)内陸各地岐阜より東・長野・福嶋に亘る内陸是なり(三)北陸諸國・金澤・新潟・伏木等是なり以上の各地は暑氣頗る強し●又夏季清涼の地は北海道は餘外なり高知・大分・山口・馬關等の各地及太平洋に濱する沼津・銚子等な

りとす○冬期の暖和なるは二ヶ所あり(一)太平洋岸の温流に濱する各地にして其區域甚だ廣く鹿兒島宮崎を第一温暖の地とし夫より北は上總に至る海に接する地なり(二)瀬戸内海に濱する豊後・讃岐・周防等なり

○冬に於て寒氣強きは總て海なき各地とす故に本州の陸幅の廣き内地又は北海道及九州等の内地は寒氣割合に強く信州甲州の如きは有名の寒地にして結霜早し○之を要するに太平洋岸は寒暑共に軟和にして内陸各地は總て寒暑甚だ強し是を以て海洋の如何に氣候を調和するかを知るに足らん

風 我邦の地形は北西を抱て彎曲し亞細亞大陸に向ふを以て此大陸の氣候に感化せらるゝと少なからず抑々我對岸の大陸は寒暑共に烈しき地なり然るに我國冬の風向は北西にして此大陸を吹き掃つて來る寒風なるにより寒氣甚だ強く北風の面を切る如く感ずるは世人の知る所にして三月末までは吹き續くなり是れ我邦冬季の永くして緯度の割合には寒き所以なり又夏に至りて西南の濕りたる暖風吹き來るに逢へば暖氣忽ち加はるなり

夏秋の交に際すれば強烈の大風屢々襲ひ來りて大害を及ぼすとあり此大風は初

り臺灣の近海中に起り概ね北に進み九州四國を経て日本海に出て北海岸を沿ひ北東に向て蝦夷を横きり遂に東方に馳せ走るものなり
雨 日本は雨多き島國なり其一年の平均雨量は一千五百七十三耗四(日本寸)五即ち年中の雨水を其儘に貯へ置くものとすれば日本全面に一樣に五尺二寸の深さを以て掩ふべき降水量あり併し時候と場所とによりては固より同しからず
時候に就て言へば暑候は多雨にして寒候に至れば天氣晴朗の日多し雨量の最も多きは六月の梅雨期にして霖雨數日に亘ることあり之を五月雨(さみだれ)と稱し時々洪水の害を被ることあり然れども梅雨は田地に養水を供し邦人の食料と仰く稻禾の移植(代)を便ならしむる恩雨なり四五月の頃も春雨(はるさめ)とて雨多く九月より十月に亘りては時雨(しぐれ)とて同じく雨多き時なり
十一月より翌年三月に至る寒候は太平洋に濱する方は一般は雨雪共少く日々雲霽れ天朗に最も快愉の節なり吾々が聖壽の萬歳を謳ふ天長節の如き殆ど雨雪の類なく所謂小春の好天なり只日本海に面する方は此乾節に雨雪多く特に北國地方は十二、一、二の極寒に當り却て雨雪多きを以て多くは雪となり遂に積雪數尺に

達するなり
塲處に就て雨量の多寡を示せば雨は一般に南部に多くして北部に少し而して最も多き地二つあり一は九州四國の東南部即ち日向土佐にして二千三百耗以上の雨量あり他の一は加賀能登越前邊にして二千五百耗以上にも及ぶことあり又雨の寡き所は三所あり(一)瀬戸内沿岸中國の南岸及び四國の北岸にして(二)は本州の幅廣き中央即ち信濃の邊より岩代及陸中海岸に懸けての一部なり(三)は蝦夷島一圓なり是も雨寡し
○洋流 我邦を圍む海岸中には暖流寒流共に之れあり暖流は日本海流と稱し元と赤道近傍より來る暖なる潮水にして琉球群島の東方を北に流れ九州の南に來りて本流支流に兩分し支流は對馬海峽を過ぎて日本海に入る是を對馬海流と稱す本流は太平洋を九州四國及本州の南東岸に沿ふて流る是を黒潮と稱す其水色の黝黒なるを以てなり黒潮は伊豆諸島の間を流る、時最も著しく黒瀬川の稱あり上總の沖合より日本陸地を遠さかり遂に東方に流る暖流の水溫は平水より四五度高く冬は氣溫より溫暖なり

寒流は北より来る海流にして太平洋を蝦夷島及本州に沿ふて流るゝものを親潮と稱し、上總沖に於て黒潮に逢ひ表面に其跡を絶つ又日本海を流るゝものは千島流及び來滿流の兩派なり、寒流の水溫は暖流に比すれば或は八度以上も低く氣溫に比するも其低きと五度半に及ぶ

洋流と氣候とは親しき關係あるものにして暖流は其溫を空氣に與へて氣候を溫暖ならしめ、寒流は却て氣溫を奪ふて寒冷ならしむ故に暖流を被る沿岸の地は其感化によりて氣候冬も暖温なれども寒流の洗ふ蝦夷島及本州の東北各地は爲めに寒氣強し

生産物

農産物 我邦は前に言へるか如く氣候温暖に雨多き國なり、斯かる國土は動植物の發生甚た宜しく大抵の物料は産せざるなし中にも我邦古より農業國として農耕の業は頗る開け生産に使用する土地は八千八百八十三方里にして全國面積の三割五分八厘に當る内、田畑は五百〇四万町歩以上あり國民も農を業とするもの人口の過半數を占り農産物最も多し特に米は近年の平均にては年々三千五百萬石

(二人に付八) 内外の産あり次に麥は年々一千三百萬石内外を産す之に次ぎ粟大豆甘藷蕎麥稗藍烟草等は産額頗る多し

農産物の内、近來外國輸出品として特に重要なものは蠶糸及茶の二品とす、糸は著しく産額を増し年額百七十七萬貫の糸を産す最も盛なるは本州の中央より東北地方に亘る即ち近江美濃以東羽前に達するまでの中央内地とす、茶は近年の平均産額は六百六十萬貫にして九州四國畿内東海關東平野は茶の産地なり此蠶糸茶の二品を以て我國産外國輸出全額の半數を占むることゝなれり

山林 全國到る處森林に富み密樹茂林をなし國土の風致を添へ從て林産乏しからず、森林の反別は一千四百五十万町歩あり之れに森列する樹木は無慮三百九十億五千四百萬本ありと云ふ即ち一人に付き九百八十四本なり是れ森林國と謂はるゝ他の國にも譲らざるなり

工業 日本は東洋の美術國の美稱を博せり是れ本邦人は古より意匠巧みに工藝美術の技に長せるを以てなり然れども規模の壯大なる事業は甚はた乏しく僅に手工に長するのみなりしが近來は諸工業大に發達し來れり中にも織物業最も盛

に紡績業も所々に起り次に陶磁器醸酒醬油の醸造業なり漆器は邦人獨特の技と稱せられ年々多額の産あり摺附木製造も大に進歩したり

海産 日本は島國にして四周の海は頗る水族に富むを以て海産は最も豊なる地位なり漁場の面積は耕地の面積よりも遙に廣し是れ海國無盡藏の富源と謂ふへし然れども漁業未だ甚だ不發達の業たるを免れず水産の最も豊なるは蝦夷沿岸にして世界三好漁場の一に數へらる次に本州の東岸とす産額の最も多きは鯨にして次に鰻、鯉、鯛其他海藻等に過ぎず彼の北海の貴重産なる鰻、虎、鰩、鮪の如き又沿海處々の鯨の如き産額未だ多からず

鑛産 鑛産は近來大に發達し鑛物産額も著しく増加したり本邦は地質の種々なるにより鑛物の分布多く諸種の金屬概ね産せざるはなし特に重要なる銅、石炭、鐵は埋藏頗る多き方なり年々産額の元價を示せば銅は四百二十餘万圓鐵は百三十万圓鐵は四十二万圓石炭は年々其産額著しく増加し一千二百万圓(凡二百五)の巨額に達せり其他金、鉛、安質、母、硫、黃等を産し特に鐵は將來頗る多量に産すへき豫算なり、岩石には水晶、大理石、花崗石、陶土等の産出あり

○國體 我邦は萬世一系の天皇の統治し給ふ帝國にして即ち君主國なり上に至尊至榮の帝室を仰ぎ億兆の臣民皆其撫育の下に服す而して我臣民は概ね國祖の後裔にして血族團欒の集落と稱すべく他の君主國とは其趣きを異にせり故に我帝國を血族國家と云ふ且我帝國の萬國に卓越するは建國の最も永く最も強固なるにあり他の各國に於ては殘虐なる争亂と共に其國體も歴々變革し來り未だ千年にも及ぶ國なし獨り我帝國は建設以來實に二千五百五十有餘年の久しき連綿として始終一の如し是れ我帝國の帝國たる所以なり

政體 政體は明治二十三年以來專制政體を改めて立憲代議政體とせられたり即ち帝國憲法に遵據して政治機關は立法、行政、司法の三大部を以て組織す

立法部は帝國議會と稱し別れて貴族院、衆議院の兩院より成る貴族院は(一)皇族(二)有爵華族(三)國家に功勞あり又は博學多識の勅撰議員(四)各府縣一名宛の納税多額者の議員三百人(定)を以て組織し衆議院は各府縣の撰舉區に於て直接國稅十五圓以上を納むる者に就て人民の撰舉したる議員總て三百人を以て組織せらる

行政部は上に内閣あり内閣總理大臣を首班とし各國務大臣(各)を以て組織す其

下に外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務逓信の九省あり各省の長官を大臣と云ふ別に帝室の事を奉掌するを宮内省と云ひ長官は宮内大臣なり又陛下の至高顧問府として樞密院あり帝國の會計監督として會計検査院あり○地方行政は府縣郡市町村に別ち府縣の長官は知事と稱し郡に郡長あり市町村は自治制を施行し市町村の各團體は官の監督を受け獨立統治するの制にして市長町長村長あり皆公選とす府縣郡も漸次自治制を施さんとす府縣郡市町村には其意思を代表する機關あり之を府縣會郡會市會町會村會と云ふ北海道は別に道廳と稱し長官を置き其下に支廳長あり

司法部は裁判官を以て組織し最高裁判所を大審院と稱し其下には東京大坂名古屋廣島長崎宮城函館の七控訴院あり各府縣に各一個の地方裁判所あり又其下に凡そ三百個の區裁判所あり

軍制 帝國軍隊は陸軍海軍に分ち天皇の統帥に屬し全國皆兵の制とす帝國臣民は男子は滿十七歳より滿四十歳迄は兵役の義務ある者とす○兵役は常備後備補充國民の四役に分ち常備は現役及豫備に分ち陸軍の現役は三年海軍は四年とす

●豫備は陸軍は四年四ヶ月海軍は三年とし後備兵役は五年とす又補充役は其所要の現役兵員に超過する者之に服し國民兵役は以上の外兵役義務ある者總て之に服す○兵役義務を有する者全國に大凡七百萬人あり其内陸軍現役九万五千豫備八万三千後備十一万一千あり海軍は現役一万三千あり

陸軍區は近衛師管を始め其他第一より第十二に至る十三師管に別つ一師管は各々二旅管に分ち一旅管を又二聯隊區に分てり故に全國に二十六旅管五十二聯隊區あり○軍隊は毎師管内に一個師團現今八個師團ありを置き歩兵八ヶ聯隊砲兵一ヶ聯隊騎兵一ヶ聯隊及工兵輜重兵若干其他の軍屬を統率す毎旅管に一ヶ旅團を置く○旅團は管内の歩兵四ヶ聯隊とす○軍隊は永久各要地に配備駐屯せしめ之を衛戍と稱す又各要所に要塞兵要島に警備隊を置く近衛師團は登殺の下に在りて帝室の護衛に任す○又別に憲兵あり軍事行政司法の三警察を司る軍隊の配備は左の如し但し各師團の下括弧内の地名は師團司令部所在地を示し又各旅團も旅團司令部所在地にして各聯隊は何れも歩兵聯隊號なりと知るべし

東部都督部

近衛師團 (京東) 第一師團 (京東) 第二師團 (盛山)

步兵...二旅團 騎兵...一聯隊 砲兵...一聯隊 工兵...一大隊 輜重兵...一大隊 軍樂隊...一大隊 步兵...一聯隊 騎兵...一聯隊 野戰砲兵...一聯隊 工兵...一大隊 輜重兵...一大隊 步兵...一聯隊 野戰砲兵...一聯隊 工兵...一大隊 輜重兵...一大隊

步兵第一聯隊(京東) 步兵第二聯隊(京東) 步兵第三聯隊(京東) 步兵第四聯隊(京東) 步兵第一聯隊(京東) 步兵第二聯隊(京東) 步兵第三聯隊(京東) 步兵第四聯隊(京東) 步兵第一聯隊(京東) 步兵第二聯隊(京東) 步兵第三聯隊(京東) 步兵第四聯隊(京東) 步兵第一聯隊(京東) 步兵第二聯隊(京東) 步兵第三聯隊(京東) 步兵第四聯隊(京東)

中部都督部

第三師團 (名古屋) 第四師團 (大阪) 第五師團 (島嶼)

步兵...二旅團 騎兵...一聯隊 野戰砲兵...一聯隊 工兵...一大隊 輜重兵...一大隊 步兵...二旅團 騎兵...一聯隊 野戰砲兵...一聯隊 工兵...一大隊 輜重兵...一大隊 步兵...二旅團 騎兵...一聯隊 野戰砲兵...一聯隊 工兵...一大隊 輜重兵...一大隊

步兵第六聯隊(名古屋) 步兵第三十六聯隊(江蘇) 步兵第三十三聯隊(名古屋) 步兵第三十四聯隊(四野) 步兵第七聯隊(海軍) 步兵第三十五聯隊(海軍) 步兵第十八聯隊(三河) 步兵第十九聯隊(見伏) 步兵第八聯隊(大阪) 步兵第二十聯隊(山福知) 步兵第三十七聯隊(大阪) 步兵第三十八聯隊(見伏) 步兵第十聯隊(海軍) 步兵第三十九聯隊(海軍) 步兵第九聯隊(海軍) 步兵第四十聯隊(取)

步兵第十一聯隊(廣島) 步兵第四十二聯隊(山口) 步兵第四十一聯隊(島嶼) 步兵第二十一聯隊(田濱) 步兵第十二聯隊(丸) 步兵第四十三聯隊(丸) 步兵第二十二聯隊(山松) 步兵第四十四聯隊(知高)

又臺灣島守備の爲り全島に三旅團を置く此旅團は混成旅團として歩騎砲工の各兵を混合して一個旅團を編成せしものにして第一混成旅團を臺北に第二混成旅團

都督部	第六師團 (本熊)	第七師團 (桃札)
野戰砲兵...一聯隊	工兵...一大隊	砲兵...若干
騎兵...一聯隊	輜重兵...一大隊	步兵...若干
歩兵...二旅團	沖繩分遣隊...一中隊	工兵...若干
	赤間砲兵...一聯隊	輜重兵...若干
	警備隊...一隊	
	第十二旅團 (本熊)	
	第十三聯隊 (本熊)	
	第十四聯隊 (小)	
	第十五聯隊 (本熊)	
	第十六聯隊 (小)	
	第十七聯隊 (小)	
	第十八聯隊 (小)	
	第十九聯隊 (小)	
	第二十聯隊 (小)	
	第二十一聯隊 (小)	
	第二十二聯隊 (小)	
	第二十三聯隊 (小)	
	第二十四聯隊 (小)	
	第二十五聯隊 (小)	
	第二十六聯隊 (小)	
	第二十七聯隊 (小)	
	第二十八聯隊 (小)	
	第二十九聯隊 (小)	
	第三十聯隊 (小)	
	第三十一聯隊 (小)	
	第三十二聯隊 (小)	
	第三十三聯隊 (小)	
	第三十四聯隊 (小)	
	第三十五聯隊 (小)	
	第三十六聯隊 (小)	
	第三十七聯隊 (小)	
	第三十八聯隊 (小)	
	第三十九聯隊 (小)	
	第四十聯隊 (小)	
	第四十一聯隊 (小)	
	第四十二聯隊 (小)	
	第四十三聯隊 (小)	
	第四十四聯隊 (小)	
	第四十五聯隊 (小)	
	第四十六聯隊 (小)	
	第四十七聯隊 (小)	
	第四十八聯隊 (小)	
	第四十九聯隊 (小)	
	第五十聯隊 (小)	

を臺中に第三混成旅團を臺南に置き又清國威海衛には偵金機保の爲り混成の一個旅團を置き但し臺灣及威海衛の守備隊兵員は總て内地各師團中より交代を以て派遣せるものなり

海軍區は全國の海岸及海面を第一海軍區より第五海軍區に至る五海軍區に分つ各海軍區の軍港には鎮守府ありて其軍區を管轄し鎮守府所在の地には海兵團を置き軍艦乗員の屯在所とす軍艦は之を常備艦隊西海艦隊に編成し其外各鎮守府に分屬せしむ

- 第一海軍區 横須賀 鎮守府
- 第二海軍區 吳 鎮守府
- 第三海軍區 佐世保 鎮守府
- 第四海軍區 舞鶴 鎮守府
- 第五海軍區 室蘭 鎮守府

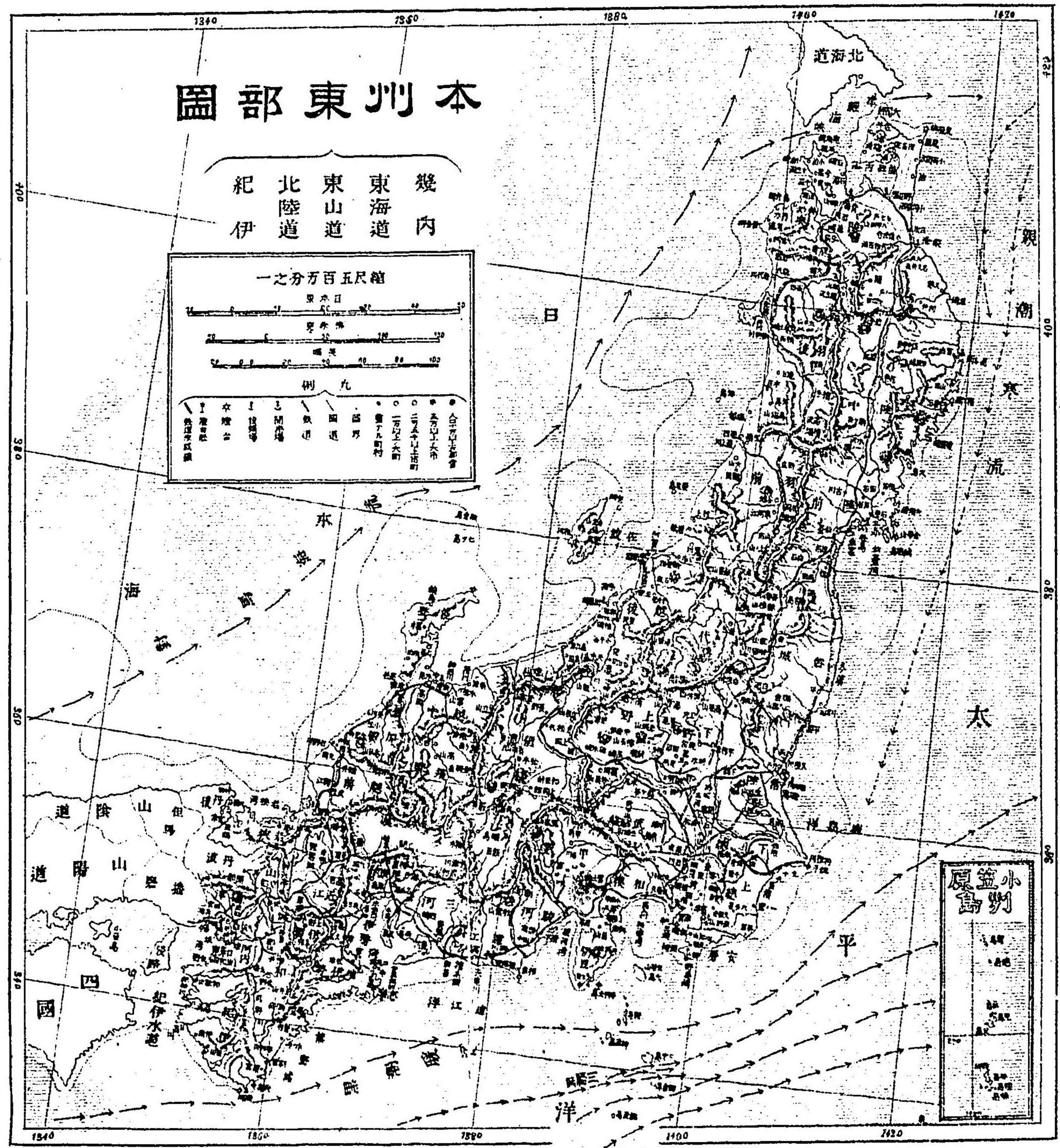
○日本人我同胞種族は所謂蒙古人種なるべく朝鮮人支那人等と其種相似たり然れども國內の種族に就て之を觀れば固より多少の差違あり之を大別すれば大和

種族。熊。種族。に三別すべしと云ふ。大和種族は最も多數にして又最も有力なる種族なり。今は概ね國の全部に繁殖せり。○熊。種族は曾て各地に住せし八十餘部なり。○あ。い。ぬ。種族は東北地方に住し今蝦夷の一隅に其純種を存せり。又穴居せし土蜘蛛種ありし。○以上の各種今は相混合して差別なきに至るものあり。特に代々皇威の下に服して日本臣民なる一團に凝化し忠君愛國の至情は固より相譲らざるに至れり。

日本人の恆質は優美にして美術を愛するも亦勇悍の氣象を損せず。思慮深くして學術を好み緻密にして技藝に巧みなり。又島國人の氣風として敵愾の氣、熾に愛國心深く一旦事あるに臨みては外に對して團結甚だ固く、和魂(やまとたましひ)なる一種の美風は我邦人の腦裏を一貫して此萬國に卓絶したる一帝國を擁護せり。風俗は古より着實なる自然風を貴ひ華美に裝飾するの風は務めて之を避けたり。淡泊質素朴實は我國風なりし。○衣は氣候に基づき寛潤なる衣を用ひ羽織袴を通常服に直衣、冠を禮裝としたり。近來洋服も亦禮服と定められたり。○食は植物性と肉食し米は重なる食料にして、食米人種なり之に次て麥、粟等の穀物を食し交ゆ

るに魚肉菜蔬及び獸肉を以てせり。住家は多く木造にして、種瓦、藁家、板葺茅屋の四種あり。家は南面し多く開通にして清風の座間に至るの建築なり。席は蓆を用ひて座臥し、藪及び障を以て風雨を防ひ土造石造は概ね倉庫にのみ用ひたりしか。近來煉瓦石造流行するるとなれり。

○教育。氣候の温和なる山水の優美なる自ら邦人の心情を和順ならしめ身体又整合して劣情の發生少なく、道徳上の觀念次第に發達し古より忠孝仁義(じゆんぎやう)の意義は既に教養の法となりし。爾來外交の模様に應じては小變ありしも此主義は今日まで貫通して一般の是認する所なり。明治維新の後は朝廷最も教育を奨勵し玉ひ大小の學校競ひ起り頗る普及の運に向ひたり。高等教育には帝國大學あり、法、文、理、醫、工、農の六科に分ち學術の蘊奥を攻究する爲めに、大學院の設けあり。高等學校を東京、仙臺、京都、金澤、熊本、及山口に置き中等以上の業務に従事する者及大學に進むの階梯とし各府縣に尋常中學校あり、又教員を養成するには東京に高等師範學校、各府縣に尋常師範學校の設けあり。初等教育は全國各地に小學校あり、其數凡そ二万六千餘校、全國學齡兒童の全數百分の約五十九人は就學者なり。其他、各專門學



論 議 (三)

校高等女學校、各種學校の設けあり又東京及各地に盛なる私立學校あり又通。信。教。授法即ち本講義録の如きものも益々隆盛に赴き教養の一法となれり

教育の進歩するに隨ひ著。書。及新。聞。雜誌。等も年々増加し圖書の明治廿七年に出版せられたるもの二万八千二百部に達し定時發刊の新聞雜誌は約八百餘種其發兌數は無慮三億六千七百万部に及べり

○宗教 我邦人の信奉は自由なり元來我邦は宗教には頗る淡泊なりとの評あり然れども古來尊信の神なきにあらず則ち我邦に宗教として最も行はるゝは佛。教。なり佛教は一千二百年代渡來せしより本邦に於て改革進化を経て其宗教頗る分れ現に天台眞言淨土臨濟曹洞黃檗眞日蓮融通念佛法相華嚴の十二宗あり佛教の最も盛に行はるゝは近畿諸國より北國各地とす寺院は全國に凡そ七万二千あり基督教の初めて輸入せしは足利氏の時にあり天主教と稱して一時延蔓せしも爾來國禁たりし維新後開國して其禁を解き外交頻繁なるに従ひ次第に輸入するに至れり最も行はるゝは新教にして信徒二万五千人以上あり舊教希臘教等は信徒少し基督教は開港場附近及關東地方を以て最も行はるゝ所とす

我邦固有の神道は宗教に属する派と宗教外のものとあり最も多く奉祀する神々は只其威徳を追崇すべき靈位にして或は天祖を奉祀し或は威武絶倫或は誠實有徳の人を尊崇するものなり全國の神社は神宮を始め凡十九万三千あり内官幣社八十七國幣社七十五府縣社四百六十二あり

○交通 交通の便は維新後非常に開け彼の封建時代に於て要害天險など、稱へ故さらに交通を梗塞したる昔日を顧みれば殆ど別天地の看あり道路は國道縣道里道に大別し主要の幹線には鐵道を敷設し支線も亦各地に延長せり水運には汽船頻々各港間を來往し信書の送達には郵便の制を設け音信速達には電信あり其線路は殆ど至らざる所なく電話線も所々に架設せられたり物品送達には海運陸運の便あり殆ど將に交通運輸の便を極めんとす東京より各府縣元標に至る里程は左の如し

京都	一三一	新潟	一〇九	栃木	二七	山梨	三四
大阪	一四四	埼玉	六	奈良	一四〇	滋賀	一二八
神奈川	八	千葉	一〇	三重	一一三	岐阜	一〇四

兵庫	一五〇	茨城	二九	愛知	九五	長野	五九
長崎	三四四	群馬	二八	静岡	四六	宮城	九二
福嶋	七一	富山	一七六	香川	二〇七	佐賀	三二四
岩手	一四〇	鳥取	一九四	高知	二三四	宮崎	三六八
青森	一九二	嶋根	二二一	徳嶋	一七八	鹿児島	三八一
山形	九五	岡山	一八六	愛媛	二三七	沖繩	五七四
秋田	一五一	廣嶋	二三一	福岡	三〇三	北海道	二七六
福井	一三七	山口	二六六	大分	三二七		
石川	一五九	和歌山	一六一	熊本	三二五		

鐵道。鐵道は近時非常に進歩し全國重なる通路には概ね敷設し幹線は殆ど國內を貫通せり官設には鐵道廳あり私設鐵道會社二十九あり其線路延長は三千三百哩にして既に開業せるもの二千二百哩あり

○運輸。運輸の便は交通の進歩と共に大に發達せり書信往復の郵便制を始めとし電信電話海運等大に進歩せり今其概況を述ぶべし

郵便の制は最も便利を感し既に郵便線路の延長は一千六百三十萬里に及び郵便局數三千六百箇所郵便物個數は三億二千一百万にして平均一人口に對する郵便物數は七個六四なり而して年々増加する一方なり

電信電話も郵便に次て進歩し電信線の延長は一萬二千餘里にして局數は六百三十五、音信數は一千二百三十萬に下らず即ち人口千人に付約三百通の割なり海底電線は長崎より上海及浦蘆斯德に鹿児島より沖繩臺灣に通せり電話も亦頗る進歩し東京大坂は加盟者益々増加せり

海運は陸運の發達に伴ひて進歩し日本郵船會社及大坂商船會社の二社重もに海運の業を司れり郵船會社は本社を東京に置き各地に支店あり内外國各港間汽船の定期航海を業とす外國諸港にては朝鮮各港浦蘆斯德芝罘天津間は定期航海にして牛莊馬尼刺西貢布哇瓜哇濠洲へは臨時航海す明治二十九年以來は歐洲並に濠洲にも定期航海業を開始せり内國各地の重要港へは毎日一回航海し他の港へも毎月一回航海す商船會社は大阪にあり各地に支店を置き内國各港間の汽船往復を業とす以上二會社の定期航路は外國へ四線内國二十八線あり其他小汽船

會社を加ふるときは全國の汽船總數は六百餘艘噸數五十萬噸に下らず内國の各港間の航路運數を示せば左の如し

●横濱より各港への航路運數

清水港(駿河) 五〇 四日市(伊勢) 一九〇 神戸 三四三

馬關 五六六 長崎 七〇七 那覇 一〇三五

鹿兒嶋 五六五 萩の濱(陸前) 二七〇 青森 四六二

函館 五一八 小樽 八一〇 根室 八〇〇

伏木 八三九 新潟 七三八

●神戸より各港へ
尾の道(備後) 一〇八 長崎 三六四

●長崎より各港へ
博多 九六 嚴原(對馬) 一一〇 嶋原 五五

鹿兒嶋 一五二

●新潟より各港へ

馬關 四九三 敦賀(越前) 二三〇 伏木 一二三

直江津(越後) 六三 酒田(羽後) 六八

●國館より各港へ
青森 五九 酒田 一八九 根室 二九五

○外交 日本と亞細亞大陸との交通 太古時代に於ては頻繁なりしか如し其後
も三韓支那等とは斷へず交通し彼れの文物を輸入せしこと尠なからざりし然れ
ども本邦が世界の日本として外交場に出てしは安政元年始めて北米合衆國と修
好條約を結び開港せし以來のことなり爾來續々他の諸外國も通信貿易を求む是
を以て漸以修好條約を締盟せしもの既に二十一國に及へり之を條約國と稱し我
國の交際國なり左に其國名及び條約締盟の年月を列舉すへし(條約年月日ハ本條約ノ時)

(1) 北米合衆國 安政元年三月 佛蘭西共和國 萬延元年八月

(3) 英吉利王國 安政六年三月 露西亞帝國 文久二年七月

(5) 和蘭王國 萬延元年二月 葡萄牙王國 文久二年三月

(7) 瑞西共和國 慶應元年五月 白耳義王國 慶應三年八月

- (9) 伊本利王國 九月三年
 - (11) 暹羅帝國 九月二年
 - (13) 西班牙王國 三月三年
 - (15) 布吐共和國 七月四年
 - (17) 秘魯共和國 三月八年
 - (19) 暹羅王國 一月二十年
 - (21) 伯刺西爾共和國 四月二十年
 - (10) 丁抹王國 八月三年
 - (10) 澳大利亞帝國 十二月二年
 - (14) 瑞典及挪威王國 十一月三年
 - (16) 支那帝國 二月六年
 - (18) 朝鮮王國 二月九年
 - (20) 墨西哥共和國 十一月二十年
- 條約國の首府には概ね我公使館を置き、公使を駐割せしむ又其貿易港等には領事館を設け總領事領事等を遣せり公使は天皇の信任により其國に於ては我日本帝國を代表し兩國間の和親修好を司り其國在留の帝國臣民を保護監督す領事は其地に在留する帝國臣民を保護し又商事を監察す名譽領事と稱するは外國人の我邦の爲めに盡す好意の者に囑托して領事の任を擔當せしむ
- 我横濱及長崎より著名の外國港との海路左の如し
- 香港 一五七五哩 新嘉坡 二九〇二哩 錫蘭 四五九〇哩

- 浦道新橋 九二七哩 西貢 二三八六哩 亞丁 六七〇〇哩
 - なりぶる 九二二五哩 蘇士 八〇〇七哩 布哇 三三九三哩
 - 紐育 二〇一一五哩 桑港 四七二二哩 洲めるぼるん 五〇八〇哩
 - 馬耳塞 九〇三九哩(以上極) 上海 四七〇哩 芝罘 五六六哩
 - 天津 七三六哩 釜山 一六二哩 仁川 四五八哩
 - 元山 四六〇哩(以上長崎)
- 貿易 外國貿易の業は年々進捗し輸出入額漸次に増加せり最近の輸出入額は三億九千四百萬圓に達し内輸出は一億八千五百五十萬圓にして輸入は二億一千二百九十萬圓なり今人口に對する輸出入額は一人に付き四圓三十二錢の物品を外國に出して五圓七錢の外品を購買するの割合なり即ち其差は七十五錢なり我國産の重要輸出品は(一)生糸(二)絹布(三)茶(四)石炭(五)米とす此五品は輸出額五百萬圓以上に上る中にも生糸は四千二百六十萬圓の巨額に達し之に従ふ絹布も一千三百萬圓の輸出あり是れ國産の隨一にして蠶業より納むる所實に五千五百六十万圓なり次に茶は殆ど八百萬圓石炭は六百七十七萬圓米は五百七十七萬圓等なり

外國より輸入する重要な品は綿類を第一とし綿糸綿布の輸入額は五千四百七十萬圓に達す是れ國民多くの衣服たるものなり故に日本は絹を賣りて綿を買ふの國と謂ふべし次は毛織糸類一千五百四十萬圓を輸入せり第三は金屬器の一
千五百三十萬圓なり次に砂糖千三百八十萬圓次を機械類一千六十萬圓次に米及豆類一千三十萬圓第八は石油七百萬圓なり

○貿易國 我日本と貿易の最も盛なるは英國を以て第一とす輸出額六千八百三十萬圓に達す内彼より輸入する額は五千九百二十萬圓に達す故に英國は我が國を以て第一の花主ならず第二を米國とし貿易額四千八百萬圓の内多くは我より輸出する生糸類なり第三を支那とす取引額三千五百萬圓あり我よりは海産物銅石炭摺附木等を輸出し彼より砂糖を輸入す(第四)英領香港との貿易額は二千九百萬圓あり我より殆ど二千萬圓の雜貨を出す(第五)は英領印度とす取引額二千七百萬圓に達し彼より多くの綿類を輸入せり(第七)佛國は二千六百七十萬圓の内我より殆ど二千萬圓の生糸を輸出す(第八)獨逸は二千萬圓なり朝鮮は八百五十萬圓の内米、牛、牛皮の輸入多く我よりは雜貨を出す伊太利三百二十萬圓澳洲二百三十萬

圓及加那太●露西●白耳義等なりとす

○區劃 現今地方の政治區畫は一道廳三府四十九縣三廳に分ち更に之を台灣を除く六百六十一郡●四十二市●五區に分つ郡市區の下級の區劃は之を凡一千三百町●一万三千八百村に分てり又台灣には總督府を置き其下に縣及廳あり

北海道廳 北海道一區十一ヶ國●三區八十八郡(六〇九五方里)

東京府 武藏内一市八郡(南)●伊豆七島●小笠原島(五二方里)

京都府 山城一市八郡●丹波内五郡(南)●丹後五郡(二九七方里)

大坂府 攝津内一市四郡(東)●河内三郡●和泉一市二郡(一一六方里)

神奈川縣 武藏内一市三郡(西)●相模八郡(二二九方里)

兵庫縣 攝津内一市三郡(西)●播磨一市十三郡●但馬五郡

長崎縣 肥前内一市六郡(西)●壹岐一郡●對馬二郡(三三五方里)

新潟縣 越後一市十五郡●佐渡一郡(八二五方里)

丹波内三郡(南)●淡路二郡(五五七方里)

丹波内一市三郡(西)●播磨一市十三郡●但馬五郡

埼玉縣 武藏內九郡(東北)(二六六方里)
 千葉縣 安房一郡●上總五郡●下總六郡(西)(三二六方里)
 茨城縣 常陸一市十一郡●下總內三郡(東)(三八五方里)
 群馬縣 上野一市十一郡(四〇七方里)
 栃木縣 下野一市八郡(四一二方里)
 奈良縣 大和十郡(二〇一方里)
 三重縣 伊賀二郡●伊勢一市十郡●志摩一郡●紀伊內二郡(東)(三六九方里)
 愛知縣 尾張一市九郡●三河十郡(三一三方里)
 靜岡縣 伊豆內二郡(七島)●駿河一市五郡●遠江六郡(五〇四方里)
 山梨縣 甲斐一市九郡(三九〇方里)
 滋賀縣 近江十二郡(二五八方里)
 岐阜縣 美濃一市十五郡●飛騨三郡(六七一方里)
 長野縣 信濃十六郡(八五四方里)
 宮城縣 陸前內一市十三郡●磐城內三郡(北)(五四一方里)

福島縣 磐城內七郡(北陸)●岩代十郡(八四方里)
 岩手縣 陸中內一市十一郡(北陸)●陸奥內一郡(東南)(八九九方里)
 青森縣 陸奥內一市八郡(六〇七方里)
 山形縣 羽前內二市十郡●羽後內一郡(南)(六〇〇方里)
 秋田縣 羽後內一市八郡(南陸)●陸中內一郡(北)(七五四方里)
 福井縣 若狹三郡●越前一市八郡(二七二方里)
 石川縣 加賀一市四郡●能登四郡(二七一方里)
 富山縣 越中二市八郡(二六六方里)
 鳥取縣 因幡一市三郡●伯耆三郡(二二四方里)
 島根縣 出雲一市六郡●石見六郡●隱岐四郡(四三六方里)
 岡山縣 美作十二郡●備前一市八郡●備中十一郡(四二一方里)
 廣島縣 備後十四郡●安藝一市八郡(五二一方里)
 山口縣 周防六郡●長門一市五郡(二九〇方里)
 和歌山縣 紀伊一市七郡(東部)(三一一方里)

徳島縣 阿波一市十郡(二七一方里)
 香川縣 讃岐一市十二郡(一一四万里)
 愛媛縣 伊豫一市十二郡(三四一方里)
 高知縣 土佐一市七郡(四五五万里)
 福岡縣 筑前一市九郡●筑後一市六郡●豊前内四郡(部北)三一八万里
 大分縣 豊前内二郡(部南)●豊後十郡(四〇三万里)
 佐賀縣 肥前内一市八郡(部北)一六〇万里
 熊本縣 肥後一市十二郡(四六五万里)
 宮崎縣 日向内八郡(南一郡)●(四八七万里)
 鹿島縣 大隅五郡●薩摩一市七郡(六〇二万里)
 沖縄縣 琉球二區五郡(一五七万里)

台北縣 島の北部、新竹縣の北(二〇三万里)
 台中縣 新竹縣の南、彰化縣の北(三八九万里)
 台南縣 嘉義縣の南、鳳山縣の北(八六万里)

台灣總督府

新竹縣 台北縣の南、台中縣の北(四五二万里)
 嘉義縣 台中縣の南、台南縣の北(一一一方里)
 鳳山縣 島の南端、台南縣の南(一七〇万里)
 宜蘭縣 台北縣の東南、台東の北(七八万里)
 澎湖廳 台灣島の西、群島(八万里)
 台東廳 島の東部、宜蘭廳の南(未詳)

○沿革の概略 抑々我大日本帝國の始めて統治せられしは神武天皇より六世の
 皇祖●伊弉諾尊、伊弉册尊の二柱の神、中部なる大八島等を發明し玉ひ大八島若く
 は大八洲の稱呼を與へられたるか如し大八島とは(一)御子、淡道の島、今の淡路にし
 て是れ中央地と定め尊の住み玉ひし島なり(二)伊余の二名の島、是れ今の四國島を
 云ふなり(三)隱岐の三子島、則ち今の隱岐島なり(四)筑紫島とは今の九州島なり(五)伊
 岐島は今の壹岐島是なり(六)津島は今の對馬なり(七)佐度の島は今の佐渡島是なり
 (八)大倭豊秋津島是れ即ち本州とす以上八國を總稱して大八島國と謂へり、而して
 此等の島々には何れも既に先住人民ありて之を領したりしか二柱神に仕へ奉り

しかは各在來の首長たる國神をして各々其島々を治めしめられたり
 天照大神は二柱神の御子にて其御孫瓊杵尊をして豊原の水穗國を、知さしめ
 られたり之を以て尊吾國の笠狹岬今の薩摩加世田港と云を大都と定め玉へり是
 に於て我國運は稍々進歩し八島を總稱するに豊原水穗國と云ひ之を統治し玉
 ふに瓊杵尊ありしなり然れども其時まては固より統一の大業成りしにあらす
 各部落の酋長等は互に相争ひ其大なるものは權力頗る強くして其四近を支配し
 所謂邑に君あり村に長あるの勢にして皇化の及ぶ所狭かりし其後數代は只日向
 の高千穂を中央として爰に都し玉ひたり
 神武天皇に至り遂に高千穂を出て、東征の途に上り玉ひたり而して天皇は我國
 の形勢により水路に依るの便なるへきを明察し玉ひ先づ舟師を日向沿岸より發
 し瀬戸内海に入り其沿岸各地の土蠻を征服し遂に大和に入り創業八年にして中
 州を平定し大鼎を倭の橿原に定め國家經營の基を開き玉へり天皇既に橿原に奠
 鼎せられ倭の形狀を望み玉ひあきつ(橿原)のとなり(磐)せるがことしと語ひしより我
 邦を朝鮮洲或は國音により秋津洲と稱するに至れり而して各地方を治むるには

國及縣の區劃あり國造縣主等の官を置かれ地方政治も稍々其緒に就けり是れを
 皇化の東に及へる第一段とす
 是より後各地方の國名も次第に起り筑紫島にては其南を魏の國と云ひ東岸は日
 向の國と稱し西岸を火の國と呼び東北部は豊の國と總稱したり●又四國島は既
 に伊余土左粟讚吉の四部に分れたり●中國にては今の長門の邊は穴門と稱し其
 以東は大略今と全しき場所を指して周芳阿岐出雲吉備(今)伯岐稻葉多遲麻田麻
 等と稱したり又今の大坂四近は難波と總稱し近畿は中央地なれば皇化も行はれ
 地名も甚だ多く國名には山脊倭河内伊勢の稱ありし●近畿以東は皇化治からさ
 りしを以て地名も漸く東海岸に遠江日本海岸に越の國中部に科野關東を牟邪志
 房總半島を總の國と總稱するに過ぎざりし而して其東は只道の奥と汎稱するに
 止れり以上の地名は皆廣き概稱にして其餘の國々は總て百三十五國ありし而し
 て之を率ゆるは倭橿原の中央府なれば倭と謂へる名は廣く行はれ之れに大の字
 を冠して大倭とは本邦を指すことに至れり
 第十代崇神帝に至りて邊隔の皇化に治はざるを憂ひ玉ひ四道將軍を置き各地主

任の巡撫を定め北陸、東海、西の道、丹波道に遣はされ大に大權の及ぶ區域を擴張せられたり、崇神帝に次て景行帝に至り西の方笠紫を親征せられ皇子日本武尊をして東方を征せしめ大に皇化を東進せしめられたり、成務帝に至りては日本武尊東征の結果として政治區畫は大に發達し始めて天然の指定せる山河の形勢に従ひ國境なるものを劃して國名を附せられ東は道の奥に至るまで國の區畫大に定まり其後分合廢立のこと等ありしか推古帝に至りては其區畫今の國名と大略異なる所なく只に異なる處は道の奥出羽二國の區畫なく又今の安房、能登、志摩、伊賀、和泉、丹後、美作、大隅の九國は未だ設置なかりし

齊明帝の四年越後の國司阿部の比羅夫今の兩羽地方を裁定し遂に津輕海峽を渡りて始めて蝦夷に入り渡嶋蝦夷を征し翌年再び同嶋の北半を征服し後方蹄郡を置けり是れを本州を越へて皇化、蝦夷嶋に及びし第一着手とす

天武帝の時伊勢を割て伊賀を○駿河を割て伊豆を置けり此頃より東海、東山等の道名起れり持統帝の時志摩の國造を置き後國に改されり文武帝の時始めて出羽の國を置き又日向を割て大隅を●丹波を割て丹後を●備前を割て美作を置かれ

たり此頃より畿内七道の稱始まりしもの、如し元正帝の時河内を割て和泉を●越前を割て能登を●上總を割て安房を●陸奥の内は石城石脊(後二國)の兩國を置かれたり●孝謙帝の時大倭を改めて大和國とて攝津縣を改めて國とし嵯峨帝の時越前を割て加賀の國を置かれたり是に至りて維新前まで唱へ來りし六十六國の名及境域全く定まれり

首府は神武天皇に至り倭ヤマト原に定め玉ひしも御代の更る毎に帝都も亦概ね移されたり然れども大和は近畿諸國を制御するに最も便利なる形勢を有せしを以て多くは大和高原中に帝都を置かれたり元明帝に至り大和の奈良を撰定して宮室を經營し都を移されしより始めて七代の間爰に都し玉ふこととなれり桓武帝に至りては大和高原の到底日本全國を制御するの地にあらざるを看破し玉ひ我邦の中央にして而も交通の便ある山城の地を相して大に皇居を營み遷都せられたり是れ則ち平安城にして遂に明治維新まで大凡一千年の間代々都し玉ひたる京都なり

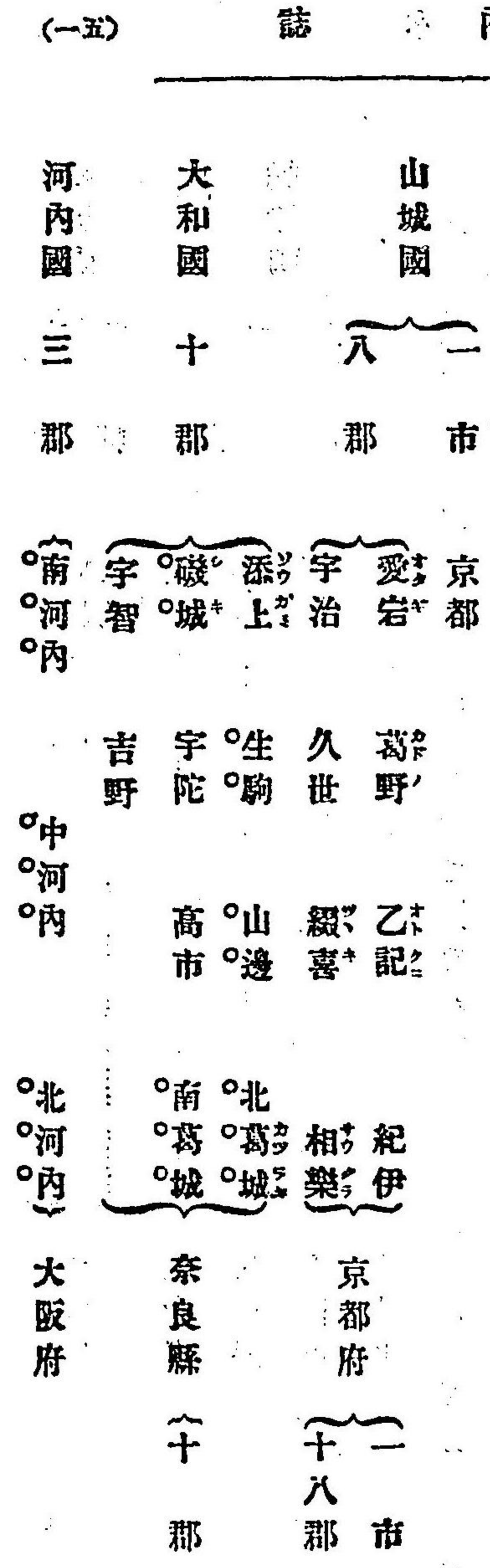
明治新維の始めは至りて陸奥を磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥の五國に分ち出羽を羽前

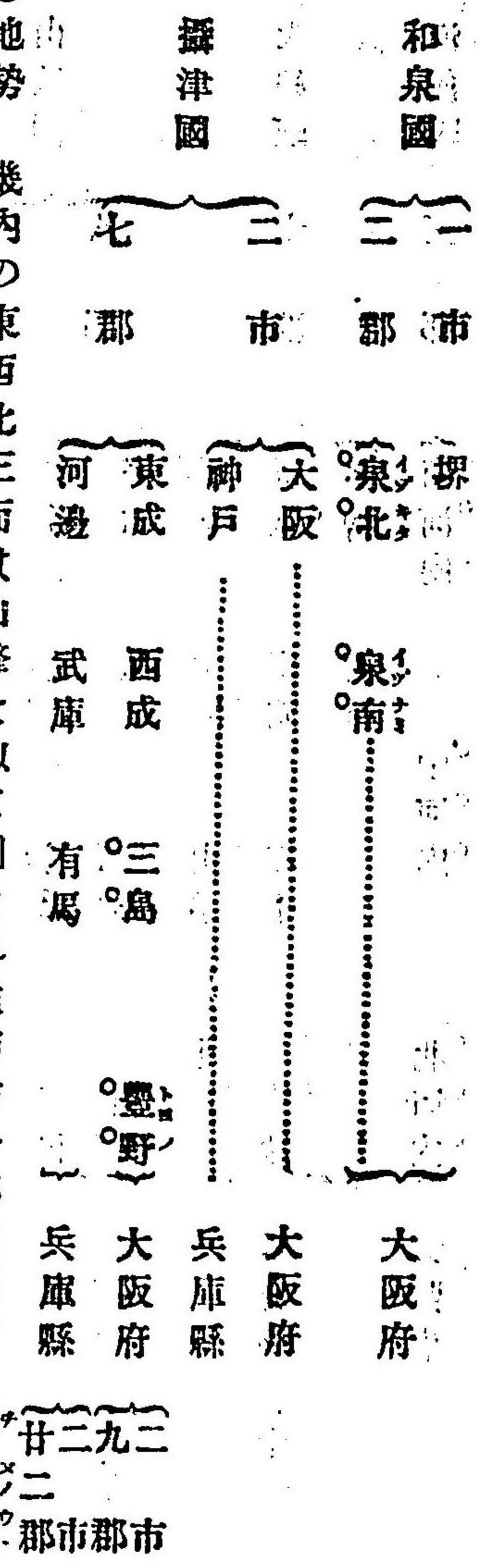
羽後の兩國に分たれり然るに蝦夷島は阿部比羅夫の征略後は内地の多事に追はれて久しく經營の遠なかりしか後花園帝の時若狭人武田信廣等の經略によりて漸く全島を戡定したり明治維新の後全島及千島を合せて北海道と稱し更に十國に分ち爰に全く畿内八道八十五國となれり
今上皇帝の明治二十七八年に亘りて清國と戦ひ遂に其戰勝の結果により清國より臺灣全島及び澎湖島を割讓して和を請へり是を以て臺灣を我版圖に容れ之を六縣に分ち皇化漸く南溟に及べり
國は元と政治區畫なりしか封建の政治始まりて以來豪族の大なるものは數國を并領し小なるものは一國を數個に分割して治めたるを以て國は遂に政治區畫の性質を失ひて徳川幕府の頃は別に藩と稱する政治區畫ありて維新の際には凡そ二百七十一藩ありしか明治四年に至り藩を廢して府縣に改たり府を置く三縣を置く六十なりしか其後又廢合分立ありて今は三府四十九縣ありて之を我地方行政區畫とす此區畫は大抵同しからずして大は八百九十九方里(岩手)より小は五十二方里(鹿角)の間にあれども平均は四百八方里とす是れ我邦地理沿革の大略なり

地方誌

畿内誌 (五國)

國內は又五畿内とも稱せり東西の幅廣き所は二十五里南北三十五里あり面積四百四十五方里を有し京都大阪の二府兵庫奈良の二縣を置き又京都大阪神戸堺の四市及も左の三十九郡あり(明治二十九年四月設置の新郡名には參照の爲め左方に圈點を附す以下各道之に準す)





○地勢 畿内の東西北三面は山嶺を以て圍まれ唯南方一部は開けて茅渟海に瀕せり其中間は所謂河内平原にして淀川大和川の流域を占め地味豊饒人煙亦最も繁く歴史上に著名なる處多し●但し大和の南郡河内の一郡は山岳頗る重疊し吉野地方特に甚し又攝津の北より山城を繞るは中國山脈より連る花崗岩の山にして白砂緑樹と相映し風景の美なる所多し●

○山誌 畿内には高山なし著名なる山を擧ぐれば比叡山は山城の東近江境にあり山頂には有名なる延暦寺あり其麓は東山と稱し名所舊蹟多し●愛宕山は山城の西北境に聳へ其麓は西山と稱し名所又妙なからず●攝津の北に武庫山桑あり

有馬の温泉其北麓に漏出す其西には摩耶山鉄槌山等あり其海に迫る處は一の谷にして播磨に連る海岸に須磨の浦あり白砂青松と相映し南は濠洲に淡路島を臨み風光明輝にして有名なる源平の古戦場なり○大和に吉野山あり芳野十二峰と稱す其の麓は櫻花を以て顯はれ一目千本の名あり花時の景色言はん方なし此山麓は曾て南朝三代を擁護し奉り忠臣の遺蹟多し大和河内の境に葛城山あり或は之を金剛山と云ふ其麓は楠正成出身の地にして山中に有名なる千早の城跡あり大蓋原山は大和紀伊伊勢に跨るを以て三國山と稱す高さ四千二百尺にして其頂上は高臺をなせり木台原の名是より起る

○水誌 畿内第一の大河を淀河とす畿内平原を潤せる重要な河なり上流を宇治川と稱し源を琵琶湖に發し山城の産茶地方を過ぎ先づ山城の北より來る賀茂川を合せ鳥羽に至り丹後より來る桂川を合せ淀に於て木津川と會し是より淀河と稱し大阪に至り安治木津の兩流に分れ大阪灣に入る流れ二十里なれども河身廣く且つ深くして運送灌漑の便共に宜しく大阪より伏見に溯る舟常に絶えず其流域は良好の豊産地なり大阪市其吐口に建ち安治川口の如き大小の船碇泊せり古

より英雄豪傑は屢々此流域の占領を争ひ戰場となりしと多し○賀茂川は愛宕山の北より來り京都を過ぎて桂川に會す京中には御幸三條四條五條の四大橋を架せり○吉野川は大臺原山に發し紀伊に入りて紀伊川となる○十津川は吉野山に發し大和の西部を南流し紀伊に入りて熊野川となる屢々洪水ありて損害少なからず○大和川は二源あり共に大和の東部に發し二水相會して西流し河内の中央を貫き茅渚海に入る運送灌漑頗る便にして其灌漑廣く吐口に堺の市街あり巨椋沼は又大池と稱し周回四里半豊太閤か灌漑の爲め開鑿せられたるものなりと云ふ河内に採山地あり周回一里餘なり○沼海 畿内の西南部は茅渚海即ち大阪灣を抱き地位海運の利を占め海に濱して兵庫神戸大阪堺の良港あり○神戸は港内水深く我邦第一の良港と稱す其西に兵庫港あり○大阪港の近海は之を天保山沖と稱す泥沙にして海淺きを以て安治川口によりて汽船往來す○攝津の西端に和田岬あり燈臺を置けり○瀬戸内の外洋に通ずる海峡を紀伊水道と稱し海峡防禦砲臺兩岸に數個あり海峡の口に友島あり又燈臺を置く此島によりて由良海峡となす茅渚海の西播磨灘に通ずる明石

○處誌 畿内は古より本邦の中心にして上方と稱せられ代々帝都を定め玉ひし蹟各所にあり明治維新までは文華の集點なりしを以て人事風に發達し住民の輻輳すると現今にありても他の諸道に冠たり○人質は平原地方の住民は快活敏達なれども稍々柔弱なり婦女は特に服裝を喜び他を飾して其費に充つ又一般に手工に長し作業を勤む山地に至れば大に淳樸にして且つ率直なると平原地方に似す吉野奈良の如きは頗る古雅の風あり山城は三方山を以て圍まれ自然の城を作し南の一方開けたり京都を繞せる山峯は風景清楚なり且つ久しく帝都の其間にありしを以て古より文學者詩人畫工彫刻家等の輩出せしと尠からず人氣も自ら優雅なり○京都市は桓武帝延暦年間都を奈良より爰に稱し平安城と稱せられしより明治初年に至る迄一千七十六年間の都にして今東京と對して西京とも稱せり人口三十万を有す市内を上京(人口十五万五千)及下京(人口十七万五千)の兩區に分つ昔は左京右京及洛中洛外等の稱ありし御所は市の北上京區にあり街衢は大略五條ありて小路之を貫き

市區方正なり此府は美術工業地にして彼の西陣織、加茂川染の如きは他に比類なき所なり市の内外には賀茂男山、八幡、松尾、平野、稻荷の神社を初め大社多く又南本願寺、知恩院等の古刹あり東山、西山の名所、圓山、通天、清水、嵐山等あり四季の遊入常に絶えず文學問の好地にして第三高等學校同志社あり又本年よりは京都帝國大學をも開始せられんとす此府より東京へは汽車十七時十五分間程なり○伏見町は京都を距る三里、淀川の岸にあり第四師團の工兵隊駐屯す戊辰之役官軍東軍と始めて開戦の地として著名なり京都及大阪間の水路交通常に絶へず大和の奈良町は國の北は人口二万六千を有す元明帝より桓武帝に至る八十餘年間の舊都にして之を南都と稱し本邦の美術を胚胎せし所謂奈良朝の都なれば舊蹟多く風景古雅を帯び彼の春日社、東大寺の伽藍及大佛等あり其他大和には磯山、春日山、三笠山、法隆寺等名蹟夥からず世に大和廻と稱して遊人多し京阪より鐵道を通せり○郡山は其西南にあり又其南に五條あり附近には名所古蹟多し河内は平原にして物産多しと雖とも國小なれば舉ぐべき都會なし

和泉の堺市は大和川の吐口にあり人口四万七千あり古は外國との互市港にして市人は商賈に敏なり今は鐵道大坂に通し僅に四十分間にして達すべし市中に妙國寺の古刹あり又此市製造の段通及鐵器は頗る有名なり其の東には岸和田あり攝津は古來數々都を定め玉ひし處にして中にも難波の宮、高津の宮の如き明君の御座せし跡あり昔より住民多く繁昌せり○大阪市は淀川に跨り大阪灣に臨める大市にして人口五十万餘を有し我國第二の大都會とす市は東區(人口十三万五千)、南區(人口八万)、北區(人口八万)の四區より成り第四師團司令部、控訴院、造幣局等あり市内には溝渠多し故に橋亦多く水運大に便なり○大阪城は豊臣氏の築く所、高壁深濠にして堅固を以て名あり○此府は商業都府として百貨の輻湊すること西部第一に位し即ち關西地方商品の集配所なり是を以て關西より來る商品も又關西に送る貨物もすべて此府を経ることなし東京より汽車十八時五十七分程、西京へは一時五十分程にして往來甚だ頻繁なり○神戸市は攝津の西部にあり兵庫を合せて一市とす五港の一にして人口十七万あり昔は一寒村に過ぎざりしが開港以來忽ち繁盛に越き既に大都會に進めり而か

も人口は益々増加し仙臺金澤を超過し又横濱と伯仲せり港内は各國の船舶出入常に斷へず貿易品の輸出入額横濱に次ぐ市内に兵庫縣廳あり外國人居留地は山の手にあり市の北に淺川神社あり有名なる嗚呼忠臣楠氏之墓の碑は城内にあり淺川を西に隔つれば兵庫にして清盛の豎立せる福原の舊趾あり近郊に生田森布引瀧あり須磨明石亦遠からず西京より汽車二時五十八分程大阪へは一時八分程なり

○氣候 畿内は山嶺を以て圍まるゝを以て氣候は内地性氣候にして寒暑共に強し中にも京都の夏は海風涼を送らず八月の氣温は平均二十六度三にして時に三十五度以上に昇るとあり蒸煩甚しく九州南部の暑氣に劣らず冬は比叡風と稱する北風凜烈時としては零下十度以下に降ることあり一月は二度三を平均とす●大阪は京都に比すれば暑氣稍々強きも寒氣は稍々和かなり即ち夏(八)の平均は二十六度九にして冬は三度五を平均とす其他の各地も之に類す○雨量は一般に少く瀬戸内の寡雨部に屬し全年の量一千三四百耗(四尺三寸乃至四尺六寸)の間により概ね寒候に少くして暑候に多し特に梅雨中は最も多量なり○之を要するに寒暑共に強く同

温線(全年)は十五度と十四度の間にあり

○生業産物 畿内は美術的工業地として著はる京都の如き人々最も手工を勤む故に絹織物の如きは京都府のみにて年額一千万圓以上の産出あり固より日本第一の多額なり金襴緞子錦等の特産地にして海外に輸出する額も尠なからず攝津河内大和和泉の木綿は其産額亦多し●清水焼堺鐵器も産額多く大阪は紡績業盛に行はれ其他の製造業の盛なると全國の最たり堺段通は近來大に需用を増せり攝津より産する伊丹酒は其醸造高は年額五十二万石にして全國總醸造額の七分の一を占りたり吉野の紙及葛奈良の晒布及漬物は古より稱せられ大阪の簾細工竹細工も名あり近來輸出額多き摺付木は神戸附近より産せり○平原地は肥沃なるを以て農業に従事するもの多く米麥の産も少なからず特に宇治茶は地質に適し年々多量の産あり其海外販路は重もに英米の兩國なり

○其他山城の團扇扇子細工物及松茸大和の漆品墨筆礦石河内の瓜類和泉の烟草線香攝津の池田炭御影より出す花崗石は御影石の稱あり神戸より出す牛も亦神戸牛の名高し

東海道誌(十五國) 附豆南諸島

東海道は畿内の東にある海岸地なれば東海道の名あり古はうなつち(土)或は東海濱道と稱したり即ち東海濱の道の意にして本州の中部太平洋南岸に濱する一帯の総稱なり○本道は西より東に亘りて長く凡そ百二十里あり南北の幅は廣き所二十二里にして面積二千六百五十八方里あり○政治區は東京府及び神奈川埼玉千葉茨城三重愛知静岡山梨の一府八縣を置き東京横濱水戸津名古屋静岡甲府の七市あり又左の十五國百八郡に分てり

- 伊勢國 一市 津
- 伊賀國 二郡 阿山 名賀
- 志摩國 一郡 志摩
- 桑名 員辨 三重 鈴鹿
- 河内 安濃 一志 飯南
- 多氣 度會
- 三重縣(十五郡) 市

- 尾張國 九郡 名古屋 東春日井 西春日井 丹羽
- 三河國 十郡 東加茂 北設樂 南設樂 寶飯 愛知縣(十九郡) 市
- 遠江國 六郡 濱名 小笠 周智 磐田
- 駿河國 二市 静岡 引佐
- 甲斐國 一市 甲府
- 山梨縣(九郡) 市
- 靜岡縣(十三郡) 市
- 富士 庵原 安倍 志太
- 東山梨 西山梨 東八代 西八代
- 南巨摩 中巨摩 北巨摩 南都留
- 北都留

なり信長秀吉及び清正の如き英傑は皆此平野中に養育せられたり
本道を横断する山脈は三條あり(一)關東山脈(二)富士帯(三)赤石山脈是なり次の山誌
に於て一々之を説明せん

○山誌 (一)關東山脈は關東平野の北隅武蔵の北なる秩父山脈より起り相模甲斐
の間を亘りて和田峠(二〇八九尺)大嶽山(四三〇〇)及び御坂等の山嶺あり小佛峠よ
り笹子峠に亘る險路は之を踰す甲州路なり此山脈には著しき高峰なしと雖ども
古代の地層にして多種の礫石を以て組成し地質學上の標本として著名なり
(二)富士帯は信濃より甲駿相を横截して伊豆に突出する高峻なる火山帯の稱なり
故に帯中の山は皆火山を以て成る甲斐の八ヶ岳(九六七六)箱ヶ岳(五八八〇)等より
遂に本帯の盟主なる富士山に連れり●富士山は本州第一の高山にして最頂點な
る剣山は一萬二千四百六十七尺に聳ゆ此山は噴火作用より成り頂上には周回一
里の噴火口あり之を内院と云ふ富士の頂は四時概ね雪を戴き其形倒扇狀なり丈
山翁が「白扇倒懸東海」天は能く此山を形様せる名句なり富士は十三州より望み
得べく遠望甚だ雄壯なり中腹は寶永山あり●富士の脈は南の方愛鷹山及び箱根

山彙となり伊豆に於て天城山彙あり太平洋には豆南諸島を噴起し遂に南に走れ
り此帯附近には温泉涌出し箱根七湯は箱根山中の一仙郷にして熱海の噴泉は天
城山東麓にあり晝夜各三回噴出し其時を遠へす所謂間歇泉(Intermittent Spring)なるものなり
●富士帯は自ら日本を兩分する高臺なり箱根の山坂は此帯を踰える險阪にして
古へ關門を備へ關東關西の稱は是より起れり今國府津沼津兩驛間の鐵道線は此
山彙を迂回して横さる所なり

(三)赤石山脈 三河の海濱より起り遠駿の間に蟠まり遂に信濃に達する重厚の山
脈なり此脈南部の海濱にありては未だ高からざれども北方に走るに従ひ漸次高
峻となり遠江には大日山秋葉山あり是より無間山となり遂に本脈の盟主なる赤
石山一萬〇百三十五尺及び白峰山一萬〇二百十二尺の如き高山となる身延七面
地蔵の諸山も此脈中にあり小夜の中山は本脈を横さる阪路にして今は堀内金谷
兩驛間に長き隧道を穿ちて瀛車を通せり又此脈は天龍大井の兩川及富士川豊川
等の分水界となれり此脈中は往々金礦を藏す甲斐の都川駿河の笹山等の金山あり

以上三脈の外東海道の山岳は常陸に阿武隈山脈より連る筑波山脈あり最高凡そ三千九百尺なり是より加波山に連る筑波山脈の東には石炭産地あり○安房上總の界には鋸山脈あり中に炭産地あり其鹿野山は銷夏の好地なり○伊勢近江伊賀に界する處に鈴鹿山脈あり古昔關門を其麓に置けり又伊勢の南部より志摩に亘りては紀伊山脈あり

○水誌 本道の分水界は地勢によりて東山道界にあり或は中仙道内地に滲せる水流が山麓の間を縫ふて本道に出るものあり後者の河は多く長流なり而して遂には總て太平洋に排水す故に東海道を旅行する者は多く此諸河系を横さるべし利根川は源を上野の文珠山に發し關東平地の間を走るを以て分派をなす關宿(下)に於て本支流に兩分し支流は江戸川と稱し武蔵下總の界を流れて東京灣に入る本流は上中下利根の稱あり中流に於て最大の支流なる鬼怒川を合せ益々巨流となり下流は川幅一里餘に及び霞ヶ浦に入る長さ七十三里あり此河は平野の間を流るゝを以て緩にして水深く汽船往來し運漕便利なり流域甚だ廣く住民頗る繁し此河によりて建つ名邑多し此河は關東第一の大河なれば阪東太郎の別稱あり

天龍川の源は諏訪湖にあり遠江の中央を貫流し下流は大天龍小天龍の二派に分れ掛塚に於て遠江洋に注ぐ長さ五十六里あれども水淺く運漕の便を缺く此河に架する大鐵橋は長さ八百間餘あり東海道第一の長橋とす

大井川は源を白根山より發し駿遠兩國の境となり駿河灣に注ぐ長さ四十六里運漕の便なく却て往々水害を蒙るとあり昔此河の徒涉は東海道旅行の一名所に數へられたり今は鐵橋之に架し長さ天龍橋に次けり

富士川は甲斐の釜無笛吹荒川等の源流を集り赤石山脈の東側を急下して駿河の中央を貫き岩淵より田子浦に注ぐ長さ十八里此河は急流なれども甲斐より南海岸に出づる唯一の道なれば小舟の上下常に絶えず曾て源平の兩軍河を挾んで對陣し平軍夜水禽を聞き驚て遁逃せし舊蹟たり

木曾川は信濃の小木曾山中より發し山間を奔流して美濃を過ぎ尾張の西境を繞りて伊勢の境より伊勢の海に入る此河は濃尾平地に下りて頓に緩流となるを以て雨量多きに逢へば灌域に水害を被らしむると少なからず然れども灌域なる濃尾平原の沃地は此河の滓渣より成れり下流は數多の分派をなし運漕灌漑共に便

あり源より四十六里あり●以上を東海道五大河と云ふ
 三河國の矢矧川(或は矢作)は國の西部を流る、最大河にして長二十八里衣ヶ浦に入る
 其流域は家康出身の地なり(二)豊川は東部を流れ豊橋町を過ぎて衣ヶ浦に入る(三)
 大平川は矢矧川に合す以上三河は國名の起因なり
 武藏には荒川多摩川の兩大流あり荒川は秩父山麓に發し下流は有名なる隅田川
 にして東京を過ぎ全流四十五里にして東京灣に入る東京市中には吾妻兩國永代
 等の大橋を架し其東岸は所謂向島(或は向島)にして數里の間櫻樹を刻植し陽春開花の
 候は都人群集する其賑合は却て一奇觀なり此兩岸には待乳山淺草寺梅若白髭等
 の名所ありいさ言聞はん都鳥は此河の國を謂ふなり運漕甚だ便にして日本の首
 府が此流域に撰まれたる偶然にあらざるなり○多摩川は甲斐に發し武藏の西を
 流れ下流は即ち六郷川なり河産の鮎は其名高し
 相模に兩河あり馬入川酒匂川と云ふ駿河に安倍川あり其他伊勢の雲出川宮川五
 十鈴川常陸の那珂川久慈川伊賀の名張川等あり
 霞ヶ浦(或は霞ヶ浦)は我邦第二の大湖にして周圍三十六里銚子口より鹿島洋に通ず漁船白

帆絶へず湖中を往來す之に通ずる北浦(五里十)及び下總の印幡沼(四里十)手賀沼(四里十)
 沼も關東平原の窪地の一部に湛へたるものなり●富士山の裾野を環りて富士八
 潮と稱するあり其内蘆湖は箱根山中にあり清麗鏡の如く湖邊に離宮あり下流は
 早川となり函嶺を下れり其兩岸は箱根七湯ある雅俗なり川口中精進本栖富士
 沼西四尾連の湖を合して富士八湖と云ふ○遠江の濱名湖は古は全く湖なりしが
 明應年中地震の爲め決濟して今は海の狀をなせり
 ○沿海 伊賀甲斐の二國を除くの外は悉く北太平洋に濱し沿岸頗る長し其海面
 は種々の名稱に區別せられ常陸の沖は鹿島洋と稱し上總の沿海は九十九里濱と
 云ふ安房を繞るは房州沖にして武藏の内海は東京灣なり相模灘は深海を以て聞
 へ豆州沖は潮流急なるを以て名あり駿河灣は風景雅良にして遠州洋は廣遠なり
 伊勢海は深く陸地に浸入し三河の内海は衣ヶ浦と稱せらる●豆州沖には伊豆諸
 島並列し衣ヶ浦には桃取諸島散在せり○岬の重なるものは常陸に犬吠崎あり
 て東出し畧々暖流と寒流との境をなせり總房半島の東端を大東崎とし南端を野
 島崎西端を洲崎(安)とす三浦半島には觀音崎あり上總の富津崎と相對して東京灣

の海關をなせり三崎には大學の臨海實驗所ありて西は遙に駿河の眞鶴崎と相對し其間の沿岸に鎌倉江の島大磯ひ金澤の八景あり伊豆半島の南端に石廊崎あり遠州の御前崎と相臨ひ其間は駿河灣にして沿岸に興津浦原田子浦あり白妙の富士の高峯を望み絶景なり三河の渥美半島は西に挺出し其端の伊良胡崎は知多半島の師崎と衣浦の口を扼せり志摩には麥崎南を指し燈明崎北に向ふ其間の大王崎は遠く伊豆の石廊崎と相對し其海程凡う一百哩是れ則遠州灘なり海岸線の屈曲以上の如くなるか故甚た良港に富む東京灣の横濱は五港の一なる良港にして相模の横須賀は軍港なり鎮守府及宏壯の造船所なり東洋に比類鮮しと云ふ浦賀も亦良港なり伊勢の四日市は五港に次ぐべき佳港にして本州の中部及び北陸の旅客貨物は多く此港に依る駿河灣の清水港は三保の松原之を擁し遠に富士を望む佳港なり下田は豆南の良港なり其他志摩の鳥羽的矢尾張の半田熱田遠江の掛塚安房の北條館山下總の銚子常陸の磯濱等の港あり本道の南海中には有名なる黒潮あり黒潮は赤道地方より北に流るゝ水温高き海流にして遠州洋の如きは最も著しく北東に向て一時間に凡そ二哩の速力を以て

流る御倉島と八丈島との間は潮勢急に黒瀬川と稱する急流あり又犬吠崎以北の海には親潮と稱する北より來る寒流あり此流は平均水温より低きと五度半乃至八度三とす

○處誌 東海道は前に海を控へ後は山を負ひ其中間の沃野頗る廣きを以て民物夙に繁庶せり特に源頼朝鎌倉に覇府を開きし以來北條氏の末葉に至るまで我邦の中心となりて徳川氏江戸を以て幕府と定めしより本道は再び我邦の中心となり關西諸侯の參勤交代するもの路を本道に取りしを以て沿道頗る繁昌し京都より江戸に至る凡う百三十里の間五十三次の宿驛ありて我邦交通の第一要路たりし當今は我帝國の首府を東京と撰定し玉ひしより本道は益々繁榮し東海道汽車の往復頻繁は他所に見ざる處なり東道人の性質を謂へば關東人は潤達にして俠氣あり關東武士は古より豪勇を以て聞へたりしが輒近に及んで都人士は漸く柔弱浮華の弊風を生せり關以西の住民は伶俐にして温和なれども曾て英雄輩出せり則ち尾張は豊太閤を始めとし前田加藤福島山内澁川等の武將及び山田長政の如き豪傑を出し三河は徳川氏を始

め其旗下の武將を出せり●甲斐は山間にありて一種傑悍の風あり是れ武臣氏の據りて武を振ひし地其駿河は今川氏勃興の地面して伊豆は北條氏の起りし地なりとす

伊賀は山間の小國にして上野及び名張の小都會あり

伊勢は大廟の在る所にして近畿に接し地肥へ産多く豊有の稱あり○津市は伊勢海に濱し人口二萬九千を有し藤堂伯の舊城たり今三重縣廳のある所參宮鐵道通して便利の地となれり●宇治山田は皇太神宮及び外宮のある所參宮者の爲め繁昌し人口二萬九千あり●桑名四日市は共に要港にして四日市は特別輸出港として盛に米穀を輸出す●松阪は小都會にして本居宣長翁出身の地なり

志摩は我國の小國海岸に灣入多くして鳥羽的矢の港あり

尾張は濃尾平野の南部を占め南は内海に面し其平野の肥沃なると全國殆ど其比なし故に人口多く都邑相望り○名古屋市は沃野の中央灌漑を占め人口既に二十萬に達し三都に次く繁昌なり其地東西兩京の中間にありて汽車雙方に通し東京へ十二時間程西京へ六時間程なり水路には熱田半田武豊の諸港を控へ水陸共

に運輸の便あり名古屋城は世に金城と稱し天守閣頂に金鉾を裝置せり世々徳川氏の分封所たり今第三師團を置く市中に愛知縣廳控訴院あり商業頗る活潑なり

熱田は神社あれば宮と稱し社に草薙劍を奉祀す

三河の岡崎町は徳川氏基業の地なり後本多氏爰に封せらる業豊橋は其東豊川流域にあり第三師團の衛成地にして征清役に驍名を擧げし歩兵第十八聯隊の屯駐所なり

遠江より三河尾張に亘り本野原桶狭間小牧山等ありて元龜天正年間の古戰場多し●濱松町は濱名湖東にあり人口一萬六千を有し今東海道鐵道線路に當り市街繁昌せり加茂眞淵翁の出身地なり●海岸に掛塚あり天龍川の吐口なり

駿河は富士を負ひ駿河灣に望み風色に富めり今川氏は此地に起り家康は爰に隱栖せり○静岡市は安倍川の灌漑地を占め人口三萬七千あり徳川氏の別封地にして駿府の稱ありし維新後今の名に改めたり此市は東海道の要地に當り市街繁榮せり東京より汽車六時十四分程なり其東に沼津あり氣候和順の地なり

甲斐は富士山の蔭にあり四面又山を以て繞らす峽中にあり是れ國名峽の起源なり

り○甲府市は甲斐窪地の中央を占む是れ曾て武田氏の割據せし所たり人口三萬五千を有す山梨縣廳あり峽中の一都會なり其東に勝沼町あり有名なる葡萄の産地なり●郡内(甲斐の東部)に猿橋驛あり猿橋と稱する奇工の橋あり●諏澤は富士川の駿河に下る口にあり

伊豆は『出』にて海中に突出する半島國なり北條氏の故地にして其他源家の股肱を出す勢からざれば鎌倉の覇權は此半島に孕めりといふ可ならん併し土地瘠薄なれば今繁盛の集会所なく只下田港及び温泉に有名なる熱海修禪寺等あり

相模は源頼朝府を此國の鎌倉に定めし景勝の地にして西に函根を負ひ東に關東平原を控へたり○小田原は箱根の東麓にあり昔は早雲以後北條氏數世の據りし地にして後大久保氏の城市たり○浦賀須賀は共に三浦岬にあり横須賀は我軍港にして第一海軍區の要鎮なり浦賀は米艦始めて來朝の歴史に關し著名なり●大磯は有名なる海水浴場なり

武藏は古の武藏野にして關東平原の中央にあり荒川多摩川の兩流之を貫通し南に東京灣を控へ形勝の地なり我邦の中央府か此國中に撰定せられたること偶然

にあらず○東京市は武藏野平原の中形勢無雙の地位を占め人口百三十七萬あり我日本國の首府にして東洋第一流の大都又世界中屈指の都會とす市區は隅田川の兩岸に跨り長さ凡る四里半横四里に亘り面積三方里七ある犬市街なれども今より三百年前は武藏野と唱ふる寂寥たる地にして其中に一小城あり是れ即ち太田道灌の撰定して築ける江戸城なりし後家康將軍大に改築して其治所と定め全國三百有餘の諸侯を參勤交代せしめ又其邸宅を設けしめたるを以て商賈多く府内に集り百貨茲に會し自ら貿易の中心となり其繁昌甚しく土地一升到金一升の謠ある程なりしかくて凡二百五十年間は幕府の一都城なりしが維新の初め帝都を茲に移し東京と改稱し大に宮城を造營せられ爰に中央政府を置かれたり故に政治學問經濟の中心となり重なる官衙學校銀行及び會社あり全國百餘の事物皆な連絡を此市は有す市に十五區に別つ則ち麴町(七口)神田(十三萬)日本橋(十四萬)京橋(十二萬)芝(十二萬)麻布(五萬)赤坂(四萬)四谷(三萬)牛込(五萬)小石川(五萬)本郷(七萬)下谷(九萬)淺草(十三萬)本所(十二萬)深川(九萬)是なり麴町區は市の中心なり特に『丸の内』と稱する外郭内には宮城を始め諸官衙兵營等大抵此内にあり外に通するには城

門多く昔は江戸四十八見付々の稱ありし商業區は芝、京橋、日本橋、神田、下谷、淺草、本所、深川の八區とし、下町の稱あり就中日本橋區内には大買多く自ら商業の中心を占め京橋區の銀座通りは煉化石造の建築にして神田區も商業繁昌せり宮城の西北を圍匝する他の七區は前に比すれば丘陵起伏するを以て山の手と稱し繁盛は稍々商業區に劣れども諸邸宅多し本郷には大學を始め學校多く赤坂には離宮あり東京の大通りは西南品川驛より東北千住驛に連れり該通り線路は品川より新橋、京橋、日本橋を経て萬世橋、上野を過ぎて千住に達せり。隅田川は市の東部を南流し市中を縱横する數多の深水皆な之に注入して大に貿易運輸を資く此河の東岸は本所、深川の兩區にして架するに大橋、吾妻、厩、兩國、新大、永代の六大橋を以てす鐵道馬車は市中の重なる線路を通し公園には上野、淺草、芝、深川等あり鐵道は新橋より東海道へ上野より中山道及奥羽へ飯田町より甲州路へ本所より銚子の各所に通せり

横濱市は東京灣の口に臨み本牧岬出て、港口を扼して風濤を遮船艦の碇泊安全なり此港は今より三十餘年前は寂寥の一漁村なりしが安政六年外國互市場と定

めし以來俄に繁盛し人口既に十八萬に及へり東京との汽車往來繁く僅に五十分にして達すべし其の海路は内國は勿論海外各國に向つて通し内外の船常に此港に發着し益々繁榮すへき勢なり外國貿易の盛なること開港場中の第一なり市内に神奈川縣廳、正金銀行、税關等あり外國人居留地は野毛山の麓にあり八王子町は國の西北甲州街道に當り織物の産地として著はる人口二萬六千あり東京より鐵道通して賑合ひしか本年春の大火により痛く焚燒せり。浦和町は東京を距る東北六里の所にあり埼玉縣廳所在の地なり

安房は太平洋と東京灣との間に突出する半島の南端なり高僧日蓮の出所にして日蓮宗の關東に勢あると頗る甚し内海濱に北條館山の兩港あり

上總は房總半島の中部を占め内海濱に木更津港あり

下總は關東の最も低平の部を占め全國山を見ず。千葉町は東京灣に臨み二萬六千の人口あり第一高等學校醫學部を置く東京との間に流車にて僅に一時十分程なり。佐倉には近來近衛歩兵聯隊を置く其東に成田あり有名なる不動を祀る東京より詣者多し銚子港は大吠崎の傍にありて東京の間鐵道通し四時間程なり

常陸は關入州の東端にして徳川氏の別封地なり古より人物を出せり○水戸市は那珂河流域にあり人口三万一千あり茨城縣廳を置く此市には曾て弘道館と稱する有名の學舎あり文學盛に行れ藝に大日本史の撰ありて世に高名なり外に土浦石岡湊等の小都會あり

○氣候 東海道の沖合には黒潮の温暖流あり其調和によりて氣候甚だ温和なり夏は海風熱を掃て夜涼特に快く冬は温暖にして積雪薄く全年平均温度は十三度乃至十五度の間にあり其最も低きは甲府の十三度にして最高は銚子の十五度なりとす濱松沼津は中和にして十四度九面して名古屋津の如きは却て低く十四度二なり冬季は甲府の零度九より銚子の五度二の間にあり夏季は名古屋の二十六度四より東京及沼津の二十五度五の間にあり故に我邦中最も温和の地と云ふべし

○風向は晝間は太平洋より内地に向ふ海風あり夜に入れば陸風吹けり東京年中北風多く冬の風こがらしは平原を渡るを以て特に威あり○雨量は稍々多き部に屬し二千耗より一千五百耗の間にあり而して海岸に多く北部に寡し降雨の寡き

は一月より三月まで並に十一十二の兩月なり五月頃より漸く雨天を増し九月の時雨を以て最多の時とす

○生業物産 氣候の中和にして平地多きを以て農行はる又住民繁く都會多きを以て商業も亦盛なり●工業も資本家多きを以て他に比して繁盛なり總ての生業斯の如く發達せるを以て富の度も頗る高し○尾張及び關東平野は廣大は大農業地なり尾張は耕地面積の割合に拓けたると全國第一とす其他武相兩總常の五國も農産物からす尾張は米質良好にして愛知縣下にて年々百三十万石以上を産し千葉縣下は百四十万石を産す麥は武藏尾張の兩國を最とし平原地方は大豆を産し神奈川縣の粟崎玉縣(越)の甘藷あり尾張遠江の藍は阿波藍に次ぎ水戸烟草亦著名なり●茶は駿遠最も能く産し其販路は重に海外に輸入せり●蠶業は函關以東盛に行はれ神奈川縣は一方里内に三百七十石の平均を以て繭を産し埼玉縣は三百十三石の平均なり

商業は全國中最も盛にして東京は我國の中心なれば固より他に比なく我邦商品の配送所なり次を横濱とす故に富の度又高く東京には一萬圓以上の所得たる富

豪百八十二家あり(全國にて三)其總所得は五千七百万圓なり則ち全國の六割三分を占め大坂に七十四倍する富の度なり横濱の富は大坂に次ぎ全國三位にあり工業品の産額多きは織物にして愛知埼玉の兩縣下を最も盛なりとす則ち愛知は愛知織と稱する木綿織を出し其販路甚だ廣し●埼玉の産地は塚越川越等にして木綿を主とす神奈川縣及び甲斐の郡内織、甲斐絹も多産なり●紡績業は近來諸國共盛なれども東京名古屋三重等最も盛にして山梨静岡之に次ぐ○陶磁器は尾張の瀬戸焼七寶燒伊勢の萬古燒伊賀燒等多額を産し瀬戸物と言へば陶磁の代名たるに至る其他名古屋屋敷伊勢形紙駿河の漆品竹品の産あり東京の袋物錦書其他の細工物は固有の長技と稱す下總の醤油味淋亦著名の産なり海産物は本道の重要品にして海岸線一里に付三千五百圓以上の産あり故に漁業者多く千葉縣は漁夫及び海産額の多きは全國第一とす而して彼の九十九里濱の鰯を重もなりとし干鰯として盛に支那に輸出す又千葉に次て多きは三重神奈川の兩縣とす静岡愛知等又之に次く而して鰹鰯鮪を多産とす伊勢の蝦尾張三河の海參駿河灣の鯛東京灣の海苔等名あり

礦物の産は豊ならず僅に甲斐駿河伊豆に少量の金を産し常陸に石炭を産するのみ其他は御岳水晶雨畑硯材(共に)伊豆の根府川石砥石三河に御影石名倉砥遠江に石炭あり○林産は伊豆に天城山の良材林あり又駿遠に亘り大森林ありて木材には頗る豊なり

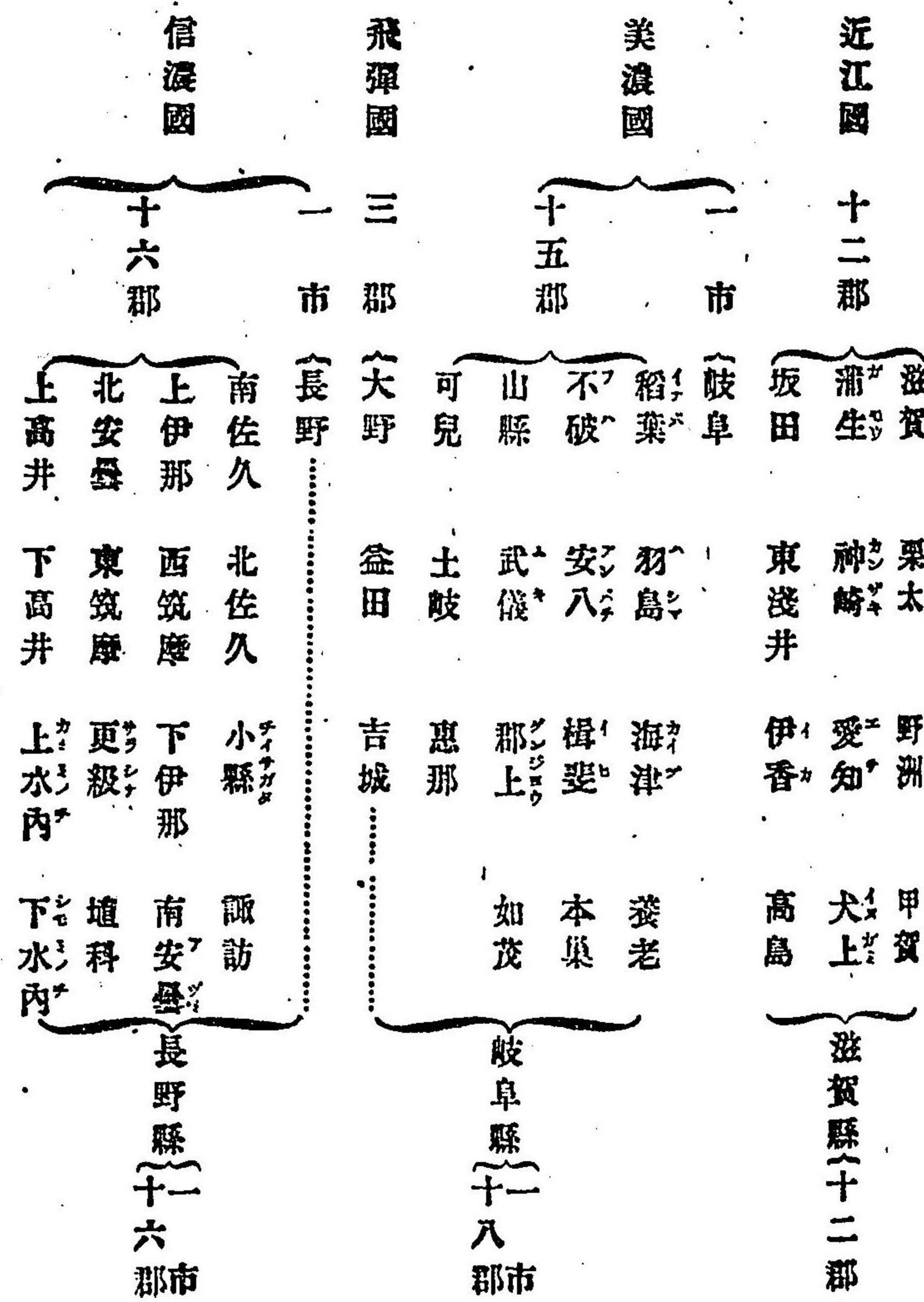
豆南諸島

此の諸島は伊豆下田港の南より太平洋上に羅列する諸島の總稱にして島嶼三群に分る(一)伊豆七島(二)小笠原島(三)硫黄島是なり概ね東京府の管轄とす此の諸群島は富士帯の噴起に係る火山島嶼なり伊豆七島は大島を最大とし周回拾里餘あり島中に三原山と稱する噴火山あり大島の南に利島新島神津島三宅島御藏島及八丈島順次に羅列せり八丈島は下田を距ると四十七里島中に西山と稱する噴火山あり著名なる八丈絹の産地なり小笠原島は下田の南二百里餘にあり父島母島及兄弟姉妹群島等の群島より成る古無人島と稱したりしが今は居民五百人餘あり文祿中、小笠原貞頼の發見する所なり

硫黄島は小笠原島の西南にある無人島三箇にして曾て火山列島と稱したりしが明治二十九年九月勅令を以て之を硫黄島及南硫黄島北硫黄島と稱せられたり

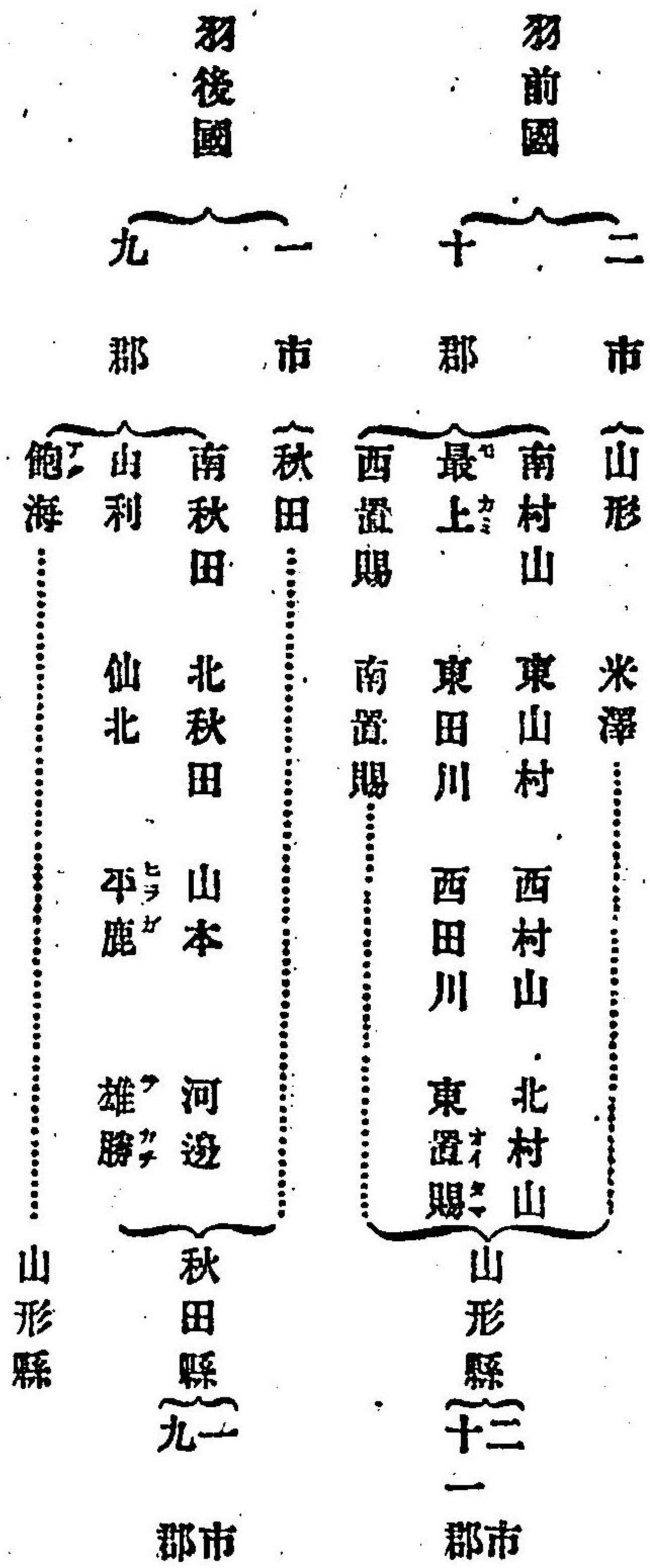
東山道誌

東山道は畿内の東に當る山道なれば則ち「東の山路」の義なり但し往昔の東山道とは重もに中山道^{ナカヤマミチ}を指し東北なる舊奥羽は未だ王化に洽はざりしを以て其東海岸をば道^{ミチ}の奥^{ウチ}と稱し西海岸をば出羽^{デフ}と稱せり中山道と舊奥羽とは地形風土著しく相異なれば便宜上今も之を區別すべし●中山道の面積は二千六百〇三方里にして奥羽は四千二百四十七方里あり故に之を合すれば東山道は六千八百五十方里を有し全國の四分の一餘を占めたり西は畿内に接する近江に起り東北に延びて陸奥に至るまで二百八十餘里の長さに亘り幅廣き所は五十三里あり○政治區は之を群馬、栃木、滋賀、岐阜、長野、宇都宮、仙臺、盛岡、弘前、山形、米澤、秋田の十市又左の十三國一縣に分ち前橋、岐阜、長野、宇都宮、仙臺、盛岡、弘前、山形、米澤、秋田の十市又左の十三國百三十九郡あり



陸奥國		陸中國		陸前國	
九郡	一市	十二郡	一市	十四郡	一市
北津輕	東津輕	上閉伊	岩手	登米	柴田
上北	西津輕	下閉伊	膽澤	志田	名取
下北	中津輕	九戸	江刺	桃生	宮城
三戸	南津輕	東磐井	西磐井	杜鹿	黒川
青森縣	南津輕	和賀	稗貫	栗原	加美
八郡市	青森縣	巖手縣	巖手縣	宮城縣	宮城縣
	秋田縣	秋田縣	秋田縣	宮城縣	宮城縣
				十六郡市	十六郡市

磐城國		下野國		上野國	
十郡	十郡	八郡	一市	十一郡	一市
岩瀬	信夫	河内	宇都宮	勢多	前橋
南會津	伊達	那須	上野	群馬	群馬
北會津	安達	安蘇	芳賀	多野	多野
耶麻	安積	足利	下野	山田	北甘樂
福島縣	安積	栃木縣	栃木縣	群馬縣	群馬縣
十七郡	宮城縣	八郡市	八郡市	十一郡市	十一郡市



○地勢 狹長なる地形にして太平洋を東にし、日本海を西にす。一般に高隆にして平地少し。只海濱及山脈の間厓に狭き低地を存するのみ地質は多く、火山岩に屬し風色頗る蒼篠の觀あり。○奥羽は山脈の間所々に窪地を存す。庄内平地、山形平地、米澤平地、會津平地及盛岡平地、仙台平地等是なり。○中仙道は火山脈并に水成岩共に連亘し、信濃の如き諸山脈の集合所にして、本邦第一の高隆地なり。飛驒も亦高隆にして中央高原を作せり。近江は湖邊に平地を存せり。

○山誌 樺太山系に屬する水成岩は北上及阿武隈の二脈あり。又火山脈三條あり。北上山脈は陸奥の東岸より起り、南西方に走り、松島灣に陥りて止む。陸中の北上川東岸に於て最も高く六角牛山早池峰(六二七〇尺)仙人峠(二九三〇尺)等あり。南走するに従ひ高さを減す。此脈は金鑛、鉄鑛を藏め、仙人峠及ひ其近傍は本邦第一の鉄鑛を藏む。

阿武隈山脈は阿武隈川口より起り、西南に走り、關東平原の東部に終る。其著しきは磐城岩代の境に於て靈山、山王堂峠あり。磐城に於ては鎌倉山、矢大臣山、關井嶽、湯岳となり。常陸の筑波山、加波山に連る。此脈は處々に石炭鑛あり。

中央火山脈は斗南半島の燒山、恐山より起り、八甲田山より奥羽の境を走り、森吉山、南部富士の名ある岩手山、七時雨山、駒形岳あり。陸前境に於て栗駒岳、荒神山、藏王岳あり。磐城に入りて新田岳となり。岩代にて噴起最も盛にして、會津平地を繞るは皆火山にして、三千尺以上の高山十四箇競立せり。其最も著きは先年爆裂したる磐梯山、及び續て爆發したる吾妻山なり。次に博士岳、駒岳の高岳あり。下野に入りて那須岳の大火山となり。以て日光山彙に連れり。此山彙中には壯麗美麗を以て世界に名

ある東照廟あり山麓中に舊火口なる中禪寺湖あり最高峰を男體山と稱し八千二百二十尺あり上野にては赤城、榛名、妙義の三大山となる妙義山は奇岩怪石聳立し三奇景の一とす是より直に淺間山に會せり本脈は本邦第一の長脈なり
 鳥海火山脈は陸奥の岩城山に起り直に盟主なる羽後の鳥海山(六千八百八十五尺)となる羽前の月山越後境に於て飯豊山、御神樂岳となる六十里越は此山脊を踰ゆる阪路なり上野の境に於て白根山七千七十尺の高峰となりて淺間山に會せり此脈中には多く銀銅の鑛を藏せり
 東部沿岸火山脈は羽後の男鹿半島なる寒風山より起り越後に入る此脈、信濃陸中、飛騨の境に於て最も高峻なるを以て別に乘鞍山脈の稱あり脈中には戸隠、船岳、鉾ヶ峰(二万七千七百尺)、穂高山(一万一千六百尺)、乘鞍岳(一万三千三百尺)の如き高山あり、本邦最高の連嶺なり
 以上諸山脈は皆信濃に集まるを以て高山多く且つ其南部の赤石山脈の西側に噴出岩あり之を御岳山脈と稱す御岳は一万〇八百尺に聳へ之と相對峙して東に屹立する花崗岩を駒岳(一万〇三百尺)とす御岳と駒ヶ岳との豁間を下るは木曾川なり

此兩岸は有名なる木曾山道なり美濃、飛騨は深飛山脈の爲め一般高原に屬し位山、惠那山の如きは高原中の山岳なり●伊勢境より近江に亘りて鈴鹿山脈あり藤原岳、釋迦岳、三國山、鷹吹山、國見山等あり不破關及鈴鹿の關は此脈背を超す古の關門なりし
 ○水誌 奥羽の水は中央に山脈あるを以て其左右に配水せらるる中、仙道は濱海ならざるを以て水は皆此地に發して他に入れり信濃中央の高地は千曲河、木曾川の分水界なり千曲河は甲斐の金峰山に發し北流して上田を過ぎ川中島に於て犀川を合せ一大河となる下流遂に越後に入る流域は灌溉の便あり
 木曾川は小木曾村に發し西流して御岳と駒岳との峽間を刻して深溪を作る是れ則ち岐蘇谿にして河流或は掛りて瀧となり或は淀んで淵となり峻嶒の間を洗ひ激湍白雪を吐き、木曾の椈橋、寐覺の床等の奇景十數里の間深林を以て蔽はれ美濃に入りて緩流となる流を下るときは奇崑處々に迎へ緑山、碧水人をして應接に遑あらしらしむ則ち我邦三奇景の一たり
 美濃に三、大河あり東なるを飛騨川とし、飛騨の水を集り南流し美濃に下りて平野

の間に緩流し木曾川に入る中央を長良川と云ふ北境の飛騨界より發し南流して岐阜市を過ぎて木曾川に會す此川は鮎多く鵜飼は古より有名なり●西なるを揖斐川と云ふ越前境に發し大垣を過ぎて伊勢海に入る此三河は運漕流域共宜しく彼の三野の沃地をなせりと雖とも屢々洪水の害あり●岩代中央の水は日橋川となりて越後に入る●下野の水は鬼怒川となりて遂に利根川に會流す

奥羽に北上阿武隈最上御物能代の五大河あり○北上川は北上山脈の西側に沿ふて南流し諸水を集めて石濱港に入る七十六里の長流にして運送の便あり●阿武隈川は阿武隈山脈の西を北流すると五十里荒濱に注ぐ福島二本松は此流域なり●最上川は岩代境に發して北流し米澤山形兩平地の深流を集め中流より一折して西に向ひ酒田港に注ぐ日本三急流の一なり●御物川は南羽後の排水道にして秋田を過ぎ海に入る●能代川は北羽後の水を合せ能代港より海に注ぐ

琵琶湖は本邦第一の大湖にして周回五十九里餘あり湖邊は風光秀美にして湖畔には入景あり其北に余吾湖あり其間に賤ヶ岳あり有名の古戰場なり●猪苗代湖は會津平野の中央に湛へ十六里半の周回あり●羽後に入郎瀧あり周回十五里●

本道は噴火甚だ盛なりし證として火口湖多し則ち陸奥の十和田湖は周回十里あり●信濃の諏訪湖(五)は高地にあれば例年十二月中旬には湖面堅氷を結ひ湖上は人馬の往來自由なり●下野日光山の中禰寺湖は周回八里あり其他所々の高山頂に某沼と稱して周圍三四里の湖多し皆火口湖に屬す

○沿海 中仙道及岩代は海に濱せず濱海國は僅に奥羽の内六國なり而羽及び陸奥の西半は日本海に濱し舊奥州は全く太平洋に臨む陸奥と北海道との海峡は津輕海峡と稱す海岸線は出入多からず只陸奥に頗る出入あり西に津輕半島突出し其大湊は將來多望の良港と云ふ津輕山嘴の端を龍飛崎と云ひ渡島の白神崎とは僅に七八里を隔つ東に斗南半島あり其端に大間尻矢の兩岬あり此兩半島の中間を陸奥内海とし青森野邊地の二港あり●日本海岸には羽後の男鹿半島出で八郎瀧を抱き其東に能代港西に土崎港あり羽前の境に酒田あり

太平洋岸は親潮寒流の流る所にして風荒く波高く航行穩ならず陸奥に腋港あり陸中海岸は犬牙の如く相交はれども良港少く僅に山田釜石の兩港に過ぎず陸石には牡鹿半島長く突出して松島灣を擁し山雉の渡を隔て、金華山あり灣内に石

卷野、蒜、蓮、菟の三港あり、蓮菟へは東北鐵道の支線を通せり、松島は數百の崑嶼盡く、翠松を生し海波と相映し、日本三景の一なり。

○處誌 中山道諸國は全く海に濱せず、交通亦繁からざるにより、人質は朴直質素にして、且つ強毅なり、而して往々任侠の風を有する所あり、信野の平原地は葵蠶製糸の業盛なること、全國第一たり、故に富を得ること、少なからず、従て大に發達し、自ら伶俐に赴き、奢侈に流れ易し。

○舊奥羽も山地にして、比較的、新開地なれば、住民未だ頗る稀疎なり、故に人質も淳朴なり、曾て安倍、清原、伊達等の諸豪族世々據りて、以て武を振ひし地なれば、驍果の風を帶べり、山間の地に、稍野鄙を免れざる所あり。

近江は琵琶湖を圍める風光明媚の地にして、人質慧敏なり、近江商人の名、海内に高し、大津町は琵琶湖畔にあり、人口三万を有し、歩兵第九聯隊を置き、又滋賀縣廳あり、市街繁盛なり、此地より湖水を京都に疏通する水道あり、彦根町は其東にあり、元と伊井氏の城市にして、湖に臨めり、膳所の古城も其近傍にあり、米原驛は鐵道線路に當り、東海道線路北陸線路との分るゝ所なり。

美濃 穀禾美く、濃るの謂ひにして、濃尾平原を占め、美濃米の稱あり、○岐阜市は稻

葉山を負ひ、長良川に臨み、人口三万二千を有す、市街加納町と相連り、頗る繁盛なり、明治廿四年の大震に、非常の損害を被りしも、人口は次第に増加せり、東京より汽車十三時間、京都より五時十三分程なり。

●大垣町は揖斐川流域にあり、此地露霖に際すれば、概ね水害あり、美濃は其後に雨量多き臺地を控へ、前には平原にして、大河あるを以て、雨水急に斜面を降り、平原に出つれば、直に緩流となれば、一般に水害を免れず。

●大垣の西に關ヶ原あり、不破の關趾にして、京畿の關門なり、徳川氏と石田氏等との大血戰場にして、原草爲に赤しと稱せられたる大戰場なり。

飛驒は美濃の北に隣り、地勢高隆、自ら一境をなせり、○高山町は中央の一都會なり、風景の京都に似たる所あるを以て、小京師の稱あり。

信濃は本邦中央を占むる大國、其境十國に連り、地質上、又本邦地体の中心たり、○長野市は千曲川畔にあり、人口三万四千、直江津鐵道線路に當り、東京より九時十分程なり、善光寺參拜者多し、飯田町は國の南部の都會にして、天龍川畔にあり、松本町は中部の城市なり、諏訪湖畔に上下諏訪町あり、上田町は千曲川の上流にありて、蠶業地なり。

上野及下野を兩毛と稱す古源氏の武を輝かせし地にして新田足利の兩氏は其裔にして此地に出て其他源氏の名族多し那須宗高新井白石蒲生君平高山正之等兩野の間より出身せり○高崎町は上野の南にあり人口三万を有し歩兵第十五聯隊を置く東京より六十三哩あり○前橋市は群馬縣廳のある所其北に桐生町人口二万あり織業地として著名なり●下野の足利町も亦織業盛なり●宇都宮市は鬼怒川流域の平地にあり人口三万七千を有し東北鐵道線路に當り東京より六十六哩にあり日光鐵道是より分る又蠶業盛なり栃木縣廳は此地にあり栃木町は其西南にあり人口二萬二千を有せり●足尾は有名なる銅の産地なり其外田沼結城古河鹿沼等の小都會多し

磐城●此國より北は古の奥州にして人口少く都邑も多からず○白河町は奥州境なる白河關跡なり鐵道線路に當れり其北に三春白石等あり

岩代の若松町は會津平地の集合地なり人口二万六千あり成辰の役籠城を以て名あり其東に福島町あり人口一万八千を有し今縣廳を置く其南に二本松あり共に蠶業地なり

陸前は伊達政宗以來世々伊達氏の封地にして東北の雄藩なりし○仙臺市は奥羽第一の都會にして人口八万二千あり昔日に比すれば漸く減少の傾きありと雖ども東京以北之に及ぶ市なし市區は廣瀬川に跨り宮城縣廳高等學校控訴院等あり其城は伊達氏の築く所第二師團を置き東北の鎮とす芭蕉の辻の如きは頗る繁榮の街なり東京より二百十七哩あり其北に蘆花港あり松島に近く是より遊覽の船を出すを宜しとす又其東北に石巻港あり

陸中の盛岡市は古の南部にして北上川の流域にあり人口三万二千を有し奥羽第二の市なり岩手縣廳を置く瀛車仙臺より五時三十五分程なり北上川の下流に花巻水澤一の關等あり水澤は我邦洋學者の先達なる高野長英の生地なり

陸奥は本土最北端なり青森町は陸奥内海に臨み人口二万四千ある本洲の最北都會なり又東北鐵道の終點にして東京より四百五十七哩あり第四旅團を置き北邊の要鎮とす●弘前市は國の西部岩木川畔にあり津輕氏の舊封地にして人口三万一千あり北地の一都會なり鐵道青森より通す

羽前の山形市は最上川支流の灌域にあり人口三万一千を有す其南最上川の上流

に米澤市あり人口二万九千を有す、上杉氏の舊封地にして雲井龍雄出身の地其織物ほ世に著名なり以上両市共内地にありて鐵道未だ通せず交通の便を欠けり海岸に近き鶴岡町は却て交通に便あり人口二万にして富有の聞へあり新庄町は國の北部にある小都會なり

羽後の秋田市は日本海に濱し御物川下流の沖積層を占め佐竹侯の舊領地にして人口二万七千を有し此地の織物亦著名なり●酒田町は最上川吐口にある良港にして人口二万富有の稱あり野代及土崎は共に碇泊地なり

○氣候 奥羽は北海に濱し中山道は全く内地にあるを以て氣候は自ら寒冷なり平均温度は十四度より八度の間にあり

中山道は全く内地性氣候を現はし寒暑共に強し飛騨信濃より上野下野の北部に亘りては日本の幅最も廣き所なれば此部位を以て最も寒暑懸隔する所とす長野は殆ど其中央にあり一月の平均は零下二度とす二月までは零下一度の平均なり三月中旬に至らざれば九州一月の温度と匹敵するに至らず最低の時は零下十五度に下る宇都宮も一月の平均は氷點にして最低は零下十一二度なり岐阜は最も

暖なりと雖も二度半を平均とす故に木曾山中の如きは春の到ると遅く五月花咲き九月麥熟し七月までは料峭を覺ゆ○夏季に至れば意外に高温にして岐阜は八月の平均は二十六度半にして九州南部の暑氣に齊しく時としては三十六度に昇ることあり長野に於ても二十四度を平均とし時に三十三度以上にも及ぶことあり故に長野は冬の最低と夏の最高との差は四十八度なり甚しき懸隔と謂ふべし

●但し近江は湖水の調和によりて寒暑共稍々温和なり

奥州東岸は親潮寒流の爲め割合に寒く西岸は對馬潮流の爲め稍々温暖なり西岸は又温和なり即ち山形秋田は十度三を平均とすれども東岸の陸中海岸は九度内外なり●氣候は兩岸とも甚だ強く冬(一)の平均温度青森は零下三度一他は大略零下二度なり且つ寒風雪を吹くに逢へば零下十三四度に降ること稀ならず福島青森秋田は零下十八九度に下り山形は零下二十度の烈寒に及ぶとあり夏(八)は大抵二十二三度を平均とすれども最高に昇るときは福島は三十五度半其他も三十二三度に及ぶ故に最高最低の差は各地共五十度以上なり是れ寒氣の格外に強きによるなり●是を以て東山道諸國は概して霜雪早く降り且つ長し平均十月の末

に至れば既に霜を結び四月の末に至らざれば止まず雪は十一月初より四月初に至る五月間に亘るを通例とす故に冬季は年の半を占め日光山中の如きは六月中旬に櫻花開き梅雨中に桃花満開なり東北地方は百花概ね一齊に開けり雨量は左の三部に分る

(一)雨量の最も少きは信濃を中央とする内地にして僅に八百耗内外なり之を圍みて一千乃至一千二百耗あり(二)其外部に當り日本海岸及び太平洋岸の稍々多量なる部にして岐阜滋賀秋田に亘り一千二百乃至一千五百耗の部あり(三)太平洋東岸は又寡く一千より一千二百耗の間にある○風位は北部に於ては西北風強く兩羽地方の如きは強風常に多く太平洋岸は潮流に向ふ陸風吹けり

○生業産物 土地廣くして人口多からず氣候又寒冷にして土地肥沃ならざるを以て農耕未だ發達せず農産物少し然れども是れに代るべき富源及び生業なきにあらざる礦物蠶業是なり

礦物は東北地方其埋藏頗る多く蠶業は内地諸國住民唯一の業務なり礦産は火山岩及び其他地質の甚だ錯綜するが故に最も豊富なり中にも羽後陸中、

下野岩代は何れも夥き配布あり我邦金屬の供給は重もに此邊にありと謂ふへし羽後には多數の礦山あれども阿仁院内の兩銀山は我國第一の産所にして則ち全國銀の總産額の過半は此の國より産す銅も本邦第二の産坑あり金も全國中第三位の産額とす○下野は全國第一の銅産地にして殆ど全國産額の三分の一なり而して足尾の銅山を專とす

陸中には夥しき鐵を藏し釜石礦山には六百五十万噸(二噸は二)の鐵を藏すと云ふ年十萬噸宛を需用するも六十五年間は此礦山のみにて支へ得るなり飛騨には鐵を産し美濃にも銀鉛銅を産す○其他陸中小阪銀山尾去澤の金銀鐵●岩代の半田銀山●陸奥の金銀山等産額皆寡からず其外陸奥岩代上野の硫黃磐城に石炭●及美濃赤坂に各種の石炭●石を産す本道は日本第一の鐵産地にして特に銀●銅●鐵の

三鐵は本道の天産物なることを記載せざるへからず蠶業は中仙道に最も盛に行はれ近江美濃より羽前に達するまでの内地は蠶絲の産額全國の過半を占めたり特に上野は養蠶製糸の盛なること全國第一にして年十萬石の繭を産す之を一戸に配當すれば一石一斗五升に當り一人口に付二

粟一升の平均産額なり美濃は年産十八万石、岩代は十二万石あり此三國は本邦の最多産地とす近江、美濃、羽前之に次く●蠶業に附随する機業も亦盛なり上野の桐生、伊勢崎は主なる産地にして上州、絹の名世に高し次に下野の足利、結城、佐野、眞岡は有名なる織物産所なり之に次ぎ岩代、近江、美濃とす其他有名なる一部の産を示せば縮緬は長濱(江)を本場と稱し南部(中)之に次く仙臺平、二本松(上)田、葛米、澤織、秋田織等あり斯の如く蠶業によりて發達するを以て富の度も低からず○他の工業品は近江の蚊帳、羽後の春慶塗、會津の蚊蠟及び漆器、美濃及び相馬の陶器、陸前の埋木細工、美濃、飛騨の一位細工、津輕塗等なり●美濃米は良種を以て稱せられ且つ彼の平地には頗る多量に産す●陸中、陸奥には雄壯なる馬を産し磐城亦多し林産は青森、秋田、岩手、栃木等廣大の林区あり十五億以上の良木立てり特に日光の大森林は杉、檜の良材に富み木曾の山林は五木と稱して檜、杉、樺、松、楡の巨木、幽溪の間に蕨、藪たり飛騨、美濃に亘りて惠那山の如き密林を以て蔽はれたる大森林あり伐木丁々鳥聲に和し木挽業者多し是れ飛騨匠の名高き所以なり○水産は地形の許さざる所中仙道には僅に淡水産のみにして海産は奥羽に限れり

奥羽は海産の配布少からされども未だ多産に至らず陸前は第一の産額にして青森之に次げり日本海岸は鱈、鯨等なれども産額著しく減す是れ風波險惡なるに由る

北陸道誌

本道は一に北國と稱し日本の北海岸なり古は越の地或は高志と總稱したり是れ京より此地方に通ずるには木芽嶺(吉田嶺)と云へる險阪を踰へざるを得ざればなり現に越前中後の國名に越の字を用ゆるは是れによるなり地形幅狭く横長く日本海に濱するを以て南北の幅は平均十里にして東西の長さは百五十里あり而して面積は一千六百三十四方里なり○政治區畫は新潟福井石川富山の四縣に分ち新潟福井金澤富山高岡の五市あり又之を七國四十三郡に分てり

- 若狹國 三郡 三方 越前 大飯
- 越前國 一市 福井
- 八郡 足羽 吉田 坂井 大野 南條
- 今立 丹生 敦賀
- 福井縣 一市 一郡

○地形 西北は總て日本海に臨み海を隔て、遙かの對岸は露西亞領なる西伯利大陸なり●而して其後背は東山道と境を分つ高峻の連山を以て包まれたり故に

- 加賀國 一市 金澤
- 四郡 江沼 能美 石川 河北
- 能登國 四郡 羽咋 鹿島 鳳至 珠洲
- 石川縣 一市 一郡
- 越中國 二市 富山 高岡
- 八郡 新上川 中新川 婦負 下新川 富山縣 二市 二郡
- 射水 氷見 東礪波 西礪波
- 越後國 一市 新潟
- 十五郡 北蒲原 中蒲原 西蒲原 南蒲原
- 東蒲原 三島 古志 北魚沼
- 中魚沼 南魚沼 刈羽 東頸城
- 中頸城 西頸城 岩船
- 新潟縣 一市 一郡
- 佐渡國 一郡 佐渡

地形は後方に高くして日本海に向て傾けり海岸には平地あり越の平地は越後より越中に亘る頗る廣き沖積土にして加賀越前にも海岸に平地あり能登は海中に突出せる半島にして海濱には斷崖峙ち奇景多し佐渡は越後沖に孤立する島國なり而して其狀胡蝶の翼を鼓して飛ぶが如し

○山誌 東山道と境を分つ所に一帶の山脈連亘す越後の境には東部沿岸火山脈ありて羽前の境に鷲巢山及び飯登山あり岩代の境には大日岳御神乘岳駒形山守門岳入海山等の高山あり又其の西部信濃と境する所には彌彦火山脈ありて何れも頗る高峻の噴火山なり妙高山燒山黒姫山蓮華山の如き是なり此脈は遂に乗鞍山脈に連れり有名なる八十里越六十里越は沿岸火山脈の山背を踰ゆる處の峻坂なり

越中の南部は濃飛高原より連亘する山脈重疊し立山(九八〇尺)最も高く西部に袴腰山あり●加賀越前に亘りて白山火山脈あり其脈は山陰道沿岸を傳ふて若狹の青葉山となり越前に於て大日岳荒島岳等となり加賀の南部に至りて最も重厚の山脈を成せり是を白山衆とす白山は本山大汝別山の三峯より成り頂上は盛夏を除

く外白雪積りて銀峯の如し故に白山の名あり高さ八千八百尺あり昔より北國の名山として崇稱せらる頂上には舊噴火口あり此脈の北に延びるものは越中の境に蟠まり礪波山となり歴史に有名なる俱利伽羅谷は此山中にして平軍の敗走せし跡あり山衆の南に赴くものは美濃近江の境をなせり

能登及び佐渡に亘りて一帶の火山脈あり之を隱岐噴火脈と稱し隱岐の諸島より能登の北端に渡り鷹爪高洲寶立の諸山あり直に佐渡の金嶺を蔽ひる金北山に連れり

○水誌 中仙道と境する一帶の山脈は本道の分水背なり此山脈以北の水は本道の河流となりて日本海に排水せり故に河流は總て北流し河道長からず但し東山道境の山衆を破りて來るものは頗る長流あり南壁をなせる分水界は日本海の水蒸氣を受け雨量多きを以て河流は概ね水多く深廣にして運輸漚漚を資く

信濃川は本道第一の大河なり信濃より山脈間を縫ふて越後に下り其中央を貫き北流四十里北海に入る支流甚た多きを以て八千八水河の稱あり源より一百〇五里幅廣き所は八町に及び凡そ三十五里の間舟を通すべく運輸頗る便にして其漚

域は良好の農産地なり故に河岸には新潟三條長岡等の都邑あり●越後の北部を流る、阿賀河は岩代の日橋川の下流にして信濃川を距る遠からざる所に至りて日本海に入る河道分支して運輸亦便なり

越中に四大河あり射水神通黒部常願寺と云ふ皆北流して越中灣に入り神通川は最も大にして飛騨高原を下りて國の中央を流れ富山市其東岸に建つ或は「吳江」の稱あり射水川は其西を流れ小矢部川を合せ伏木港に注く●常願寺黒部の兩河は共に國の東部にあり以上四大河の灌域は頗る廣くして越中米の産地なり

加賀の手取川は白山に發し二十里にして海に入る東に犀川及び淺野川あり金澤市は其中間の流域にあり西に安宅川あり小松町を過ぎて海に入る

越前の九頭龍川は國の東境より發し足羽及び日野の兩大流を容れ三國港に注ぐ長三十二里あり下流には柴田勝家の湖造なる有名な舟橋ありしが今は長橋を架せり●足羽川は中央にありて福井市は其西岸に跨りて建設せられ九十九橋と稱する長橋を架せり●日野川は西部を流れ足羽川を容れて九頭龍川に會す越前の農耕地は此の三大河の流域にあり

信濃川及越中の四大河手取九頭龍の七流を北陸の七大河と云ふ北陸の諸大河は皆鱈鱒を産し頗る漁獲あり就中信濃川は秋期に至れば鱈魚甚だ盛なり

本道沿岸には潟と稱する周圍一里乃至六里に及ぶ瀦水甚だ多く海と隔つる遠からず概ね海岸と並行して連続せり即ち越前の北海加賀の河北海、柴山海、木場潟、今江潟、越中の放生、津、潟、越後の福島、海、鏡、潟、大海等は是なり此等の瀦水は風又は淡水の作用によりて砂を海濱に推積して所謂砂丘を作り是によりて河口を遮り砂丘の後方に河水を湛へ沼湖を成すに至りしものなり故に皆同一の觀をなせり其他潟の小なるもの多し●獨り若狭の三方湖は稍其成因を異にす三個の湖水相連接し中央の水月湖は最も大にして南北の兩湖之れに連続せり

○沿海 本道は長く日本海に沿ひ、日本の彎曲部に當るを以て陷落の遺跡多し而して其岸は日本海の怒濤に嘯まるとを以て奇景に富めり

若狭を中央とし丹後より越前敦賀に亘る灣入は最も大なる陷没所にして岬灣の出入著るし若狭には赤磯岬及び松ヶ崎、左右より出て、小濱灣を抱き中に小濱港あり海中には巖岩創立して天然の石門を成し小舟は其中を通すべし其東には常

神岬突出し、越前の立石岬と遙に相對す。立石岬は海中に突出すると三里岬頭に燈臺あり、岬の東に灣入するは即ち敦賀灣なり。灣頭に敦賀港あり、此港は將來西伯利大鐵道に對して頗る有望の良港なり。●越前岬は西を指して遙に丹後の與謝半島を雲烟の間に隠ひべし。●九頭龍川の吐口は坂井港にして古より三國港と稱せり、其東に北海の入江あり。

加賀海岸 出入頗る乏し、此邊土地は一般に漸次下降する所にして彼の安宅の關は今陸を距る一里許の海中になれりと云ふ。加賀唯一の港は金石港とす、此港は金澤市を距る近きを以て旅客貨物多く集まり、汽船敦賀の間を往復す。

能登は日本海中に突出する半島國なり、北及東に延び、人掌を以て珠を受くるに譬ふ實に好例と謂ふべし。指頭は珠洲崎に當り、掌内を七尾入江とす、内に能登島の横はるは即ち球なり、七尾入江中に七尾港あり、掌背に當る所に輪島港あり、海中に七島及び船倉島あり。●越中は能登半島の陰にあり、殆ど半圓の大灣を抱くを越中灣とす、灣内に伏木港あり、港口に燈臺を設け、冬の外郵便汽船定時寄港せり。

越後は大國なれば、其海岸線も甚だ長く、西に直江津港あり、鐵道東京に通じ、頗る便

利の港なり、信濃川吐口に外國貿易港なる新潟港あり、越後の沖に粟生島あり、島中に小柴山あり、此島は東部沿岸火山脈に當る火山島にして、此の餘脈海中に起伏して暗礁となり、船行の警戒する所なり。●越後の海岸には有名なる親不知、子不知の嶮ありし。●佐渡は西方より真野入海浸入し、東より加茂湖灣入するを以て法馬形をなせり、東灣に夷町あり、西灣に河原田あり、其四隅を矢岬、城ヶ鼻、龍王岩、濱崎の四岬とす。

●處誌 本道は北方一帶に日本海を受け、東海道とは腹背をなせり、世に北國と稱して寒地視せられたり、然れども畿内の要衝に當り、古來戰場となり、又京畿を距る遠からず交通頻繁なりしを以て住民も頗る稠密なり、故に人質も智慮深く、辯口甚だ巧みなり、又佛教は一般に行はれ、確く信奉する者あり、概して衷情峭直にして、犯罪人は割合に少し。

●若狹 ●は日本海に濱する小國なり、沿岸は斷崖削立、島嶼散點して風景に富り、○小濱町は酒井氏の舊封地にして、其城は雲濱城と稱し、碓泊地なり、梅田雲濱は此地の慨世家なり。

越前●は北國の咽喉を占め古へ阿蘇の關を置きて京畿の要塞とせり○福井市は元と北の莊と稱し柴田勝家始りて治を爰に定む次て徳川家康の次子秀康此地に封せられ福井と改む人口四万四千あり市街足羽川の兩岸に跨り九十九橋(一名)を以て之を連ね足羽山市の東にあり春秋には遊人織るが如し松平春岳侯は此の藩主にして橋本左内は其藩士たりし近來は絹布の機業盛に行はれ北陸鐵道敦賀より延長し是より大聖寺を経て金澤に達す西郊に藤島神社あり義貞朝臣を祀る●武生町は福井の東五里にあり本多氏の舊封所なり其西の鯖江には歩兵第三十六聯隊を置く其他大野勝山丸岡等の小城あり國の西端にある敦賀町は頗る繁榮の港にして陸には鐵道あり金崎と僅に相距り氣比神宮及び南北朝の遺跡附近に散在す今歩兵第十九聯隊を置く其他國內には杣山足羽城跡等南北朝忠臣の遺跡各所に多し

加賀●よりは遠征家錢屋五兵衛才女千代學者林羅山等出身せり○金澤市は舊名を尾山と稱し後今名に改む前田侯百万石の治所たりしを以て北陸隨一の都會なり昔時封建の頃は政治的原因の爲り繁盛なりしか現今は稍々衰退したれども尙

人口八万四千を有し第六旅團石川縣廳高等學校等あり北國の中央地たり公園に兼六園あり遠山近水の風致六景を兼ねると云ふ●大聖寺町は越前の境に近く前田侯の支封地なり近傍に山代山中等の温泉あり九谷も亦遠からず赤釉の陶磁を産す●其東に小松町あり

能登●は半島國なり中央に一大灣入あり灣頭に七尾町あり北海航行船の碇泊する港なり●半島の端に輪島町あり亦船舶の寄港する所漆器の産あり

越中●富山市は神通川の東岸にあり元と前田侯の支封にして米産地の中心を占め人口五万八千あり此市より賣藥行商の全國に出づるは人の知る所なり○高岡市は富山の西六里にあり射水及び小矢部兩流の灌域を領し人口三万一千あり銅器鐵器の製造盛なり伏木は特別輸出港にして重もに米を出せり其外氷見魚津の港あり

越後●は北國の大國なり新潟市は信濃川の吐口に建てる北陸の良港なり人口五萬を有す此市は天保中新潟奉行を置かれしに始まり尋て外國貿易港として益々繁昌するに至れり然れども互市は未だ盛大ならず●高田町は國の西部にあり直

江津鐵道線路に當り東京より百七十四哩あり人口二萬を有し酒井柳原氏等の居城たりし有名なる深雪地なり●新發田町は國の東部にあり元と溝口氏の居城あり步兵第十六聯隊の屯在地なり其西南の村松には步兵第三十聯隊あり○直江津町は越後西邊の港にして東京より高崎長野を経て鐵道此地に達す東京に百八十里あり○長岡町は信濃川に沿ふ城市なり
佐渡●は北海の孤島至尊の屢々蒙塵し玉ひし地なり相川町は島の西角にあり國中の都會なり東海に夷町南端に小木あり共に碇泊港なり
○氣候 本道一の緯度に對する位地は殆んど東海道と位置を同ふすれども彼れは表面にして南を受け是れは裏面にして北を受く且つ彼れは黒潮の暖流に洗はれ是れは北來の朔風を被る故に氣候は著しく差あり同温線は十四度より十一度之間にあれども寒暑は頗る懸隔せり然れども冬季深雪なるが故に甚だ寒地の如く見做さるれども嚴寒地にはあらず即ち一月新潟は一度三の平均にして伏木は一度六金澤は二度一而して福井は二度半なり故に東海道に比すれば稍を温和なれども緯度より南へは格別低くからず彼の中仙道に比すれば頗る温和にして最

低の時と雖も零下五度乃至八度に過ぎず只東海道に比すれば北西風の雪花を捲きて來ると冬季は表日本の晴天多きに似す寒雲常に空を掩ふとを異なりとするのみ
夏○季は却て暑氣強く八月金澤は二十五度五伏木は二十五度七の平均にして新潟は却て二十六度なり而して時としては最高三十五度以上に昇ることあり
北西風常に多く殊に冬季に至れば西伯利大陸を吹掃せる寒風日本海を渡りて其水蒸氣を運ひ來るを以て氣温之れが爲めに降り且つ其水蒸氣は陸に近づくに従ひ陰雲となり遂に南壁山脉の爲り凝集せられ降雪夥しく北國深雪の源をなせるなり
雨量は全國の最多量の部に屬し二千五百耗以上の所あり加賀能登の如き是なり越中及び越前も二千耗以上に達し越後も千七八百耗に及べり●而して期節に應じ著しく不同あり夏より秋に亘りて降雨甚だ少し然れども氣温の寒冷に赴くに從ひ次第に降雨を増し十一月十二及び一の三月間は雨雪量の多き全國中其比を見ず大略五百耗以上に及ぶ就中十二月は各地概ね三百耗以上あり是れ即ち深雪の

源因にして此頃は氣温低きを以て悉く雪花となりて降るなり十二月中の量を雪量に改算すれば八尺乃至九尺に至る若し冬期の全量を雪とせば一丈五尺乃至二丈五尺の間なり是を以て山間の如き降雪多き地は毎年積雪數丈に及ぶ特に加賀越前の境なる牛首村は恐らくは全國第一の深雪地にして冬間は到底村民の住居に堪へず毎年相率ひて村を去り之を避くるを常とす

○生業産物 海岸は頗る肥沃なるを以て農行はれ農産物多し越中平原の如きは廣大なる農業地あり越後も頗る廣き耕作地ありて米の産額は二百七八十万石にして一縣下にして産額最も多き國とす是を以て富の度も甚た高し加賀能登も米作地廣く石川縣下に於て一百万石の産額あり越前及び若狹は耕地稍々狭しとす北陸の耕地は水田多く大概米一と作にして麥の如きは産額頗る尠し是れ一は積雪野を埋むるによる●茶は各地共(能登佐越を除く)能く産し若狹越前の如きは産額多し烟草も越前加賀越中に産し麻の培植は各地盛なり
鑛産は佐渡金山の金は往昔全國第一の産なりしを以て佐渡の土と謂へは既に黄金を意味せり今は年額五六十貫の間であり則全國の三分の一の産額なり加賀

の金平及越前大野にも多少の産あり○銀は越前の面谷細野等の鑛山に五十貫越後上田銀山佐渡相川に七十貫の産出あり○銅は加賀尾小屋越後草倉等に産す其他越後に石油を産し若狹の瑪瑙、翡翠、越前の砥石、越中に硫黄の産あり
海産は其分賦に富み産額多し北陸の特産とも稱すべきは鱈及鱒にして各地共多漁なり之に次ぎ鮪、蟹、鮭とす蟹は盆大にして鮭は大河口に多漁なり其他若狹、越前雲丹、佐渡鱒の産多し

工業は古より頗る發達し越後縮、越前奉書紬、越中藥劑の如き其名既に高し近來越前の機業は非常に進歩し重もに海外輸出の手巾とす加賀の九谷焼は美麗の錦手焼にして佐渡焼も亦名あり金澤、高岡の銅器は近來大に需用を増せり若狹、塗、輪島塗、越後の漆器、越前の紙等の産皆有名なり

山陰道誌

山陰道は中國北岸の日本海に濱する地にて中國山脉の陰にある陸なるを以て即ち山脈背面の道の義なり○東西の長さ八十里南北の幅廣き所二十三里面積は一千百十方里に對する住民は稍稀疎にして東海道に比すれば半に及ばず山脈の南

條あり

中國山脈の北に沿ふて殆ど中國山脈と駢越する火山脈あり西部沿岸火山脈の名あるものは是なり此火山脈の西端には著しき火山を見すと雖も温泉多く且つ一連絡をなせり出雲石見の境に於て三瓶山三千八百七十尺と稱する惣火山あり伯耆に大山あり海拔五千八百八十尺にして是を中國第一の高山とす山中には舊火口を有し登攀甚だ難し因幡に稻葉山あり古は宇倍山と稱し古歌に名あり但馬に來日岳及但馬富士の稱ある三開山あり丹後にては與謝山嶺の突出となり中に成相山あり南には青葉山あり或は丹後富士と稱す是より一半は陥落して海となり一半は若狹境に沿ふて加賀白山に連れり此の火山脈の附近には温泉總て二十一あり

隱岐も又火山脈の爲めに噴起する火山島にして知夫島の燒火山及後醍醐帝の行在所なりし赤平山島後の大瀧寺峰等皆火山なり此山脈は遙に能登に連れり之を隱岐噴火山脈と云ふ

○水系 分水界は中國山系にありて日本海に排水するを以て大河少し獨り江川

(見石川)は備後に發し此山脈を破りて石見に出づるを以て五十里の長流となり即ち中國第一の大河とす備後安藝の水を集め上流は三次川の稱あり河水深廣にして流二十里は運輸の便あり灌漑は廣き農耕地なり○出雲の簸川は江川に次く大河にして或は大河と稱す出雲西部の水を集め宍道湖に注ぐ長二十里此河土砂を流す多く其築く三稜洲は頗る廣し上流は彼の『八雲タツ』の古歌ある遺跡なり○但馬の朝來川は數多の潦流を率ゐて十六里にして海に入る○因幡の千代川は國內の水を集め其灌漑頗る廣く鳥取市は東岸にあり○丹波高原は河水を配送する源となり東に下るものは保津川にして山城の木津川となり西に下る佐治川は播磨の加古川となり北に向ふ和知川は或は福知川又音無瀬河と稱せられ丹後の由良川となり凡三十里にして由良港に於て海に入る支流の上源に千丈瀑あり海岸處々に湖沼あり因幡の湖山池(周回三里)伯耆の東郷池(周回二里)出雲の中海神西湖の如きは是なり○山陰第一の大湖なる宍道湖は出雲の北を擁する島根半島によりて日本海と限らるゝ淡水湖にして周回十三里餘あり古中海と相通せしを以て又意宇海と稱せり風景清楚にして湖産の鱈著名なり○中海は宍道湖と馬瀨瀬戸と稱する

狭き海峡によりて隔てられ其東なる日本海とは弓ヶ濱と稱する砂丘の延出によりて包まる、内海にして日本海とは中江の海峡によりて僅に相通す

○沿海北面帯は總て日本海岸線の出入は甚た乏し獨り丹後は東岸の陥没によりて頗る出入あり與謝海深く陸地に浸入して宮津、舞鶴港あり此港は既に軍港に撰定せられたる佳港なり○天の橋立は宮津灣に突出する凡そ三里の砂嘴にして緑松白砂と映し遠く望めば一長橋の如く即ち三景の一なり○與謝山嘴の端を經岬と云ふ但馬朝來川の海口には津居山港あり其西に丹生港あり一名芝山港と云ふ○因幡の千代川の口に加靈港あり○伯耆に米子深浦あり弓濱の盡頭は境港と稱し測候所あり○出雲には島根半島横はりて海岸は風景乏しからず島根半島の東端を地藏岬と稱し美保か關其西にあり景勝の地なり島根半島の西端を宇龍崎と云ひ南に杵築港あり有名なる出雲大社には大國主神を奉祀す●石見の海は石見瀉と稱し温泉津濱田港あり海中に見島あり

隱岐は島根海岸を距る凡十二里の海中にある群島の總稱にして重なる島四箇あり最大島を島後と云ふ周回三十里半あり島の南に西郷港あり島後の西に三島

あり大を西島中を中島小を知夫島と云ふ此三島を島前と總稱せり

○處誌 本道は我國太初に當り所謂出雲脈系統の經營せられし地にして頗る發達したりき中古以來は尼子氏の割據毛利氏の併領ありしのみ●人質は交通の頻繁ならざるを以て概ね樸野なれども稍々偏狹なるを免れず又人口多からざるを以て繁盛の都會少し

丹波●は山間の高臺地を占り國の西北部福知河畔に福知山町あり歩兵第二十旅團を置く東南部大堰川の流域に龜岡町あり共に城市なり

丹後●宮津、舞鶴は共に我北岸の要港にして人口も同しく八九千とす舞鶴港は鎮守府所在地にして將に鐵道通せんトす

但馬●の出石豊岡は共に小城市なり出石は名僧澤庵出身所なり

因幡●鳥取市は山陰第二の都會なり千代川の下流東岸の沖積土を占め人口二萬八千を有し其城は池田氏世々の舊居城なりし今歩兵第四十聯隊を置く志加奴（名）野（地）及若櫻の小都會は其支封地なりし

伯耆●は南朝の忠臣名和長年出身の地なり米子町は弓濱の東所謂深浦にある港

にして人口一萬五千あり加藤氏の居城たりし境町は夜見ヶ濱盡頭の小都會なり
 出雲●は山陰第一の形勝地なり野見宿彌は當國に出身せり其松江市は山陰道中
 隨一の都會にして人口は三萬五千あり島根縣廳を置く市は宍道湖と中海との中
 間なる風光明媚の地を占め松平氏の舊城市なりし杵築町は大社のある所なり
 石見●には濱田益田津和野の小都會あり濱田には歩兵第二十一聯隊を置けり
 隠岐●は北海の絶島にして屢々至尊の蒙塵し玉ひし地なり西郷港は島中の一都
 會なり

○氣候 氣候は稍々平和にして同温線は十五度より十三度の間にあり境は十四
 度を平均とし冬は三度五夏は二十六度一を平均とす然れども南部の山間に至れ
 ば寒暑稍々懸隔し結霜多し風は北西位多く此風の日本海より水蒸氣を齎らすこ
 とは北海道と其趣を同うす然れども地勢北を受け最も多き北西風を直接に受け
 ざるを以て雨量は北國の如く多量ならず二千耗より一千五百耗の間にあれば全
 國中にて稍々多き部なり降雨の最も多きは秋雨時節にして冬も頗る多し故に降
 雪頻々なり

○生業物産 本道の交通は海陸共に不便にして恰も一方に割據するか如き觀あ
 ると農産地域廣からざると又生産原料の少きとは不發達なる原因にして富の程
 度も總て甚だ低く從て生活の度も高からず耕地の最も拓けたるは出雲伯耆及丹
 後等なれども他の農地に比れば下位にあり石見の如き其耕地は屢に全面積の一
 割以下なり因幡伯耆は重もに稻田にして米産あり麻藍綿は各地共頗る能く適し
 産額多し茶も處々に産する中丹波を第一とす丹波には又煙草の名産あり各地通
 して養蜂盛行はれ蜂蜜の産あり牧牛又能く行はれ牛の頭數は頗る多く大約各
 地共一方里内に百頭以上の平均に當る特に但馬牛として世に名高く神戸牛と稱す
 るも本道より出す物多し然れども馬は至りて少し丹波には又葉實の産あり
 工業品の産額多き物は少し只木綿織は稍々多く製出せられ絹織も處々に産す最
 も産出あるは丹後但馬とす丹後の縮緬石見の紙布は一部の名産なり楮の栽培各
 地に行はれ製紙の業あり但馬に柳行李の産あり

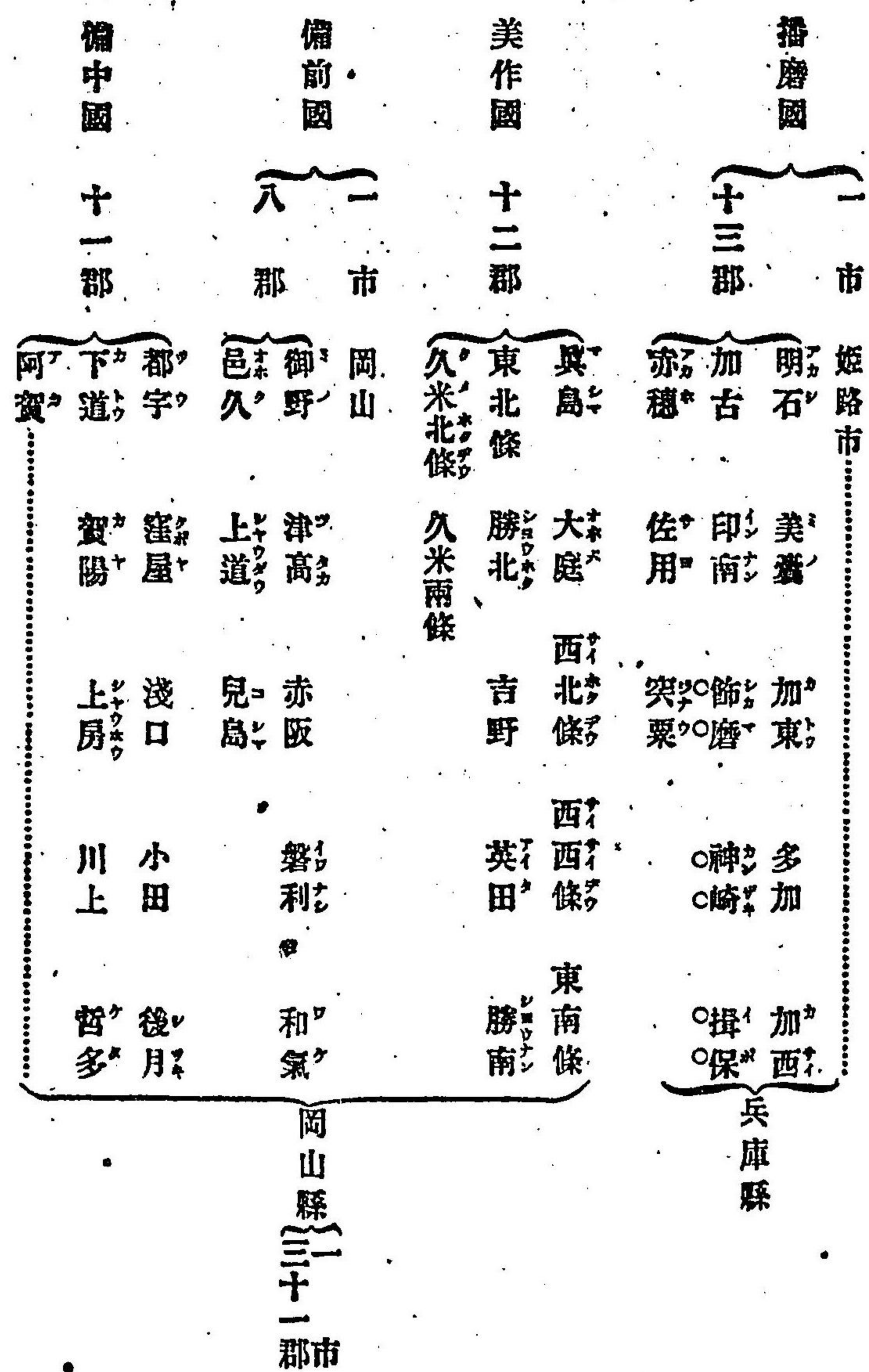
鐵産は其種類多きも但馬生野の銀を第一とし其他伯耆出雲等銀の産出甚だ多く
 毎年此邊より銀の總産額は一千七百貫に達す金銅も産出あり伯耆に石炭を産し

石見に鉄を産す伯耆の水晶、出雲の珊瑚、其他礦石の種類多し。海産は其配布多しと雖も北海の風波荒きが爲め産額多からず。隠岐、出雲は海産最も多く島根縣下に於て七十七萬圓を産す。隠岐の鯖、鰯干、鱈は各地に出すと多く伯耆に珊瑚を産す。

山陽道誌

本道は山陰道と共に中國と稱す。瀬戸内海に濱し、中國山脈の影面の道の義なり。瀬戸内を隔て、四國と相對し、早瀬海峡は九州と境せり。瀬戸内海は往昔より交通至便の水道にして、船舶の來往頻繁なるを以て山陰道とは其の發達同日の論にあらず。故に人口も山陰道に比すれば著るしく稠密なり。形勢東西に延長するを以て其の里程百零七里に餘る而して、南北の幅は平均十五里面積一千五百七十里あり。

○政治區畫は之を岡山、廣島、山口の三縣とし、播磨は兵庫縣に屬せり。本道中に姫路岡山、廣島、赤間關の四市あり、更に左の八國七十七郡に分れたり。



備後國 十四郡 備前國 世羅 深津 沼隈 安那
 廣田 品治 神石 甲奴 三次
 三鏡 奴可 三上 惠蘇

安藝國 一市 廣島 高宮 山縣
 八郡 安藝 佐伯 沼田 高宮 山縣
 高田 賀茂 豊田
 大島 玖珂 能毛 都濃 佐波
 吉敷

周防國 六郡 山口縣 十一市 十一郡

長門國 一市 赤間關
 五郡 厚狹 豊浦 美彌 大津 阿武

○地勢 北に中國山系を負ひ南瀬戸内に向つて緩斜せり沿海には平地少なからず播磨より三備安藝に亘りて平原頗る廣し之れを内海岸の平地と總稱す地質は概ね花崗岩に屬し山岳奇骨を露はし緑松之れに疎生し海岸は其破碎せる白砂一面に布けるを以て風景佳にして海中には小嶼點散し所謂内海の絶勝を爲せり又

其位置たる山陰道諸國よりは交通上總て關係を本道に有し其通路は中央の山系を踰へて本道に出てざるべからず又海道は九州四國の航路に當り海陸兩ながら頗る形勢の勝を占めたり

○山系 中國山脈は赤間關に於て九州北部山脈の端を受け長門の國に於て龍王山豊浦山鬼城山等ありて長門周防の境を東に走れり山口町は其南麓にあり是より直に山陰山陽兩道の界を過き美作に於て其四境を環り中央に一高原を形づく

り播磨の北境を走りて丹波境に至る

本道は花崗岩の噴起盛なりし地なれば各所に其隆起せるものあり備後安藝の境に天神山あり備前播磨の境に船阪山彙横はれり今其麓に長き隧道を穿ちて鐵道を通せり●要するに本道には著しき高山なく山脈の平均高度は約二千尺乃至三千尺とす又火山噴起なきを以て温泉甚少なし地震も亦古來劇烈のもの少なし

○水系 水流は山陰道境にして瀬戸内に注入す然るに陸幅廣からざれば河系皆短かし是れを以て雨量多きに達へば後背の斜面を急下し氾濫の害を被るとあり今重なる河流を擧れば播磨に加古川揖保川あり加古川は東にありて最も大なり

市川は其西を流れ姫路城下を過ぎて海に注ぐ揖保川千種川の兩川は各又其西を流る播磨の農耕地は總て此の四川の灌漑なり 美作は備前の水源地なり東部の川集まりて津山川となり備前に入り東大川或は吉井川と呼ばれ兒島灣の口に注ぐ美作西部の水は高田川となり備前に至りて西大川或は旭川と稱し岡山市を過ぎて兒島灣に入る備前の平地は此の兩川の灌漑なり 備中には河邊河あり國內第一の大河なるを以て世に大河と稱す國の中央を貫き瀬戸内に入る 備後の水は南北に兩分し北流するものは三次川にして下流は中國第一の巨浸なる江の川是なり其南流するものは蘆田川と稱し福山城下を過ぎて海に入る 安藝の大河を太田川(或は河)と云ふ國の北境に發し西宗川三田川等の支流を合せ下流は兩派に分れ海に入る廣島市は此河の三稜洲に建てられたり 周防の東に岩國川あり或は之を錦川と云ふ岩國城下を過ぎ海に入る有名なる錦帶橋は此河に架せり其他島田佐波榎野諸川あり 長門の阿武川は或は萩河と稱す國の東にありて萩城の西を過ぎて海に入る

○沿海 南方一面瀬戸内海に濱す瀬戸内海は中國山系と四國山系との峽間の窪

地に湛へたる海水にして狭き峽により僅に外洋に通す西口は早稲峽と稱し長門壇浦と豊前門司の間は僅に五町十四間實に水道の要關なり兩峽には防禦砲臺九個あり海岸砲臺九個あり此海峽を九州山系と中國山系との陥落間とす南口を早稲峽とし豊前の佐賀關と伊豫御崎との間は三里あり東口は即ち明石峽とす此瀬戸内の海水面積は凡五百三十方里あり恰も自然湖水の觀をなせり此の内海は之れを數灘に分てり播磨の沖は播磨灘と稱し備中の海は水島灘と云ひ備後沖は燈灘と稱し周防の海は周防灘と稱せり海中には島嶼千有餘翠波の裏に羅列し中國の連峰は黛の如く兩岸に聳へ漁村此間に點綴し風景の秀美なる世界に稀なる所なり

海岸線の出入を云へは播磨の海岸には明石鐔子高砂等の濱あり白砂海邊に布き縁松之に茂生し有名なる勝地なり港には室津明石飾磨津等あり島には家島男鹿島あり備前には兒島半島前面を擁して兒島灣を抱けり備中には東に玉島港西に笠岡港あり備後には阿武兔岬あり安藝の海岸は頗る深く灣入し良港少なからず吳港は軍港に撰定せられ鎮守府所在地なり宇品港は廣島市に近く船舶必由の良

港なり其他竹原、忠海等の港あり海中には大小の島嶼多く其中倉橋嶋最大なり本地との間を音戸瀬戸と稱し、幅狭き所は壹町に過ぎず平清盛の開墾する所と傳へ船行甚だ險なり嚴島には市杵島神社あり建築壯宏にして華表、緑波の中に建ち殿堂半は海波に涵され遠く望めば屋氣樓の如く風光明媚日本三景の一なり江田島には海軍兵學校あり周防の沿岸は頗る長く中央に室津崎突出し内に室津港あり其外岩國、柳井、室積、三田尻の良港あり島嶼亦多き中八代島を最大とす長門の一部は周防洋に臨み一部は日本海に濱す其分界頭にありて瀬戸内の口を扼せる要港を下の關港とす船舶輻輳の地なり西に當る日本海を響灘と云ふ日本海沿岸には大浦港あり島は見島、青海島等あり六連島には燈臺あり

○處誌 瀬戸内海は東西來往の衝に當り處々の港は船舶常に去來するを以て住民の氣質は総て慧敏にして機智に長けり都會の地は學問古より盛なり西部の人は健義あり且つ思慮に富りり近來陸には山陽鐵道開通し海陸交通の利を占りたれば將來益々發達するの勢あり

播磨 晉映の地を領し海濱は最も勝地に富む此國は宮本武藏、藤原惺窩、大石良雄

及び遠征家、天竺、德兵衛等出身せり○姫路市は市川の流域平地を占り人口二万八千あり中國の要衝に當り鐵道相通し繁華なり其城は豊臣氏の築く所後酒井氏爰に治す白鷺城と稱し五層の樓閣聳立す今第八旅團を置く○明石町は國の東端にあり淡路島と相對し風景佳良の地なり人口二萬一千あり國の西端には赤穂町あり有名なる四十七義士を出せり其他龍野、高砂、山崎等の小都會あり

美作 中國の山間に國し津山町は殆ど中央にあり松平氏の舊城下なり其他倉敷、久世あり院の庄は高德の櫻樹に赤心を題せし遺跡と云ふ

備後 備中 備後は古へ吉備と稱したり地形風土相類す備前には和氣、清原、兒島、高德、熊澤、香山を出し備中よりは雪舟、備後に菅茶山を出せり○岡山市は西大河の流域にあり人口五萬四千あり元と池田侯の城下にして後樂園と稱する有名の公園あり鐵道線路に當り神戸へ九十哩あり近來益々繁榮せり○尾の道は備後の良港にして人口二萬あり岡山の西五十哩にあり海陸の便を占り旅客の輻港する所なり福山は其東にある城市なり其外備中に笠岡、倉敷、玉島あり備後に府中市、三原の名邑あり

安藝は中國の中央を占め古來毛利公の根據して久しく雄視せし所なるを以て人事上に於ても自ら中國の中心たり。廣島市は中國の中央市場にして人口既に十萬に達し中國第一の都會なり其位置太田川の三稜洲を占め海路は宇品港より陸には鐵道あり商賈繁榮す其城は淺野侯の治所たりし今第五師團を置く市に控訴院あり古より文人輩出し頼山陽も此地の人なり國の東北に吉田町あり。周防山口町は長門境にありて人口一万五千あり大内氏十二世間割據せし所なり後毛利公萩より移りて治所と定む今第二十一旅團を置く其外岩國徳山等の城市あり徳山は現今山陽鐵道の終點なり。

長門赤間關市は瀬戸内の咽喉を扼し船舶必由の要衝に當り古より下の關又馬關と稱し海路の關門とす市中般販にして物貨の集まる地なり特別輸出港とし重もに石炭米穀を輸出す人口三万六千あり源平の古戰場なる壇浦に近く安徳帝の陵を距る遠からず萩町は日本海に面し人口一万八千あり世々毛利公の居城なりしが文久年間徙りて周防山口城を治所と定めたり此地吉田松蔭を始め王政維新に際し人物輩出せり。

○氣候 本道の氣候は東海道の北邊と同温度なり然れ共寒暑は彼よりも頗る懸隔せり是れ瀬戸内海に濱すと雖も此海は狭き潮水のなるを以て氣候を調和するの力乏しければなり是を以て冬の平均は三度半より二度七の間にして時々下六七度に降るとあり而して夏は平均二十六七度にして九州南部と同しく時として三十五度に昇るとあり廣島の如きは三十七度二の高温に達せしとあり故に山陽は全く内地性氣候の地と云ふべし風は各地共一般に穏なり是れ全く外洋の風力を殺ぐべき地位なればなり故に瀬戸内海の如き航行常に平穩なり夏季の夕に至れば海風全く風きて溽暑甚た強きを常とす。

雨量は長門周防は稍々多量なれども内海岸は總て少量なり則ち平均一千耗乃至一千二百耗なり三備の海岸は一千耗に達せざる所あり斯く雨量の寡きは全く四面の高地濕風を遮るべき内部にあるに由る則ち北來の水蒸氣は中國山系に遮きられ南來の濕風は四國山系の支ふる所となり水蒸氣をして北部位に侵入せしめざる地位なるに由るなり斯く降水の寡きにより此沿岸は製塩に適し各地良好の食鹽を産す。

○生業産物 内海岸の平原は良好の農産地なり即ち備前備中は全面積の二割乃至二割半は耕地となり岡山縣下に於て百十萬石の米を産す播磨の耕地も亦廣く百方石以上の米を産し山口縣下に於て百三十萬石、廣島縣下に於て一百万石の米を産す故に全道に於て四百五十萬石の合計にして一人口に付凡一石の産米なり

麥は米作の跡に作付けるものなれば米産所には麥産額少なからず 烟草は各地共能く適する中にも殆ど三備及播磨の收穫を多しとす其地綿藍茶は各地共に産す柑類は能く氣候に適し夏蜜柑無花果を産せり 畜産は頗る豊なり就中牛は各地に多く牧せられ備前備中は一方里内に平均二百頭の牛あり本邦第一の牛産地とす馬も備中には一方里に百五十頭を有する割合なり

鐵物は安藝の鐵産は將來見込あり現今年額二百萬貫の鐵を産せり備中美作に三十萬貫の銅を産す播磨に銀長門に石炭を産す而して各所最も多きは花崗岩の石材なり

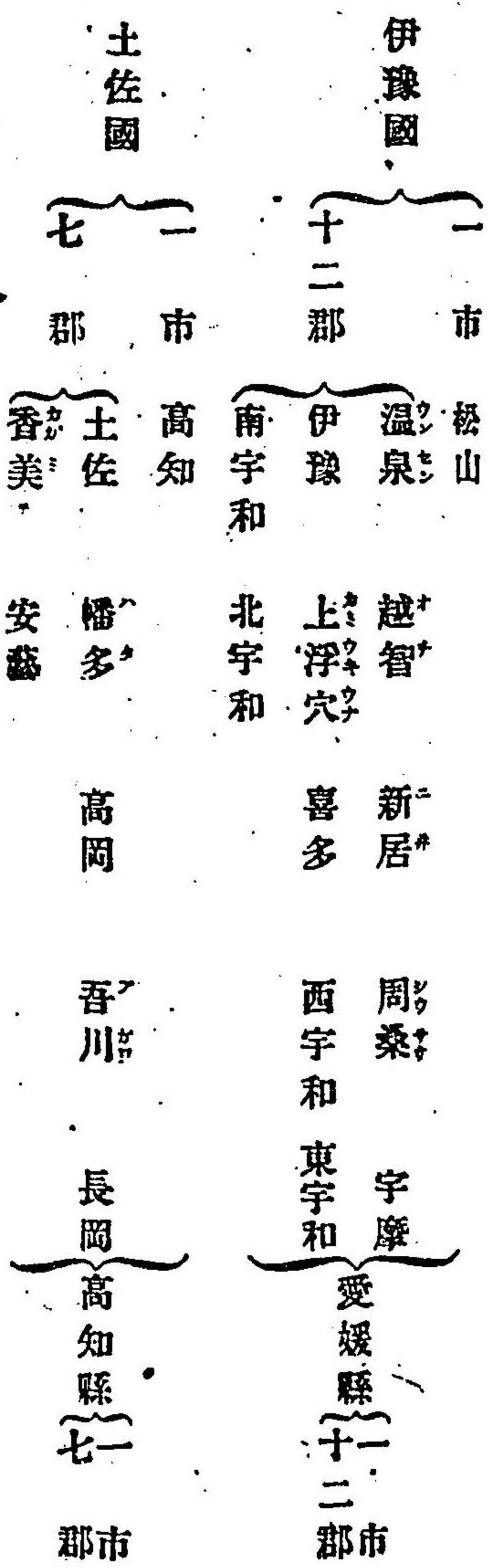
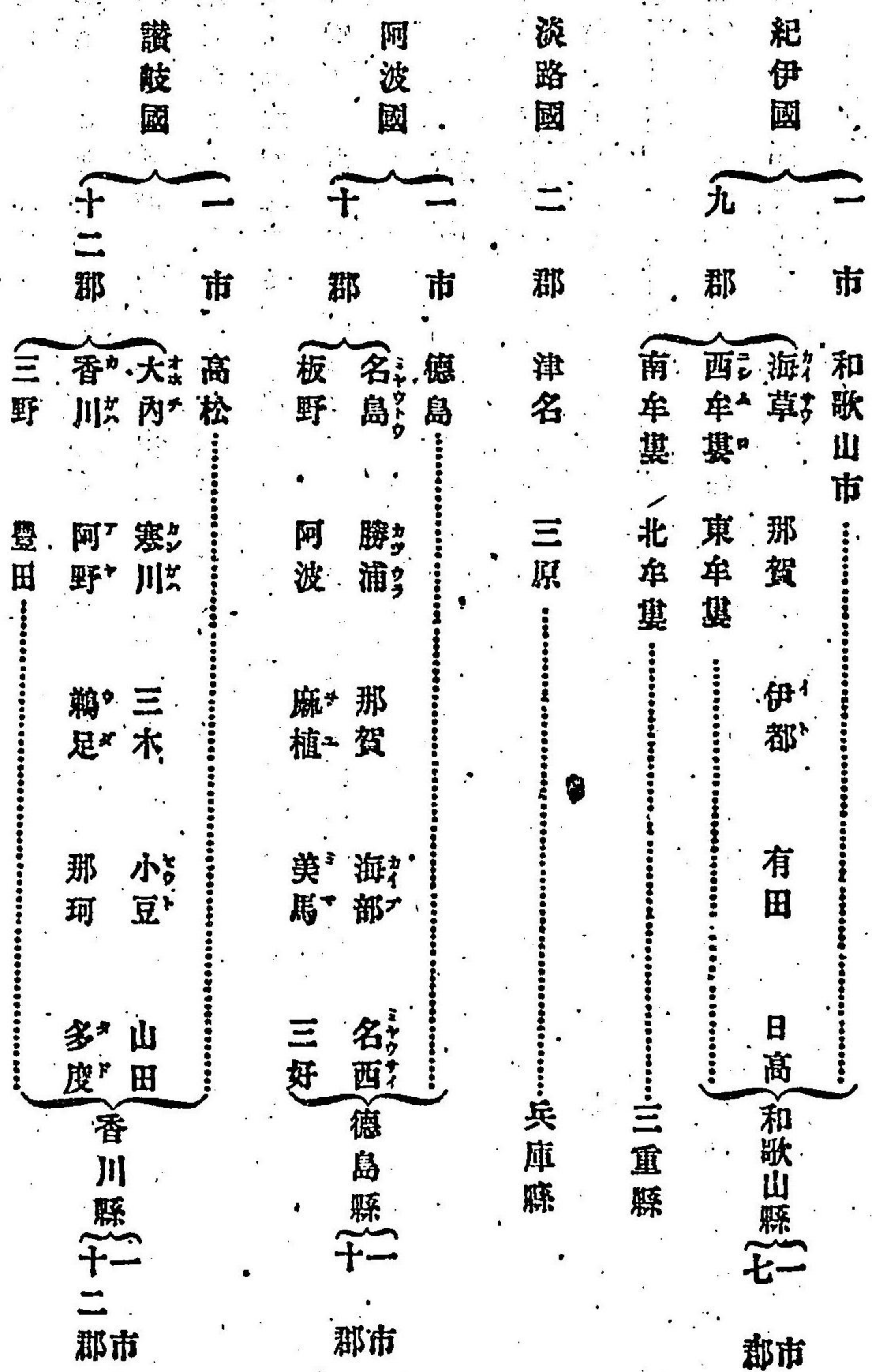
水産瀬戸内は風波穏なるを以て漁業盛に行はれ之れに従事する漁業者甚だ多く長防海岸は最も多産にして鰹を重なる産物とす又鯛鱈は内海一般の特産なり海

參銅も亦能く産せり

工業は各地に綿を産すれば木綿織業は盛に行はれ岩國縮の如き既に名あり又近來は紡績業漸く行はれ岡山廣島等は綿糸の製出高少なからず備前には古來伊部焼と稱する陶器を出し古雅の酒器等に用ゐられたり岡山廣島には釀酒高多し製塩は風土の適する所各地の製鹽高を合すれば年々二百四十萬石にして全國總産額の半を占めたり故に之に従ふ醬油も著名産の一に數ふへし

南海道誌

南海道の南面一帯は太平洋の暖流を受く四國島及紀伊淡路を合せて六國とす○面積一千五百九十八方里あり内四國は面積一千八百八十方里にして東西の最も長き所は六十七里南北の幅は三十二三里とす○政治區劃は和歌山徳島香川愛媛高知の五縣に分ち淡路は兵庫縣に屬し和歌山徳島高松松山高知の五市あり本道中に五十二郡を置く



○地勢 本道は四國及本土の南角なる紀伊并に淡路島の三部より成る◎四國島は兩翼を東西に張り北に向て翔ける蝙蝠の如し此島も全く本土及九州と地脈相連絡し九州との間に豊後水道あり本土との間には紀伊水道あり全島の中央を東西に亘る四國山脈は其脊梁なり地質は一般に水成岩に屬し殊に其南部は古代に發育せる硬岩を以て構成し瀬戸内沿岸には肥沃の平原あり四國を組成せる地脈の紀伊水道を踏へて發育せるは即ち紀伊半島なり淡路島は此兩地の峽間にある地体陥没の餘片なり

○山誌 四國山脈は崑崙山系の南壁にして九州の南部を組成せる地脈の一旦陥りて豊後水道となり伊豫の御崎の鼻より東に走り伊豫の鬼城山、大野山、吉森山となり是より伊豫、土佐の境界となり愈々高く矢筈山、瓶ヶ森山、石槌山あり石槌山は四國第一の高峰にして六千四百七十二尺に聳へたり其東に別子銅山あり笹ヶ峯より東は吉野河灌域の兩岸を亘り阿波に走るもの其本脈にして五傍示山、祖谷山及劍山あり劍山は六千二百二十尺の高峰なり石槌山と共に四國の雙峯とす其東は次第に高度を減し遂に紀伊水道に陥る●笹ヶ峯より支れて阿波讃岐の境を東に走るものは雲邊寺山、大川山、登尾山より次第に低く一旦陥りて鳴門峽となり再び淡路島の南部を組織する地帯となる

紀伊は紀伊山脈の爲め到處山岳充滿す此脈の頂は何れも痛く水蝕を経て著しき高峯なく總て東西に延べる一列の高臺狀を爲せり是れ此地の交通不便なる所以なり●和泉の境は飯盛山、葛城山の一帯を以て限られ紀ノ川南岸に高野山あり高野山は二千六百三十尺周囲三里に餘る高臺にして山上に弘法大師の開基なる金剛峯寺あり國の南部に至れば山益々深く白馬山、矢筈山、大塔峯、大雲取山あり其東の那

智山には直下八十四丈の大瀑布あり國の東部にも八鬼山、保色山等あり

火○山脈は本道の北岸に沿ふて阿蘇火山より連る瀬戸内噴火脈の一部を受け彼の伊豫の小富士と稱する興居島、今治半島及讃岐の飯野山より淡路の北部を経て三河の室生山に至る故に温泉も此脈邊に多く道後の如きは世に著名なり

○水誌 四國の河は皆中央の山脈に發して左右に注ぐ故に長流少し獨り吉野川は軸線の兩側より發し共に山脈に沿ふて西流し阿波に於て相會し山脈の中央を刻んで頗る廣き河道を開けり海口には數個の三稜洲を作りて撫瀆海に入る四十二里の長さ及び四國第一の大河なれば四國三郎の異名あり其灌域は頗る良好の農産地にして藍の産所なり交通も亦是によりて便なり●阿波に那賀川あり土佐の境に發し東流二十八里紀伊水道に入る

讃岐の水は總て短く且つ雨量少きを以て巨浸に乏し然れども河流の灌域には廣き耕作地ありて農産少ならず

伊豫の水も又長流を成さず、賦川稍大にして國の西部を流れ廣き流域を築けり●土佐には三大河あり皆國境に發し土佐灣に入る東を物部川、二十五里と云ひ中央

を仁淀川(三十六里)と稱し西を渡川(三十里)と云ふ此諸流は硬岩の間を馳するを以て流域狭し

紀伊の河は概ね大和境に發し山脈の間に縦谷を穿ち下りて周圍の海に注ぐ紀伊川は第一の大和なり此河は大和吉野川の下流にして直に西流し四十七里にて和歌浦に注ぐ此流域は頗る廣く即ち和歌山市附近の平原にして紀伊最廣の生産地なり次に有田川(二十七里)日高川(五十五里)皆西流して紀伊水道に入る有田河域を有名の密柑産地とす●東紀を流るゝ熊野川は大和十津川の下流にして新宮に至りて熊野浦に注ぐ全流三十五里あり元來此邊は雨量多きを以て河流に富めども硬岩の間を流れ河身狭く農産地を開く廣からず

○沿岸 四國の中國と對する峽間は交通の水路なる瀬戸内海にして其沿岸は之れか爲り頗る發達せり中央に伊豫灣あり讃岐の多度津高松志度及伊豫の今治三津は何れも良港なり中にも多度津は碇泊に便に四國無雙の佳港なり琴平神社を距る遠からず其間に鐵道あり港内には船舶常に輻湊す●海中には島嶼多く小豆島最大周回三十里なり其他鹽飽七島及伊豫の大島等あり海岸の風景甚だ佳なり

阿波紀伊の間は紀伊水道とて外洋に通ずる水門なり淡路と阿波の間は有名なる鳴門峽と稱し潮勢急に水吼へて渦流をなす水路の險所と稱せらる●伊豫と九州との間は豊後水道(或ハ佐賀)と稱し御崎(或ハ佐)西に挺出すること十五里餘豊後地蔵岬との間は僅に三里に過ぎず潮流急なれば或は早吸峽の稱あり海岸は出入多く八幡濱宇和島灣宿毛灣あり

四國の南面は總て太平洋を受け温暖の黒潮に洗はれ氣候を調和すると尠からず土佐は南を受けて土佐灣を抱けり此灣は白鳳年間紀元一千三百年代地震の爲めに陥没し海となれるものなり其餘片は陸路室戸の兩岬となり左右より出て、灣を擁し内に須崎浦戸の兩港あり

紀伊半島の東を熊野洋西を紀伊水道とす中央に突出するは潮岬なり大島其西にあり潮流之に激して甚だ急なり燈臺を置きて之を警す紀伊水道沿岸は出入多く和歌山及其南に和歌浦あり水光山色の好景あり元明帝之れに明光の浦の雅名を賜はる鶴の名所とて和歌の浦に潮満ちればかたを波あしべをさして田鶴鳴き渡るの景あり●熊野洋には浦神灣及新宮港あり●淡路島は瀬戸内及紀伊水道の

口に横はり播磨に對する岬を岩屋とし白帆綠波と相映し遙に須磨明石を望むべし紀伊に對して洲本由良の兩港あり峽間は友島ありて由良峽友島峽の二つに分れたり

○處誌 四國は會て長曾我部氏の割據せし所徳川氏に至り蜂須賀山内の二豪族此島に封せられたり紀伊は僧空海の開基せし高野山あり今尙は佛教行はれ人質柔容なれども犯罪者は他に比し稍多きか如し四國の東北部は其氣質稍々溫柔阿波は鄙俗なれども恰敏なり四國島の西南部は武健にして直實なり淡路は流石に淳朴の風あり

紀伊●和歌山市は紀川の三稜洲にあり會て徳川の御三家と稱したる徳川侯の城市なりし人口五万八千を有し商業頗る活潑にして綿織る織盛に行はる●其他紀伊の東岸に新宮あり元と水野氏の城市たり又西南岸に田邊あり安藤氏の舊城市なり

淡路には由良福良志筑の小都會あり

阿波●徳島市吉野川の三稜洲にあり人口六万一千を有し蜂須賀侯の城下たりし

吉野川瀧城の貨物は悉く此市に集合して他に配送せらる南海第一の都會なり●撫養町は徳島の北四里餘なり吉野川支流の吐口にある良港なり

讃岐●高松市は國の北部にあり人口三万四千を有し市内に香川縣廳あり源平の戦に關し著名なり●丸龜町は高松の西七里にあり第十一師團を新置せり其他觀音寺(人口一万三千)阪出(人口一万二千)あり

伊豫の松山市は國の中央にあり人口三万三千を有し愛媛縣廳のある所又第十旅團を置く三津港との間に鐵道の便あり●今治町は東岸にある良港なり●西岸に宇和島町あり

土佐の高知市は鏡川の三稜洲にあり山内侯の舊城市にして人口三万八千あり歩兵第四十四聯隊を新置す浦戸港は土佐灣の口にあり海路大坂神戸等に連絡す此市よりは維新の際數多の有志者を出せり其他須崎安藝赤岡等あり

○氣候 本道の南部は黒潮によりて著しく温暖に恰も九州南部に比すべく同温線は十六七度の間にあり夏季は二十五度乃至二十七度を平均とし時に三十五六度に達するとあり冬季は四五度を平均とし氷點下五六度に下るとは甚だ稀なり

瀬戸内に臨める地は寒暑稍々強さも多度津の如きは冬は甚だ温暖にして氷點下に下るとは殆どなしと云ふ

雨量は南部にありては著しく多量に本邦最多雨の地なり高知は平均二千八百七耗を數へ全國最大量なり和歌山は一千三百七十耗あり斯の如く多雨なるは全く暖流に臨み其水蒸氣を送らるゝによる雨期は暑候なる西南氣候風期にして特に時雨期に夥しく春雨梅雨も皆共に多し●雨量は北に進むに従ひ次第に減し四國にては中央の山脈を踰ゆれば頗る減し南岸の半ばにも及ばざるに至り南海岸は却て本邦中の寡雨の地となる其原因は中央山脈の爲めに既に水濕を失へるものなればなり

風位は氣候風期(四月)に至れば西南風頗る強く夏秋の交には遠く呂宋島邊に起りし大風直に南海より突進し來り害を被るとあり

○生業産物 南部には沖積土少きを以て良好の農産地にあらす内海岸には稻々平地を存し讃岐は第一の農産地にして米麥能く産す阿波藍は著名産にして全國の最たり烟草は阿讃に多く産す甘藷は到處能く産し茶及瓜も各地より産せり甘

蔗は温暖地の植物なれば各地之を植へ盛に砂糖を製す本道の製糖高は全國(台灣の外)産出の過半に越へたり中にも阿波讃岐を最多とす

氣候の温暖なるを以て半熱帯の植物を生し菓類少からざる中にも橘類最も能く適し紀州蜜柑の如きは其名既に世に高し●家畜も能く適し讃岐は牛數の多き全國第一にして一方里内に三百頭以上を有する割合に當る

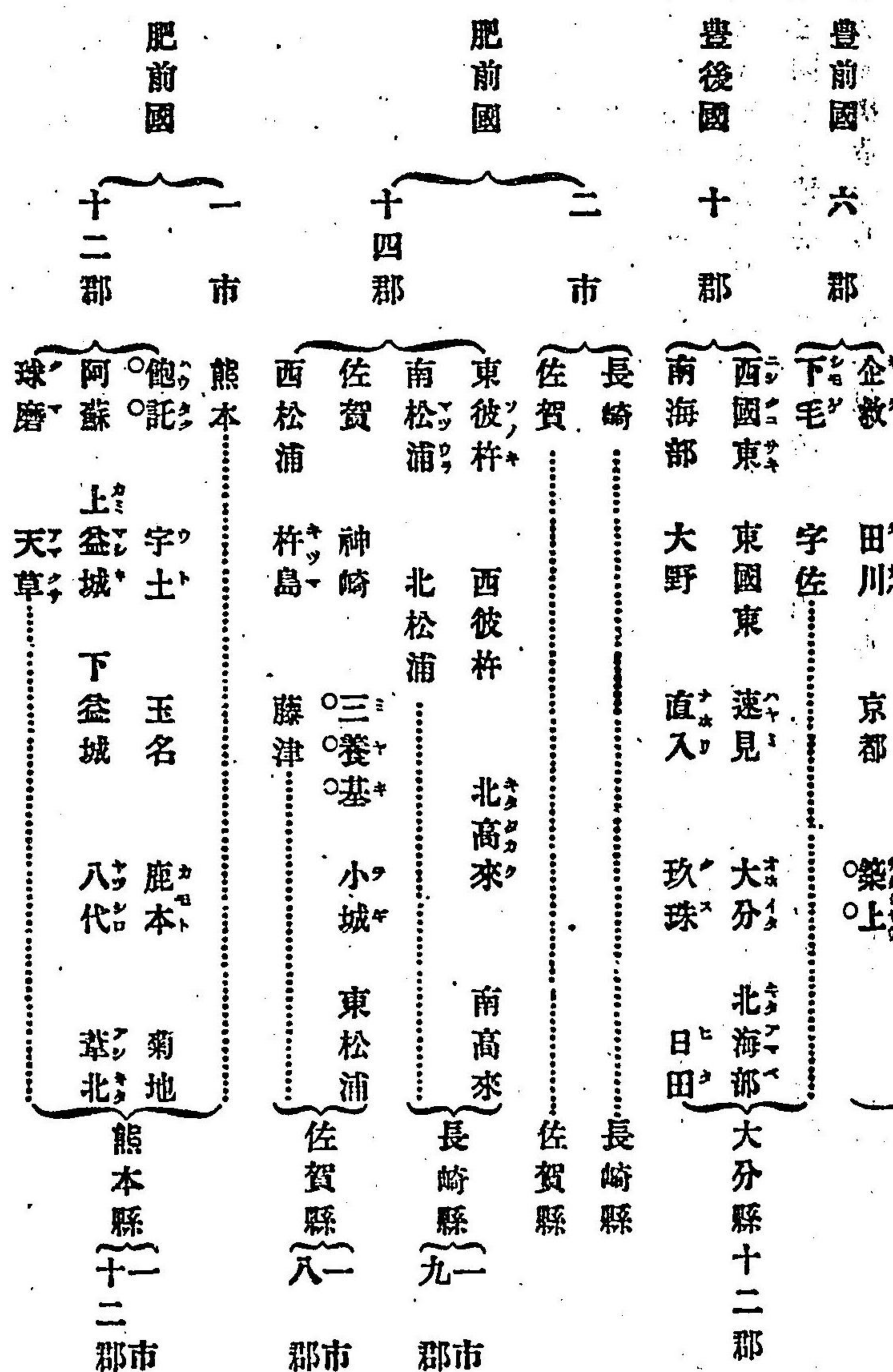
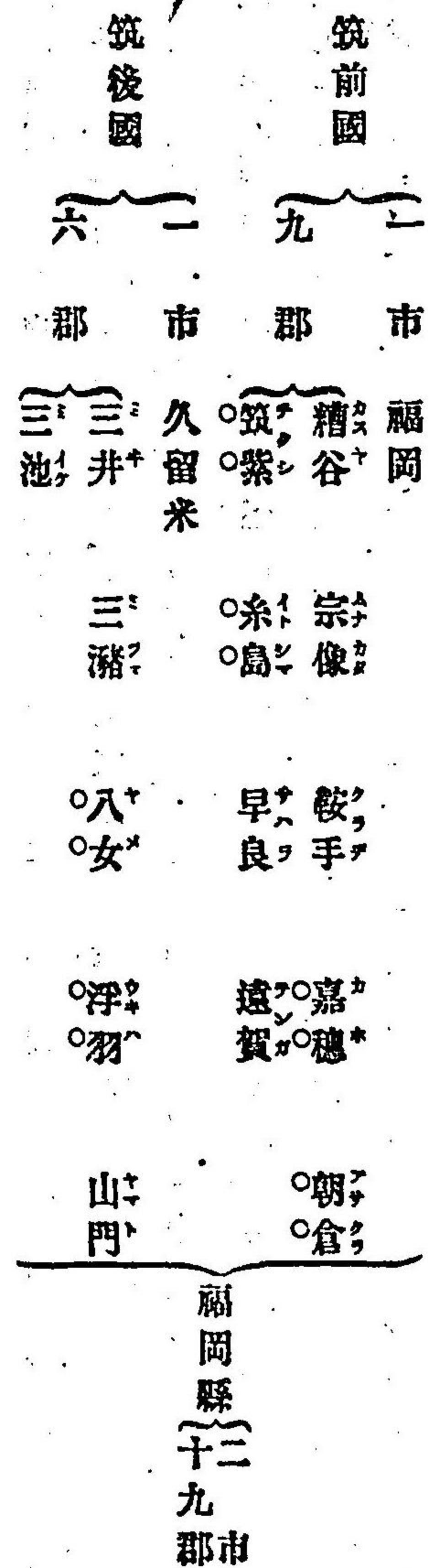
水産は濱海地廣きを以て農業よりも漁業に適すと謂ふべく各地夥しく水産を出す其著名なるは土佐の鯉珊瑚及土佐沖より紀州沖に亘り捕鯨の業頗る盛なり内海岸は雨量少きを以て製鹽に適し阿波の齊田鹽讃岐の食塩を最とす又鯛蝦を産する多し

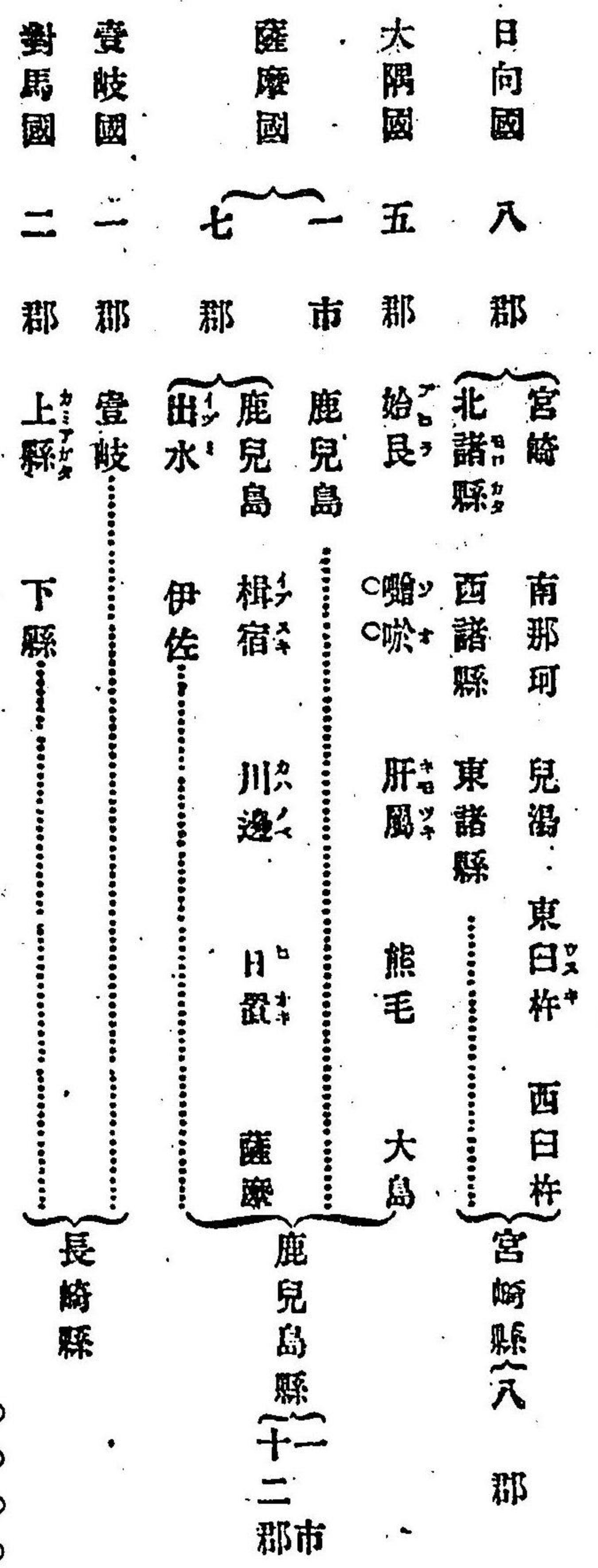
鑛産は伊豫別子の銅を第一とし土佐阿波にも多少の銅を産す其他は紀伊讃岐より石炭を産するに過ぎず

工業は紀伊伊豫は織業行はれ紀の雲齊織及綿ふらんねる伊豫の松山綿あり阿の織織は頗る多産にして世に阿波縮と稱せられ讃岐の保多織も名あり其他は紀の高野紙淡の伊賀野燒土の半紙等は孰れも産額尠なからず

西海道誌附沖繩誌

西海道は古は西海濱道とも稱したりき九州は往昔筑紫ツクシと謂へり是れ築石の義なりとぞ其故は此地古より外寇の衝に當るを以て海濱に石垣を築き防禦に備へたり是れ其起源なりと云ふ又九州探題ありしにより別に鎮西とも稱したり○九州島は南北八十三里東西の長さ五十二里あり面積二千六百十八方里之れに壹岐對馬を加ふれば二千六百六十一方里なり○政治區は福岡大分佐賀長崎熊本宮崎鹿兒島の七縣に分ち福岡久留米佐賀長崎熊本鹿兒島の六市あり又之れを十一國八十郡に分てり





○形勢 九州の島形は頗る崎狀なり而して島地の構造は殆ど並行せる南北二派の山脈を地帯として組成せらるる北部の地脈は東北に延びて中國に連る其間の陥落は早稲峽なり●南部の地脈も東北に延びて四國に渡り中間に陥落あるを早稲峽とす故に九州は南北兩地帯を接合したるものなり其兩派の中央は瀬戸内の窪地と同じき地溝あり茲に著しき火山多し而して最南部には霧島帯と稱する噴火脈より構造せらるる是を以て地質も中央及び南部は火山岩多く中間に兩條の水成

岩あり四面の海濱には沖積層の平地あり其有朋沖に流する廣き平地を築業平原と稱せり
○山誌 北部山脈は肥前西部の海中に於て五島平戸の諸島となりて始めて海面に現はれ肥前の中央を北東に進み爰に花崗山の山彙と合して國見岳天山雷山及び五箇山となり他の一派は筑後肥後の境を沿ふて三國山及屏風山となり筑前豊前の邊に於て馬見山福地山等の山彙より門司ヶ關に突出せり此山脈の附近こそ實に我那第一の炭脈を藏する地質にして其産炭は現に諸種の事業を助けつゝありと實に大なり
南部山脈は肥後の天草群島より葦北肥後に連り照岳白髮岳より九州第一の高峰なる市房山(六千六尺)とある平民の遺蹟ある五箇及米良の山莊は此山彙にあり日向境に於て江代山(五四七八)百鳥山國見山等登へ日向の北部に入りて行勝山可愛岳桑原山等あり山彙頗る重厚なり是れ實に國初に當りて尊等の都し玉ひし高千穂高原なり豊後の南部に於ても朝日岳扇子山姫岳等ありて甚た鬱結し遂に陥りて豊後水道となる此脈も處々に石炭を藏せり

阿蘇噴火脈は南北両山脈の間に墳起せる山脈なり阿蘇の舊火口は長徑七里短徑四里に及ぶ世界に稀なる大火山なり今は其坑内より五岳を噴起し最高を高岳と云ひ四千六百八十尺あり水蒸氣の噴出常に絶へず時としては土石を飛すことあり我那三大火山の一なり此脈北東に走り祖母岳、蓋山、八方岳、鞍岳あり豊後に於て豊後富士の稱ある由布岳、鶴見岳あり豊前の境に英彦山等の火山あり遂に豊後の國東半島を噴起し瀬戸内を走れり斯の如く火山の爰に烈しく噴起したるを以て此櫻に當る處今は却て九州の高地なれども元と瀬戸内と同じき窪地なり霧島火山帯は薩南群島を噴起し薩摩富士の稱あり開聞岳、鰐の池、舊火口、長江山及大隅の七つ岳等の火山となる鹿兒島灣内の權島は殆ど四千尺の火山島にして白鹿岳より本脈の盟主なる霧島岳に至る此山は東西の二峰に分れ最高五千四百七十八尺あり頂上に「天の逆針」を祀る御鉢と稱する火口より盛に水蒸氣を吐けり是より稍々西に轉して肥後の境に佐敷、赤松、津奈木の三太郎と稱する險阪あり是れ肥薩の通路なり噴火帯は肥後沿岸に於て三角岳、金峯山となり海を越へて島原半島を噴起す温泉岳は半島の中央に峙ち四千六百八十六尺ある活火山なり是より

多良岳に連れり

九州は火山斯の如く多きを以て此附近には温泉夥しく肥後、豊後の如き特に多しとす

○水誌 九州の高台は南霧島帯より肥後、日向境を中線とし豊後、肥後、及豊前、筑前の境を走れり是を以て河系は自ら其高台の左右に配水せらる

九州第一の大河を筑後河とす源を豊後の山間より發し上流を日田川と云ふ肥後より來る小國川を合せ稍々大となり西流して兩筑の境界線となり平野の間を緩流し許多の渌流を容れ頗る巨浸となり肥前、筑後の境より筑紫灣に入る河口は若津港(或は天川港)なり長さ三十五里、千年川、又は筑紫次郎の稱あり此河流は筑紫平原の豊産地を築ける主要の川にして灌漑に産する米穀、木蠟、夥しく河流を下りて若津港より輸出す中流は昔菊池、武光朝臣の少貳、大友と奮戦せし所にして「太刀洗ひ石」等河中に存し「歸來河水笑、洗刀血、迸奔、瀾吐紅雪」の状尙は想起せしむ矢部川は筑後の中央平原の間を流し灌漑甚た便なり柳川町を過ぎて筑紫灣に入る筑前の大河を遠賀川と云ふ上流は嘉麻川と稱せられ豊前の境より發して北流十

八里響洋に注ぐ灌溉甚だ便にして流域には石炭を始め物産少からず
 豊前の山國川は豊後の境より發し火山岩の間を穿ちて中津平原に出て海に入る
 河の上流は所謂耶馬溪にして河の兩岸には奇石怪巖屹立し山國川之を水蝕し愈
 愈景勝を添ふ羅漢寺柿阪等あり溪南十六景溪北十六景全景八總て四十景ありと
 云ふ日本三奇景の一なり下流には中津平原あり●豊前の東部に驛館川あり流域
 廣しと雖とも往々水害を被るとあり

豊後に大分河大野川あり共に肥後境の高地より發し豊後灣に入る大野川上流の
 谿間は紅葉谿荒子谿等の景數里に亘り霜葉紅を染るの候は其景頗る佳なり兩流
 の流域は大野と稱して甚だ廣く大分の舊名碩田は此流域の廣きより出でたりと
 ぞ

肥前には大河なし北部高地に登して筑紫灣に入る嘉瀬川及唐川灣に入る唐津川
 稍々大なり

肥後に四大河あり高瀬川一名菊池川運輸灌溉頗る便なり肥後の良米は此流域を
 最上とし特に菊池米の名あり●阿蘇舊火口に瀾して遂に西流するを白川と云ふ

熊本市附近を過ぎ海に入る●緑川は東部の高原より發し其流域には頗る廣き農
 産地あり●南部なる球磨川は日本三急流の一にして日向境より發し九州南部山
 脈と霧島帯の間を奔流し二十八里にして海に入る兩岸には奇景多く輕舟之を下
 れは殆ど千里の江陵一日還の想あらしむ

日向の河は皆肥後境の高地を下り殆ど並流して東方日向洋に入る最北を五箇瀬
 川とし次に美々津川高鍋川一の瀬川及大淀川等次第に南にあり然れども諸川は
 廣き流域を開くに至らず

薩摩の大河を川内川と云ふ源を日薩隅の境に發し西流して京泊海に入る四十六
 里の長流なり●南に萬の瀬川あり●大隅に横川あるのみ

○沿海九州の海岸線は甚だ錯雜せり西部一帯は崑崙山系の陥落したる断面に
 當る所なれば海岸最も錯雜す島嶼は群星の如く散布し岬灣は夥しく出入せり其
 内著しきを五島天草の二群島とす

五島は肥前に屬し福江島(六十里)中通島(六十二里)を首とし有福奈留久賀の五
 個、屬島と共に東北に延び平戸島(四十三里)に連る平戸の瀬戸を渡り本地に入りて

山脈となる其他小島を數ふれば肥前には一千十六個の島あり本邦第一の嶋多き國なり
 天草は肥後に屬し下嶋最大にして周圍七十里半あり次を上嶋三十七里とし大矢野島より宇土半島に連る本地との陥落間を八代海とし有名なる不知火の現出する所なり明治二十六年舊八潮余は第五高等中學校教官諸氏と探検したれども其夜は遂に出現せざりし群島の西は天草洋にして北は遂に肥前を望み頼山陽の「雲耶山耶」の叙景は人の好んで誦する所なり○薩摩の飯島長島獅子島は地質より爾へは同種の群島にして北東に延び天草と共に本地に入りて南部山脈を組織せり肥前は港灣の多きことも亦全國に最たり此國が古來外國の文華を輸入する主要所となりしこと偶然なりと謂べし○其著しきものを舉ぐれば西に突出するもの四岬あり最北を東松浦半島とす岬頭に呼子名護屋の良港あり其東海を唐津島とし西海を伊萬里灣とす伊萬里灣を隔て、西に突出するを西松浦半島とす彼半島と共に鯛浦を抱く内に大村あり故に成は、大村灣と云ひ灣口の一良港は即ち佐世保軍港なり彼半島の南に挺出するは乃母岬にして其内は是れ外ならず五港

の一なる長崎港なり而して一半島の人胃狀をなして東に出るを島原とす地頭に諫早あり半島の東に島原港あり此半島及天草群島とによりて限らるゝ内海は有明沖一名筑紫灣と稱し海淺く良港に乏しと雖ども塩田(肥前)若津(筑後)百貫石(肥後)の諸港あり
 肥後の沿岸より突出して有明八代の兩海を界するを宇土半島とし岬端に三角港あり是より西に斷續する諸島を天草群島とす筑前の沖は玄海洋にして西北風強く常に波を揚げて險海の名あり沿岸に博多灣あり此邊一帯は千代の松原と稱し白砂青松數里に亘り弘安年間元の醜虜我帝國に寇せんとして屢殺せられし遺跡なり今元寇紀念碑を建設せんとす東に若松港あり尙ほ東に進めば豊前の小倉港にして門司岬北に出て中國と相對し彦島馬島藍島等其附近に點散し陥落の遺跡を示せり海は即ち響灘なり豊前の東は周防洋に通し鞆の島長州の兩港あり豊後には國東半島突出し以て硫黄周防の兩洋を分つ半島の南岸に杵築日出の兩港あり西に灣入するを齒萆灣と云ふ内に別府大分の港あり佐賀關東に出で、伊豫の佐田岬と相對し早吸峽を扼す豊後水道の沿岸は地勢陥落の遺跡なれば斷崖

出入し内に臼杵、佐伯の両港あり以南は日向洋沿岸にして甚だ長しと雖とも海岸の出入少し良港從て乏しく僅に細島港と南に志布志灣あるのみ
 薩隅半島は霧島帯の構造する所両脚狀をなして南海に突出せり中間は鹿兒島灣とす灣内に櫻島火山屹立し山川灣の如きも舊火口内に海水の浸入して良港となるものなり鹿兒島、嶺山、揖宿、山川の四港は西岸にあり濱の市佐多の二港は東岸にあり大隅の東端を佐多岬とし北緯三十一度に當り九州の極南なり薩摩の南端は開聞岬にして西を指すを野間岬と云ふ●南海中に二大島あり其長さを種子島(周回三十七里)とす始めて銃器渡來の島なり圓きを屋久島(周回十六里)と云ふ共に大隅に屬す是より島系を延くを大島(周回五十九里)とす開聞岬の南七十八里にあり名瀬、笠利の兩港あり西郷隆盛流竄の地なり鬼界ヶ島其東にあり大島の南十里に徳之島(二十里半)及沖永良部島あり此三島は鹿兒島縣大島郡とす種子島以下の群島は皆水成岩を以て組織せられ其脈遙に琉球群島に連る故に此地脈を琉球帯と稱す
 琉球帯の西部に並列せる群島は皆火山質にして霧島帯是なり最南を鳥島とし横

當り島寶島、惡石島、諏訪瀬島、臥蛇島、永良部島、黒島、硫黄島、竹島等の列島此脈中にあり皆火山作用活潑なり
 九州と朝鮮半島との間に横はるを對馬とす(周回百八十一里あり)島形南北に長く中央の海峡によりて兩島に分る南を上島(或は上縣)とし北にありて大なるを下島(或は下縣)と云ふ下島の中央に三岳あり肥前との間は對馬海峡なり壹岐は對島の南にありて周回三十五里半なり島形殆ど圓形なり
 ○處誌 九州は國九個あれば此名あり古の筑紫にして國祖基業の地なり日薩隅の間には太初尊等の都し玉ひし所各地にあり是を以て人口も夙に繁殖せしより今も住民の割合頗る稠密なり○人質は一般に武健勇敢にして異態なり山間の民は粗野なるを免れず北部の人は稍々怜慧なれども南方に至るに従ひ性剛悍を加ふ所謂南方の強なり
 筑前は往昔九州探題の在りし地にして九州の中央府たりし且つ京坂との來往繁きを以て其發達九州の最たり古來對外の衝に當り其遺跡多し中古以來黒田長政侯福岡に封せられ世々其所領となり彼の貝原益軒、松林飯山及志士平野國臣等は

當國出身の傑士なり○福岡市は國の北に位し博多を合せて一市とし人口六萬一千に及び博多灣に臨める形勝の地なり福岡城は黒田侯の築く所にして世々其居城たり今歩兵第二十四聯隊を置く九州鐵道線路に當り門司より四十七哩あり●箱崎は形勝の地にして八幡宮を奉祀し祠頭の『敵國降伏』の勅額は永く國威と共に輝けり●香椎には神功皇后を祭る神社あり皆福岡近傍にして鐵道線路にあり○又太宰府は博多より九哩なる二日市驛の東十八町の所にあり菅公を奉祀する天滿宮あり往昔九州の治所にして都府樓の跡を存じ天拜山は其西にあり●博多は特別輸出港にして重もに石炭米穀を輸出せり
筑後は小國なれども筑紫平原の中央を占め農産頗る豊なり○久留米市は筑後川の南岸にあり有馬氏の舊封地にして人口二萬七千あり耕の産地にして高山正之の墳あり福岡より二十二哩あり今第二十四旅團を置く●高良山其東に峙つ武内大臣を祀る玉垂宮あり頂上の臺地は菊池氏の少貳大友と對陣せし地なり○筑後には南に大牟田町あり石岩の産地なるを以て近代俄に繁榮に赴き人口一萬六千となり柳河町は平地の間にあり立花氏の舊城市なり

豊前は福澤諭吉翁を始め近世學者を出す多し○中津町は豊前の山國川の吐口にあり奥平氏の城市にして人口一萬四千あり●宇佐町は其南部にあり有名なる八幡宮あり森嚴の神社なり清應朝臣の事蹟に關し能く人の知る所なり●小倉町は豊前の北部蒲生川流域にあり人口二万を有す其城は元々小笠原氏の居城にして今西部都督部及第十二師團を置く門司より三哩福岡より四十四哩なり其南に豊津あり今中學校あり門司は九州鐵道の起點にして九州鐵道會社あり馬關と相對して内外の咽喉を扼し海路亦便なり此邊は特別輸出港にして石炭米穀を出し近來俄に繁榮に赴き人口既に二萬二千あり
豊後は曾て大友氏の割據せし所近世帆足萬里及廣瀬淡窓僧五岳其他詩人多し○大分町は人口一萬二千あり豊後の集落地にして今縣廳を置き頗る繁昌せり●豊後には臼杵(人口一萬)佐伯竹田日出等の小都會あり
肥前は龍造寺氏の割據せし所なり後鍋嶋氏佐賀に治す長崎は古來の外交場に於て本邦洋學の種子は實に此地より輸入せり當國よりは古賀精里及び維新の際數多の志士輩出せり○佐賀市は肥前の川上川流域地を占め鍋嶋侯の舊居城あり人

口殆三万に及び九州鐵道の支線に當り交通便利なり●外に小城、大村、蓮池、鹿嶋等の小都會あり

長崎市は從來外國との交易場として長崎奉行を置きしが維新後外交の頻繁なりしより益々繁昌し人口既に七万二千に進り外國人居留地あり港内深くして東洋の良港と稱す外國貿易盛なり第五高等學校醫學部を置く○嶋原半嶋に湊町あり●唐津、口の津の兩港は特別輸出港にして重もに石炭の輸出所なり

肥後には九州中央の大國南朝北朝の頃菊地氏據りて孤忠を致せし所後佐々加藤、小西の諸將之を領し中古以來細川侯五十四万石に封せらる細川靈威侯は其藩主にして秋山玉山、横井小楠は其藩士なりし

熊本市は九州中央の都會にして白川、坪井川を帶ひ人口七万あり細川侯の舊治所なり熊本城は加藤清正の築く所にして西陲の雄鎮と稱す西南の役に賊の國中にあること數月遂に陥ること能はざりし今第六師團を置けり此市には維新前時習館と稱する藩學ありて文學盛に行はれ現に高等學校及九州學院等あり今尙九州學問の叢園なり門司との間百二十一哩福岡に七十四哩あり是より鐵道南方八代

に通せり近郊に成趣園と稱する泉石の勝地及清正公を祈る本妙寺あり●熊本の南二十二哩に八代町あり人口一万一千あり九州鐵道の終點にして門司より百四十三哩あり其他、人吉、宇土、高瀬、山鹿等あり三角港は築港以來良港となり特別輸出港として米穀、石炭を輸出す

日向は本邦中最も古き國名にして神代にありて神々の往み玉ひし國なり後世島津氏の封地となり安井、息軒及勇士谷村計介の出身地なり○宮崎町は人口一万に満たざれども縣廳あり日向の集合場なり其他日向には都城(人口一万三千)延岡、高嶺、細島等の小都會あり

大隅も太初、の古國後世島津氏の領たり地僻隅にして都會少く僅に加治木及ひ畑草の本場たる國府港なる濱市、末吉等あるに過ぎず

薩摩は世々島津氏の嗣居せし所にして西陲の強藩なりし維新の際藩主齊彬公、西郷隆盛、大久保利通を始め數多の志士輩出せしは世人の徧ねく知る所なり○鹿兒島市は我最南の市にして甲突川の畔、鹿兒島灣に臨み城山其後にあり人口五万四千を有し島津公世々七十万石の舊城市なりし峻秀の士多く出づ造士館あり城山

は市の西にあり西郷隆盛以下自盡の地にして墳墓其麓にあり●薩摩には市來阿久根、隈之城、縣山、出水等の小都會を有す

壹岐は我國の最小國面積僅に八方里半に過ぎず島内に勝本の小都會あり

對馬は朝鮮海峡に横はり古の馬韓と相對せるを以て是れ國名の基源なりと云ふ

此國は世々宗氏の領する所にして外寇の衝に當るを以て居民敵愾の實に富り

○島内の集合地を嚴原町と云ふ上島にあり長崎縣の島司廳ありて警備隊を置く

竹敷港は要港と定められ堅固の砲台あり●又嚴原、鹿角、佐須奈の三港は朝鮮との

通商貿易場と定まれり

○氣候 本道は我邦の内部にあれば氣候固より溫暖に其南端には半熱帶の植物

を産す同温線は南部の十七度より北部の十四度半の間にあり冬は七度乃至四度

を平均とし肥後筑後の内地は夜間に至れば頗る寒氣を増し零點下七八度に降る

ことあり故に冬間は霜繁し然れども降雪は一般に少く二三寸に積ると稀なり夏

は暑氣割合に強からず二十六七度を平均とし三十五六度に昇るは甚だ稀なり中

國北陸の暑氣は却て九州よりも強きことあり然れども極暑の候は夜間に至るも

晝間の温度持續して涼風全く風きて溽暑堪ゆべからざることあり且つ暑氣は六月上旬に始まり九月下旬に至らざれば止まず其間頗る永しとす

雨量は一般に多く薩隅及び日向の南端は本邦多雨の地にして宮崎に二千六百五

十六耗鹿兒嶋に二千八十七耗の平均あり以北は次第に減すれども大抵千五百乃

至二千耗の間にあり對馬は二千三百五十耗あり九州は總て暑候に多雨特に春雨

又は時雨期に多きも梅雨を最多とす寒候に至れば連日晴朗のこと多し

夏より秋に移る候には天氣稍と不穩にして時に遙かの南海中に發起せし颶風突

進し來りて大害を及ぼすことあり而して其風は常に南西より北東に進行せり

○生業物産 九州は氣候温暖なると雨濕多きか爲め諸種の地産物能く生育し筑

紫瀨平原には廣き耕作所ありて夥しき農産物を出す米質良好の稱ある肥後米を

始めとし二筑雨豊皆良米を産せり本道より産する米の總收穫年々六百五十万石

(二人に付一石七升)に下らず麥も此等の平原より年々三百二十万石を産す筑後の

平原には檀を植へ夥しく木蠟を製し肥後川を下りて若津港より輸出す甘藷は各

地皆能く適すれども殊に日薩隅を本場とす甘藷を稱して直に薩摩芋と稱するに

至る肥後は粟を産することの多き全國第一にして兩筑は大豆を出す甘蔗は南部各地に栽培して砂糖を製す煙草は薩摩兩肥を最良とし大隅の國府の如き本場と稱せらる此外綿藍等諸種の農産物皆適せざるはなく要するに九州は大農地なり
 蠶業は頗る幼稚なれども近來漸次發達の傾きあり○又所々の草野には牧畜能く行はれ薩摩肥後の駒古より名あり農馬の多きは九州の特有にして太陽の如きは一里方内に三百頭以上あり
 鐵産 九州は石炭を埋藏すること夥しく其産地は肥後の北部より兩筑豊前の北部及び肥前に亘る地域處々に炭田あり年々二百萬噸以上を産す三池高嶋唐津天草は特に著名にして三池は一日に千噸以上を出す黄金は薩摩大隅の間處々に産し年額八十萬以上を産す即ち日本第一の金産地たり銀も亦金産地より産せり●其他は肥薩兩諸所より銅を産し肥前薩摩に陶土日薩豊に錫肥後に石紙肥前に石材等を産せり
 水産 九州は島地なれば海産少なからず特に肥前は濱海地多く且つ潮流の衝に

當るを以て海産最も多く我邦好漁場の一なり故に漁業者少からず其最も厚利なるは五島附近の捕鯨なり冬期最も多獲にして五島鯨の名あり之に次ぎ鯧鯨海草とす九州沿岸は一般に鯛牡蠣多く有明沖は鰕多し薩南海は永良部鰺を産す大島及び其他には珍奇の海産あり内海岸には食鹽を産せり
 工業 九州は將來の一大工業地と稱すべし内に石炭多く外は海外に向て輸出するに便なり現今は資本豊ならざるを以て氣力を應用する大工業なしと雖ども紡績業の如きは處々に行はれ織物は古より名あるものあり即ち久留米緋博多織薩摩緋は最も著しきものなり又陶器には肥前に有田伊萬里焼あり薩摩に楯宿焼あり有田焼は赤釉金泥を以て畫き薩摩焼は幽婉なり南部には巨大の竹を生ずるを以て鹿兒島より竹器を出す兩豊其他の壘表は多産なり各地釀酒多く肥薩には一種の赤酒及燒酎を産す
 林産 氣候の温暖なるを以て廣大の森林ありて良材に富めり南部は熱帯産の榕樹帯に屬し潤葉の巨樹鬱鬱たり特に樟の大木多く製油船材に有用なり松は山の半腹まで生茂し大木巨竹は他に見ざる物を産せり

琉球群島

九州の南部海中なる薩摩群島の最南與論島より南西に羅列する五十五島を總稱して琉球群島と云ふ島彙自ら二群に分る北を沖繩諸島とし南を先島諸島とす全島の面積百五十七方里にして人口四十一万あり政事區畫は左の二區五郡に分てり

琉球國 二 區 (那覇) 首里

五 郡 (島尻)

中頭

國頭

宮古

八重山

沖繩縣 (二區) 五 郡

沖繩諸島中の主島を沖繩島とす周回百十餘里あり長さ四十里に亘り幅一里より九里の間に出入し虬龍の東北に向ふか如し故に琉球は流虬即ち虬龍の水に遊ぶが如き狀より名けられたりとぞ島中を國頭(北部)中頭(中部)島尻(南部)の三郡に別つ島の北端は國頭崎と稱し南端を喜屋武岬とす島内には地形に沿へる一帯の山脈ありて平地に乏し最高山を嘉津宇岳とす高さ千五百五十餘尺に過ぎず島内には固より大河なく只大川(四里十二町)を最長とするのみ

那覇は島内第一の繁華なる都會にして島尻なる那覇江の北岸に建てり其位置東

經百二十七度四十一分、北緯二十六度十三分にあり人口三万三千を有し灣内の風光頗る佳なり沖繩縣廳ありて琉球全島を管せり此港は鹿兒島港を距ること三百七十三哩大島へ百七十九哩あり

那覇の東北一里十町に首里あり舊王城のゐる地にして侯爵尙氏世々の居城たりし中古保元の敗將源爲朝餘勇を此地に奮ひたりと云ふ人口二萬五千あり國頭に運天港あり又島中の要港なり

先島群島は沖繩群島より西南西に羅列する島彙にして即ち古は小琉球と稱したる島なり重なるものを宮古石垣入表を三大島とす入表島の南に波照間島あり此島は北緯二十四度六分に當り僅に南すれば熱帶國なり又臺灣を距ること僅に五十七哩なり故に屢々支那と交渉あり入表島の西なる與那國島は東經百二十二度四十五分にして那覇を距る三百六十一哩にあり

氣候は南方海中にありて且つ黒潮の流域に立つを以て氣候著しく溫暖に且つ大陸を距る島なれば全く島性氣候の本色を現はし寒暑の差甚たしく冬は十六度半を平均とす即ち九州の四月下旬に同しく夏は二十七度七を平均とするを以て九

州より稍々高きのみ然して最高三十四度に超ゆることなし是を以て却て畿内北陸の極暑に比して低温なり而して年中寒暑の差は僅に十一度二なり故に世人の妄想する如き酷暑の地にあらず且つ夏日は西南風常に吹きて熱を掃ひ却て清涼を覺ゆ只日夕風止み夜間も晝間の暑を持続するは内地に異りとす又四季の別殆どなく年中寒暖の二期あるを異なりとす

雨量は頗る多く二千四百七十耗を平均とし春期を最も多雨とす陰晴常ならず驟雨屢々至り夏秋の颶風は甚た強し

産物は氣候の以上の如くなるを以て植物は半熱帯のもの能く繁茂し稻禾も二月に挿秧して七月に至れば収穫す最も能く適するは甘蔗にして砂糖は第一の産物なり次は藍にして盛に産し琉球餅と稱する紺地織として輸出す甘蔗は夥しく産し琉球芋と稱せらる泡盛酒は本嶋の特産にして内地にも送れり次に細上布夜光貝は輸出の重なるものにして年々百万圓以上を産す其他は蘇鉄芭蕉園葱飯匙情海生動物等の珍奇なるものなり米茶等は嶋内の産にては不足を告げ内地より輸入し清酒も亦内地より輸入す

北海道誌

本道は古より蝦夷が島と稱せられ蝦夷人即ち今のアイヌ人の住地たりしを以て名けられたり古の蝦夷と稱せしは其區域廣く奥羽北部をも併せ稱したりしが齊明帝の時阿部比羅夫の征服により始めて津輕海峡を境とし其以北の島を蝦夷と稱するに至れり明治二年八月本島を十國に分ち千島を加へて十一國とし北海道と改稱せり明治八年樺太島を露西亞に與へて得撫群島(千島の北部)を我に納れ千島國に屬せしむ●千島列島は連々相亘りて於虎突海を擁して露領に密邇し其北端は露領堪察加と相距ること僅に三裡に過ぎず

本島は本州に次く大島にして其面積六千九十五方里あり殆ど葡萄牙國に均しく人口は四十七万なれば一方里に七十七人を容るゝに過ぎず人煙甚だ稀に空野多し若し畿内の如き人口の密度に至らしめんには尙ほ三千四百萬の人口を容るべし然れども現今は人口の増加頗る速にして明治五年には一方里に付僅に二十人なりしか同九年には二十五人となり十五年には二十九人となり二十年には三十九人となり二十八年末には七十七人に増加したり

○政事區 本道は始め開拓使を置き全道を管せしめしが後札幌函館根室の三縣に分割して之を治め後又廢して北海道廳を置き全道を管す現今にては未だ自治制代議制の如き内地と同一制度を實施するに至らず道中を左の十一國二區八十八郡に別つ

渡島國	二區	函館	上磯	茅部	松前	檜山	爾志
後志國十七郡	一區	久遠	奥尻	太櫛	潮棚	森都	鳴牧
石狩國	一區	札幌	石狩	厚田	濱益	空知	夕張
天鹽國	六郡	増毛	留萌	苫前	天鹽	中川	上川
北見國	八郡	宗谷	枝幸	利尻	禮文	網走	斜里
膽振國	八郡	山越	室蘭	有珠	虻田	幌別	勇拂
日高國	七郡	浦河	沙流	新冠	静内	三石	様似

十勝國	七郡	廣尾	十勝	中川	河西	河東	上川
釧路國	六郡	釧路	白糠	阿寒	足寄	上川	厚岸
根室國	五郡	根室	花咲	野付	標津	目梨	
千島國	九郡	國後	擇捉	紗那	振別	藥取	色丹

○地形 本島の形は殆ど斜方形をなし山脈其隅より隅に亘り中央に集まるを以て中央は地形自ら高隆なり然れども處々の沿水地には非常に廣大なる原野あり●石狩原野は地積五億七千八百万坪餘に亘り天鹽原野は二億一千七百万坪餘十勝原野の如きは實に八億九千三百万坪の地積を占めたり以上の原野は何れも土地肥沃なるを以て北海道の三大原野とす
以上三大原野に次ぎて釧路原野は諸流域を合計すれば四億七千四百万坪あり根室原野は東に向て開け三億八千万坪を占め北見原野は海岸の低地にして二億七千九百万坪あり故に全道の原野を合計すれば無慮二十八億六千七百万坪九十五万五千七百町歩即ち現今全國の耕地殆ど五分の一に當るに上る此等の原野は皆殖民開墾し得べきものとして紹介せられたり北海道は實に原野に富むると謂ふ

べし。然れども現今は石狩原野の一部を除く外は人煙未だ稀疎にして沃地空しく人の耕耘を待つものゝ如し

○山誌 本島を貫く山脈の重なるもの二つあり一は所謂蝦夷山脈にして其一は千島火山脈なり蝦夷山脈は樺太山系の最北にして樺太島を組織したる山脈の一旦宗谷峽に陥り再び宗谷岬より起りたるものにして南々東に走り北見天塩の境を亘りて宗谷岳千登盤牛山及天鹽岳等となり山勢南に走り岬の中央に於て千島火山脈と相交はり最も高峻なり是より十勝日高の境となり神威岳藥古山あり遂に襟裳岬に至りて陥没せり岬形亦岬の両端を張るか如きは此山脈あるを以てなり

千島火山脈は千島群嶋を噴起し根室に渡りて硫黄岳となり直に西に走りて釧路岳及雄阿寒雌阿寒の火山となり岬の中央に於て蝦夷山脈と交叉し十勝岳石狩岳の如きは其脈間を破りて噴起したるを以て山彙甚だ鬱結せり是より稍々南に折れて西に趣き殆ど石狩と膽振及後志との境となり時々烈しく噴火する樽前山後方羊蹄山及紋別岳硫黄岳等あり殆ど圓形なる内浦灣邊を環りて有珠岳太櫛山駒

岳等十個の火山あり故に英人は内浦を火山灣と名けたり是より渡島の大川岳惠山となりて津輕海峽に至る

○水誌 本島は其幅員廣きを以て自ら大河を養成せり本邦第一の長流と稱せらるゝ石狩河の本流は中央の山壁石狩十勝兩岳の間より發し西に流れ直下二千尺餘の兩大瀑布となり幽谷を刻して上川原野に出て尙ほ西に趣き北より來る最大の支流雨籠川を容れ洋々たる巨浸となり南に下り下流は西に折れて石狩港に注ぐ海口は幅四百間長さ源より一〇六十七里とす此上流の上川原野は離宮地に探定せられ下流は船舶輻輳して鮭漁夥しく流域は將來最も有望なる石狩原野なり

天鹽川は石狩川に次ぎ源は天鹽岳に發し蝦夷山脈に沿ふて西南に流れ屈曲甚た多く下流は西南に曲りて天塩に於て日本海に放水す長さ七十里に及び流域は即ち天塩原野なり

大津川は中央の山彙に發源し十勝の水を集めて南下し流下は兩分し東に流るゝを十勝川とす内に大なる三稜洲を抱き源より四十四里にして海に入る此流域は

十勝原野なり以上三川を北海道の三大河とす之に次く大河は釧路に久摩川あり其灌域は低平にして湖沼多し釧路原野是れなり●常呂川は北見原野の中央を流れ灌域廣し●根室原野の中央を流るゝを標津川とす其南に西別川あり●其他日高に砂流川後志に後志川あり此等の灌域は皆他日殖民して生産地たるに適當なり

北海道には湖沼少なからず北見の猿間湖は周回二十里東西に長く海水とは沙嘴一線を以て限れり●風連湖は根室の南部にあり周回十五里あり何れも澤湖なり又膽振の志笏周回十五里洞爺十三里釧路の路釧七里阿寒六里諸湖の如きは本道噴火の猛烈なりしを告ぐる遺跡にして蓋し火山湖なり

○沿海 嶋形菱形をなすを以て著しき岬は宗谷襟裳の兩翼と渡嶋根室の兩半嶋なりとす是れ此嶋の赤罈形をせる所以なり其尾に當る渡嶋半嶋は其端兩分して東を恵山岬と云ひ西を白神岬と云ふ内に函館灣を擁せり根室半嶋も兩分して知床岬は東灣を指し納沙布岬は東を指せり其内は即ち根室灣なり

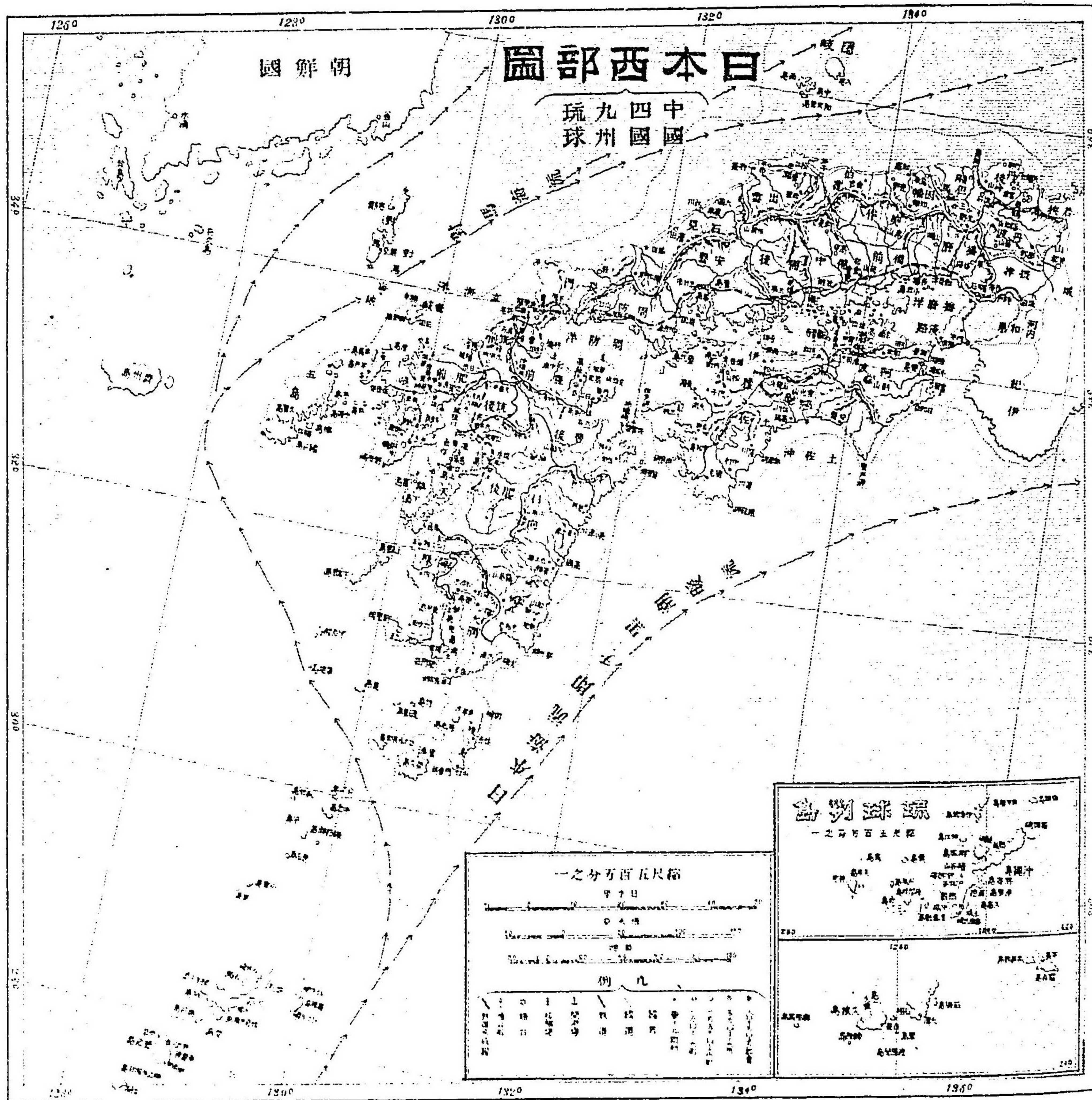
港灣に就て示せば北見海岸は緩なる灣回を以て北に向ひ朔風怒濤を鼓して佳港

に乏し釧路には厚岸灣あり其東岸に厚岸港あり日高沿岸は灣入少なく僅に浦河灣あり膽振渡嶋の間に深く灣入するを内浦とす世に火山灣の稱あるものなり灣口の東に槍崎突出し内には異日我海軍港たるべき室蘭の良港あり實に北門の要鎮たるべきものなり

西部の沿岸に廻れば渡嶋に福山若江の兩港あり後志の中央より北西に突出せるを積丹岬とす岬の西に岩内壽都の兩港あり岬の西に小樽の佳港あり積丹岬と石狩の沿岸とを以て擁する灣を小樽灣とす石狩川の海口に石狩港あり天鹽には増毛苫前天塩の三港あり天鹽港の北西海中に利尻禮文の兩火山島あり

本道を環る海中には暖寒の二海流あり其東南海には親潮の寒流南に向て流れ西北海に來潮流及樺太の北流南に流れ又黒潮の暖流北に向て流るゝものあり

千島列島は根室灣より斜に東島に羅列する三十二島の總稱にして洋人は之をクリル群島と稱す皆千島火山帶の上に噴起したる群島にして島形總て北東に延び現に島中に四十五個の火山あり根室灣口に一島あるを國後島とし其東に色丹島あり其北東に續くは群島中の最大なるものにして擇捉嶋とす是より北東の數十



嶋は露國と樺太を以て交換したるものなり得撫嶋より北十嶋を距て、幌漣嶋あり其東に占守島あり之れを我版圖の極東とす幌漣嶋の西にアライト嶋あり是れを我版圖の極北なりとす
 ○處誌 此嶋は元と土人「アイヌ種」の專住する所なりしが其後内地人の經營により土人は今僅に邊隅に蟄居するに過ぎざるに至る故に本道の國名地名は大抵「アイヌ語」より出でたり
 『アイヌ』人は蓋し古昔我國の先住種にして殆ど東半部を占め人口も甚だ多かりしが大和種族の次第に發達せしが爲め漸次東北に退居し人口も亦大に減じ今は一万五六千に過ぎず此種體格頗偉大に鬚髯多く顔面は蒼色を帯び額高く眼窠深くして鼻尖れり此種は元と西伯利邊より樺太を経て進入したるものなりと云ふ内地人とは性質言語習慣を異にし男子は弓箭を以て禽獸を獵し漁具を以て魚貝を漁す女子は衣を製し食を調ふ總て山河を跋渉することに巧みなり要するに一種の蠻族なり
 内地人の移住者は土地を拓き遺利を拾ひ企業頗る盛なり他日北地に一樂境を開

くに至るや必せり。波島は最も内地に近きを以て古より人煙頗る繁殖せり。函館區は國の南端波島灣にある良港にして北海道の咽喉たり人口五万千を有し全道物貨の配集所にして横濱を距る五百十八哩にあり五港の一にして外國との互市場場なり盛に海産物を輸出せり。福山は松前氏の舊城市にして西南岸にあり人口一万一千あり。江差は西岸にあり人口一万五千あり其東岸に森町あり。後志は到處山岳多く平地に乏し。雖も沿岸は著名の漁業場にして鯨漁夥し。小樽は日本海に臨むる良港にして函館より海路二百九十八哩にあり本道鐵道の起點に當り札幌室蘭及び炭坑と汽車相通す斯く海陸の便を占むるを以て貨物船船常に輻輳す人口三万五千あり。壽都は其西にある良港にして測候所あり。石狩は石狩川巨浸の流域を占むるを以て肥沃の土地多く將來最も有望の國なり。○札幌區は全道の中央市場にして道廳を始り屯田兵司令部農學校諸官衙諸會社等多く爰にあり人口四万六千にして石狩平原の西部を占め鐵道は小樽室蘭及諸炭坑と相通じ交通便にして百貨輻湊せり海岸に石狩灣あり。

天・菴は天菴川の流域頗る廣く沿海は鯨の好業場なり●海岸に瑣毛●留萌●鬼鹿●舌前等あり

北見は於虎突海の西岸一帯を占め後に之を抱けり地味稍々肥へたり然れども人烟甚だ稀にして僅に宗谷紋別網走等なれども村落に過ぎず

膽振は渡島の東に隣り其南部は内浦灣(火山灣)を抱き形勢頗る佳なり○室蘭港は内浦に臨み輪崎其南を擁して別に一灣をなせり港内波穏に天然の良港なり既に軍港に撰定せられたり鐵道札幌と相通じ海陸の便あり東に苫小牧あり

日高は西南方は海に臨み東北に蝦夷山脈を負ふ氣候暖にして頗る牧畜に適し新冠牧場を始め牧場多し浦河●幌泉の二大邑あり

十勝は十勝川流域の原野其區域甚だ廣く他日廣大の農産地を拓くべしと雖も現今は國內未だ著名の都邑をなすに至らず廣尾は人口稍々繁榮せんす

釧路管國は親潮寒流の衝に當り氣候頗る寒冷なり此國の内地方西北に亘りては實に本邦第一烈寒地とす○釧路港は久摩川の吐口にあり特別輸出港にして重なるに國産の硫黄を出せり其東に厚岸灣あり灣内に厚岸の良港あり他日有望の港

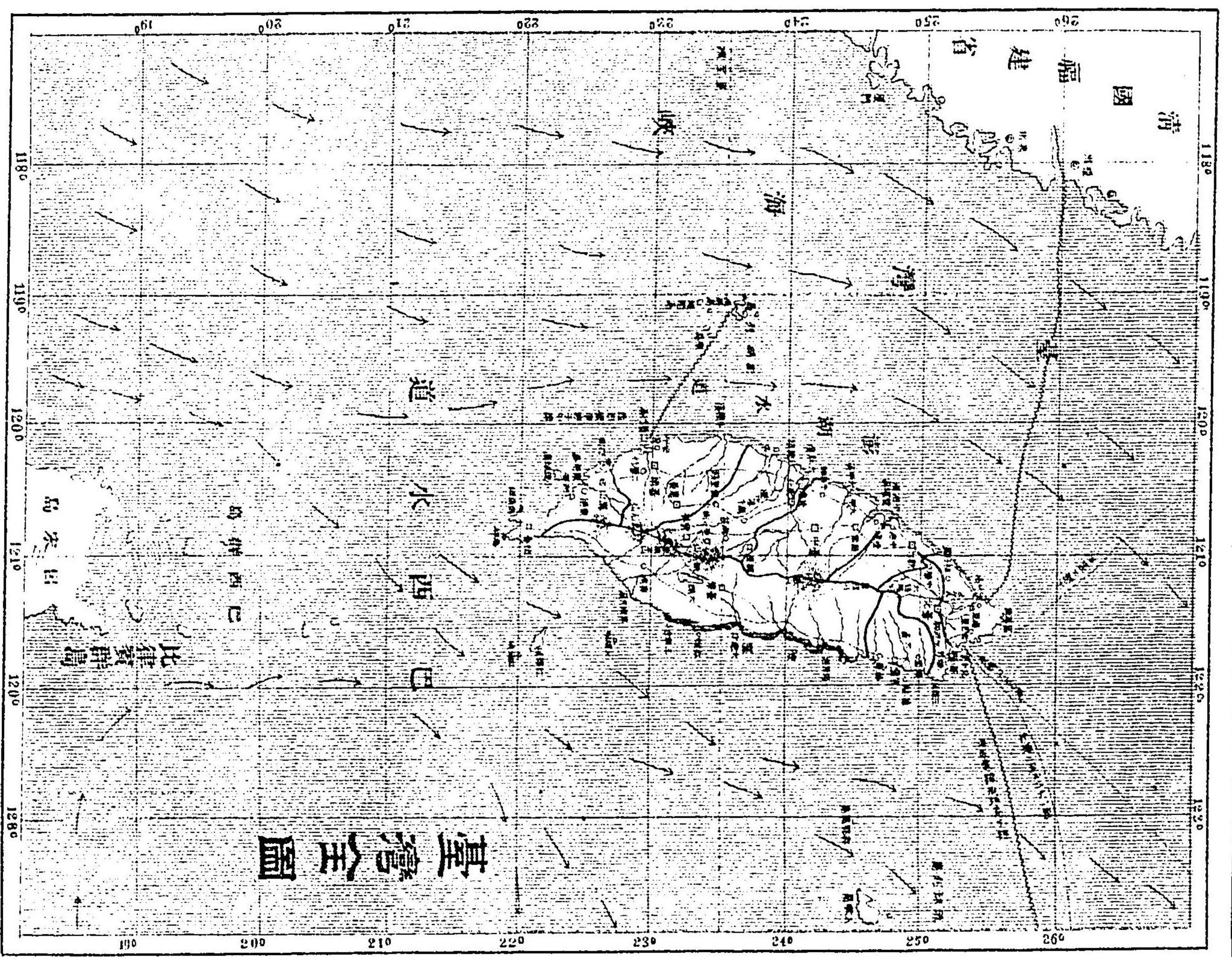
なり●根室は本島の東端にありて東に向ひ根室灣を抱き海岸に平地を存せり○根室港は東邊の要港にして花咲半島に位し函館を距る海路二百九十哩海産物の集配地なり冬季港内氷結するの不便あり人口一萬八千を有す其東南に花咲港あり

千島は北海道本地の東北より連る三十二個の群島を以て一國をなす火山島なり沿岸は親潮に洗はれ冬季烈寒にして風強く波高し全國の面積は千三十三方里にして殆ど四國島に匹敵すれども人口は僅に千五百に過ぎず故に無人島多し海軍大尉郡司成忠同志と共に極北占守島に渡航移住し奮て北部數島を開拓せんとす國後のトマリ擇捉島の紗那は國內の名邑なり又新知島のプロトン港は將來望ある良港なり

○氣候 我邦の極北の一島なれば氣候は固より寒冷なり然れども内地人の想像するが如き烈寒の地にあらす故に本道の氣候は將來有爲の青年輩は最も注意し置かざるべからず歐洲に於ても是に比すべき寒地少なからずされど文明の事業を企つるに於て寒も妨げなく現に隆々として日に進歩するにあらずや況んや本

道の如き住民稀疎なるを以て寒氣割合に強しと雖も人口増殖するに至れば愈々
 温和に赴くべし
 本道の全年平均温度は九度乃至四度の間にあり渡島極南に於ては八九度にして
 陸幅廣き中央に於て殆ど楕圓形に四度の寒地を現はす而して極北の沿岸は却て
 六度乃至是れ全く海流の影響によるなり故に本道の温度は南北に關するよりも
 寧ろ東西に於て差あり即ち西岸に温暖にして東岸に寒冷なる傾きあり是れ西岸
 は暖流の支派の流通するによるなり
 季節に對する氣候を説けば中央内地は冬期頗る烈寒にして石狩の上川は零點以
 下三〇・六度七に沈降せしとあり是れ我邦の最低温度にして毎年極寒は零下三十
 度以下に降るは稀ならず此を日本極寒地とす然れども西岸は稍々寛和にして札
 幌は最低零下二十三度とす而して一般六七月に至らざれば春光融和の候たる
 能はず桃櫻梅李芳を圖はすは六月上旬なり故に夏期短き上に又冷涼なり八月の
 平均は十八度(經)より二十一度(緯)の間であり併し時に三十二三度の高温を示すと
 あり特に中央を然りとす故に上川の如きは最高最低の較差殆ど七十度の多きに

及べり
 雨量は概して多からず平均一千二百五十耗より六百耗の間にあり其配布は西南
 岸より中央山地に亘りて多く東北岸に少し是を以て大河は西南岸より中央山地
 に綿養せられて日本海に排水す又夏より秋に亘りては稍々降雨あれども冬より
 春に至る間雨雪少し故に積雪は寒地の割合には深からず北國地方よりは尠に少
 し風は一般に強く其西岸は冬期に至れば日本海を渡り来る風非常に強烈にして
 殆ど強風塵日なし是を以て寒氣及び氷結は一層の威を逞ふするに至る
 千島は海水に圍まるゝ嶋嶼なれば寒氣は中央内地に比すれば却て緩なるも積雪
 は甚だ深く吹雪海上より來り寒氣俄に加り積雪の爲め家屋は埋没して低地は積
 雪丈餘に及び僅に小孔を穿ちて出入するに至ることあり春季に及へば巨大の水
 山崩流し來り往々船航を害することあり
 〇生業産物 北海道は意外に大なる島にして此位の面積を以て優に獨立する國
 也其面積は九州に四國を合せ尙ほ其半を加ふる程の廣袤あれば生産地域甚だ
 廣し然れども未だ人口四十万に過ぎざれば現今にては生産額は未だ多からず



噸を出すの計畫なり之れが爲め鐵道を布設し各炭坑間を連絡せり硫黃は石炭に
 次ぎて産額多く年々五百萬貫を産す即ち全國産の大數は本道より出せり其中斜
 路の火山地方に於て最も盛なり
 水産の北海道に豊なるとは獨り本邦中の冠たるのみならず所謂世界の豊魚帶中
 にありて世界三大漁場の一に數へらるされは魚藻に富めるは勿論鰻魚鰩魚鱈魚等
 の貴重産あり併し今最も多産あるは鯨なり其沿岸の漁する所實に積て山を成す
 其一年の産額五百萬圓に上れり其他鮭魚鱈魚鰩魚等は重要な産にして水産の合
 計六百五十萬圓に下らず然れども水産の分布豊富なるに對しては實に少額と謂
 ふべし特に數千萬金に値する北海の貴重水産年々米國露國英國等より來る獵船
 の爲め捕獲せられ我國人は殆ど其利を領するを得ず將來は必ず日本人の專有せ
 ざるへからざる一大天産なり

臺灣誌附澎湖諸島

新版圖たる臺灣は明治二十七八年戰勝の結果により清國より割讓せる島地にし
 て從來歐人は之をフオロモナ(Formosa)と稱したり是れ葡萄牙人の始めて此島に到

少し時鐘林鬱蒼として白波の裏に翻起するを望みて名けし美。麗の意なり我國よ
きは曾て高砂島と呼び或は我崎羅洲に對して中。諸島と稱し又は東。蕃島と呼びた
り政治區畫は總督府の下に左の六縣三廳あり

臺灣 臺北縣 新竹縣 臺中縣 嘉義縣 臺南縣 鳳山縣

總督府 宜蘭廳 臺東廳 澎湖廳

○位置 本島は琉球の南端より起り呂宋の東北に盡く西は臺灣海峡を隔て、海
國福建省に對し北緯二十一度四十五分に起り同二十五度十八分に達す西端は東
經百二十度七分より東端は同百二十二度に亘る長崎の西南海上六百三十七哩に
あり島形は楸葉狀をなし南北の最も長き所九十九里東西の最も廣き處三十三里
あり面積は凡二千二百五十三方里あり故に九州より稍々小なるのみ

○地形 本島の中央を南より北に亘る一列の中央山脈ありて島の脊梁をなせり
此脈は甚た高峻の連山を以て成り其高度南部に於て約九千〇五十尺北部に於て
約一萬尺のものあり中央より稍々南部に突起せる新高山は一万二千八百五十尺
にして實に日本第一の高山なり從來モリソン山と稱したりしか富士山より高き

を以て天皇時に此名を賜ひたり又中央より稍々北部に屹立するシルビヤ山も約
一萬一千三百尺に聳へ島内の双高峰なり此山脈あるか爲り臺灣島は自ら東部西
部に兩分せられたり

○東部は所謂生番地にして從來清國管理の及ばざりし所なれば野蠻の民ありて
危險多く跋涉者稀なるを以て其詳細を知り難しと雖ども中央山脈の外海岸にも
亦一列の連山ありて直に海に迫り海岸は懸崖絶壁をなし北部の峻岸の如きは高
六千尺に壁立し世界に著名なる峻岸なり故に碇泊地甚た乏し又中央山脈と海岸
山脈との峡間は高原性の平地をなし長大なる河流なきに似たり

○西部の地勢は臺灣海峡に向つて緩斜し一般に膏腴の沃地に屬す河は長大なら
ざるも處々に横流して臺灣海峡に入る此等の流域は特に天賦の沃地なり今河流
の重なる者を擧ぐれば島の北端に注ぐ淡水河は島内の最大河にして中央山脈に
發し上流を大姑陷河と云ひ北流して東南より來るシンシャム河を合せ臺北府の
西を過き東より來る基隆河を容れ三流相合して河幅四五丁の巨流となり西流し
て滬尾即ち淡水港より海に入る全流約二十里あり滬尾より臺北附近の大稻埕ま

て從來小汽船の往復ありし○此の河領は島内の最要部なり明治二十八年夏土賊掃蕩の爲り近衛兵の屢々苦戦せしは此河領なりし其南に大甲溪大肚溪東螺溪笨港河八掌溪厝行溪淡水溪等あれども皆細流なり故に清人は江又は河と稱せずして皆溪と稱したり以上の諸溪は概ね雨節には河流漲溢して土砂を流し河口に堆積し乾節に至れば水乾枯して河道は人道に代るものなり

○海岸 島地の東岸は斷崖海に迫るを以て良泊の地に乏し東北なる三貂角の波底灣は明治廿八年五月廿九日近衛師團の上陸點なり其南に蘇澳灣あり其間の近海に小龜山嶋あり以南は斷崖にして沿岸凡五十里の間稍々碇泊に適すへきは奇萊繡坡蘭黒石の三港のみ南端に拔搖港あり曾て琉球人の漂着して生蕃に虐殺されし所と云ふ嶋の最南角を南岬と稱す是より三十五哩の東海中に江頭嶼あり或は小呂宋と稱す

○西岸は東岸に反し平地海中に入るを以て遠淺となし泥沙沿海に堆積すれども良好の港灣所々に存す嶋の最北角を富基角と云ふ是より順次南に至れば淡水河口に淡水港あり竹塹港香山港鹿港安平港打狗港東港及風港あり南角を白沙又南

岬と稱し南岬と相對して南灣を抱く東港の西南海中に小琉球と稱する一屬嶋あり

臺灣の沿海には赤道より來る暖流あり嶋の南端に於て二派に分れ一派は臺灣海峡を過ぎて黃海に入り一派は其東岸を洗ひ北東に流れ九州四國及本州の南岸を洗ふ黒潮なり

○氣候 臺灣は其南部の三分の一は既に熱帶圈に入れども他の熱帶地の如く炎熱甚だしからず是れ全く嶋地なるによる全年の平均温度は二十一度乃至二十五度にして鹿兒島より高きと五度乃至九度なり北部は大概那覇に均しく南部は是より二三度の高温なり温度の最も低きは二月にして平均十三度乃至十九度とす故に冬間も北部は東京の四五月頃の如く南部は五六月の温度に同じ五月頃よりは頗る暑氣を覺へ七月に至りて最高に達し二十七度乃至二十八度餘を平均とし時としては四十三度華氏百十度に昇ることあり常に日中と夜間とにより大に温度を異にし日中は炎熱強きも夜間は冷涼を感ずるに至る是を以て疫癘の流行を來すとあり而して朝夕を最も爽快の時とす但し南部の夏季は夜間も三十二度